

京都市
結婚と出産に関する意識調査
【結果報告書】

平成21年6月

京 都 市

目 次

I 調査の概要	1
1 調査の目的	2
2 調査概要	2
3 報告書の見方	2
II 調査のまとめ	3
III 調査結果	9
1 回答者の属性	10
2 少子化について	15
3 結婚について	20
4 出産について	38
5 仕事と生活の調和の推進（ワークライフバランス）について	46
6 最後に	59
資料編	61

I 調査の概要

1 調査の目的

京都市では、平成17年1月に策定した子育て支援施策の総合計画である新「京（みやこ）・子どもいきいきプラン」※1（以下「現行プラン」といいます。）に基づき、市民・地域ぐるみで子育てを支え合う子育て支援の風土づくりを進めてきましたが、現行プランの計画期間が平成21年度までとなっていることから、これを見直し、平成22年度から平成26年度までの5年間の計画期間とする新たな計画※2を策定することとしています。

本調査は、この新たな計画の策定に際し、子育て支援施策の展開の方向性を検討する基礎資料として活用する目的で実施しました。

※1 次世代育成支援対策推進法に規定される市町村行動計画の前期計画（計画期間：平成17～21年度）に位置付けるものです。

※2 次世代育成支援対策推進法に規定される市町村行動計画の後期計画（計画期間：平成22～26年度）に位置付けるものです。

2 調査概要

- ・ 調査地域 : 京都市全域
- ・ 調査対象者 : 平成20年4月1日現在で18歳以上35歳未満の市民
- ・ 調査期間 : 平成20年12月12日から12月26日まで
- ・ 調査方法 : 郵送配布・郵送回収（無記名回答）

	調査票配布数	有効サンプル数	回収率
結婚と出産に関する意識調査	6,500	2,140	32.9%

3 報告書の見方

●回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。

●複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。

●図表中の「N（number of case）」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。

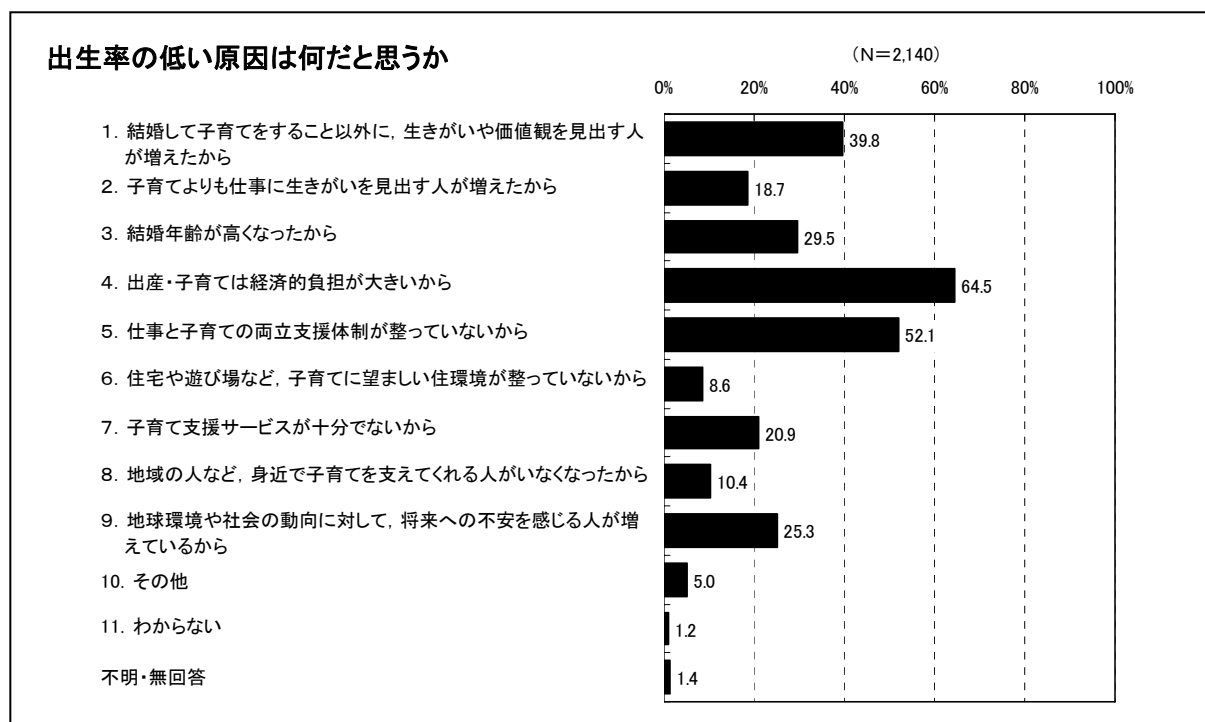
II 調査のまとめ

1. 少子化について

【調査結果からみる現状】

少子化が社会へ与える影響（問7）について、「2. 現行の年金制度や医療保障制度が成り立たなくなる」が75.7%と最も高くなっており、出生率が低い原因（問8）について、「4. 出産・子育ては経済的負担が大きいから」という理由が最も高くなっています。

出生率の増加（問9）について、必要があると考えている人は8割弱となっており、そのための対策（問10）として「(20) 児童手当など子育て家庭への給付施策の充実」「(4) 育児休業後復職時の前職保障」など、経済的負担の軽減、就労と子育てを両立するための支援策などが求められています。一方、効果があまり望めないとの回答が多いのは「(23) ゆとりある学校教育の推進」「(30) 男女の出会いの場づくりの支援」となっており、子育て当事者への支援が効果的であると考えている人が多いことがうかがえます。



※問8結果から引用

2. 結婚について

【調査結果からみる現状】

未婚の人に対して結婚の意向（問 11-1）について聞くと、9割が結婚を望んでいます。一方で現在結婚していない（したくない）理由（問 11-3）についてみると、男性は「10. 結婚後の経済的な生活基盤に不安があるから」が、女性は「6. 結婚したい異性にめぐり逢えないから」が最も高くなっています。

結婚生活の利点（問 12）について、約8割が「1. 利点があると思う」と回答しており、その具体的な利点（問 12-1）について「3. 精神的な安らぎの場が得られる」「1. 子どもを（産み）育てられる」など子どもを持ち、家族を持つことによる精神的な安らぎを得ることに対する回答が上位を占めています。

独身生活に関する利点（問 13）について、約8割が「1. 利点があると思う」と回答しており、その具体的な理由（問 13-1）について「1. 行動や生き方が自由にできる」が9割と特になくなっています。男性では経済的な余裕があること、女性では人間関係や社会的なつながりがあることが、独身生活のメリットとして高くなっています。

結婚について、男性は経済的負担や家族を養うことに責任を感じており、女性は結婚相手や家族、親類との人間関係に不安を感じている傾向があります。

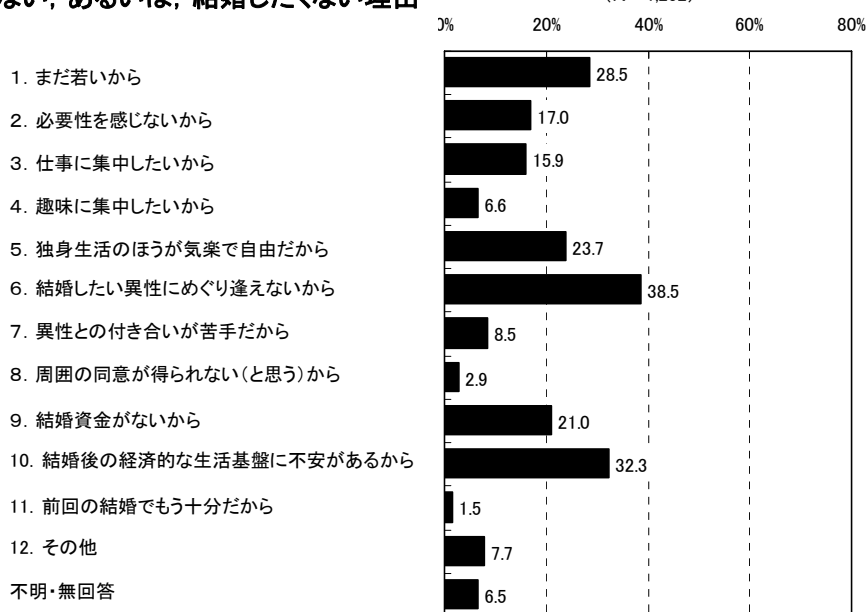
家族や家庭に関する考え方（問 17）について、結婚は個人の自由である、自分自身の生活も大事にしたいといった、個人の自由を守りたいという考え方が高くなっています。また、仕事よりも家庭や家族が大切といった回答や両親等からの子育ての手助け・支援を望む声も高くなっています。

結婚する機会を増やすための支援策（問 20）について、個人の問題だが支援策を行ってもいい、行うべきという回答が約7割を占めており、その内容（問 21）について「6. 子育てしやすい社会環境づくり」が3割を、「3. 企業等の雇用主に正規職員の雇用を働きかける」が2割を超えて高くなっています。

結婚の希望があるものの、経済的な負担感や人間関係に対する不安から、結婚・出産に足踏みしてしまう状況が浮き彫りになっています。ライフスタイルが多様化し、結婚は個人の自由であるという考え方が多数を占めていますが、一方で家庭を持つことの大切さも認識されていることが分かります。

結婚していない、あるいは、結婚したくない理由

(N=1,252)



※問 11-3 結果から引用

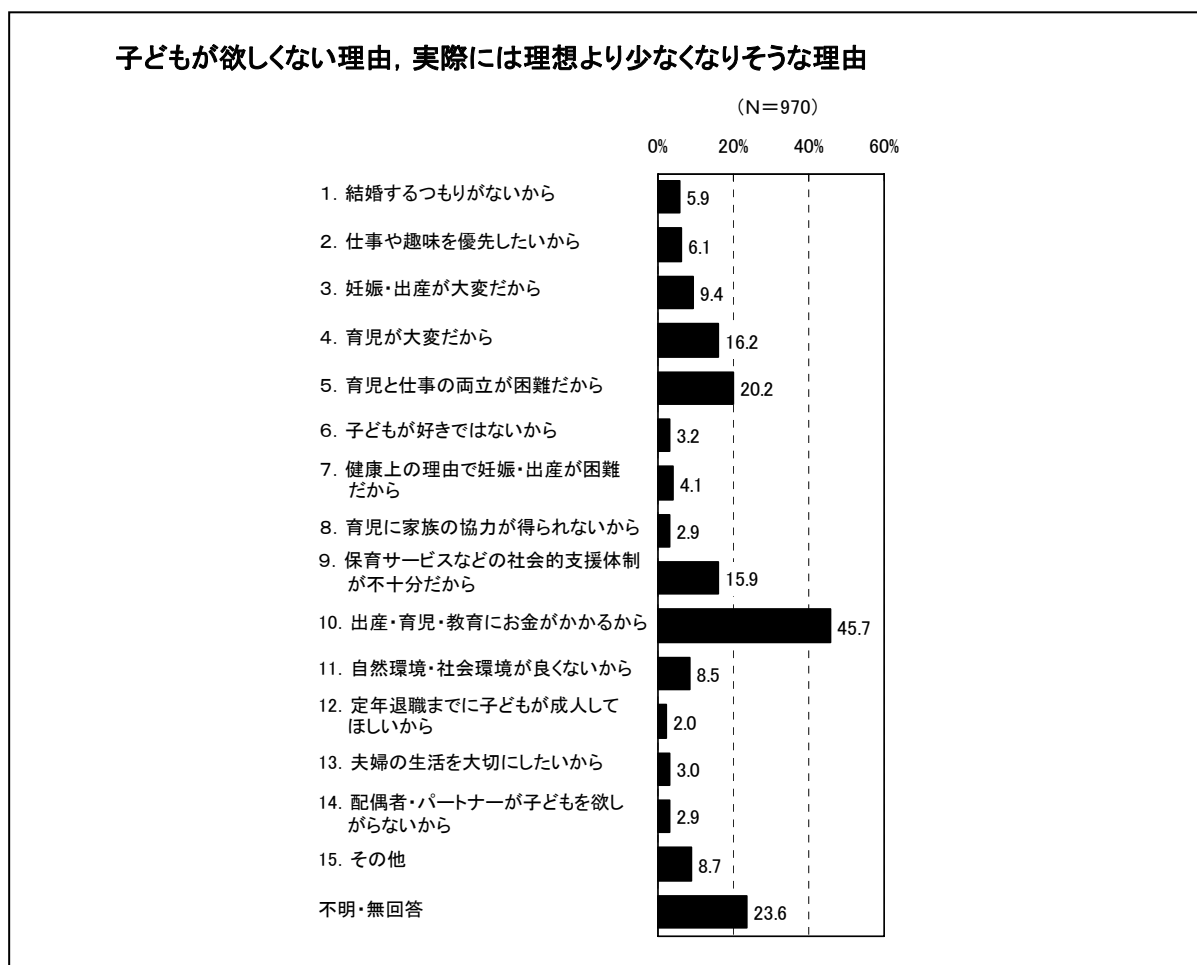
3. 出産について

【調査結果からみる現状】

子どもの人数について、理想と現実の差（問 23，問 24）をみると、理想より「3. 少ない」が 4 割となっています。結婚の利点として、子どもを持ち育てることが挙げられていますが、現実の子どもの人数が少ないのが現状のようです。その理由（問 25，問 23 で子どもを「欲しくない」と回答した人を含む）について「10. 出産・育児・教育にお金がかかるから」が 45.7%と特に高く、また、育児と仕事との両立が困難であること、育児の大変さについても高くなっています。

理想の子どもの人数を持つ条件（問 26）について、出産，保育，教育に関する経済的な負担軽減が高く、女性では職場における理解や支援，保育所の整備についても高くなっており，子育て環境の整備が求められています。

出産後の実家との距離（問 27）について「2. 近くに住みたい」が 8 割と大半を占めており，子育ての支援について両親等から手助け等を受けたい（問 17－（10））との回答も 7 割と高いことを踏まえると，両親に支援や協力，相談を求めながら子育てしたいという意向がみてとれます。



※問 25 結果から引用

4. 仕事と生活の調和の推進（ワークライフバランス）について

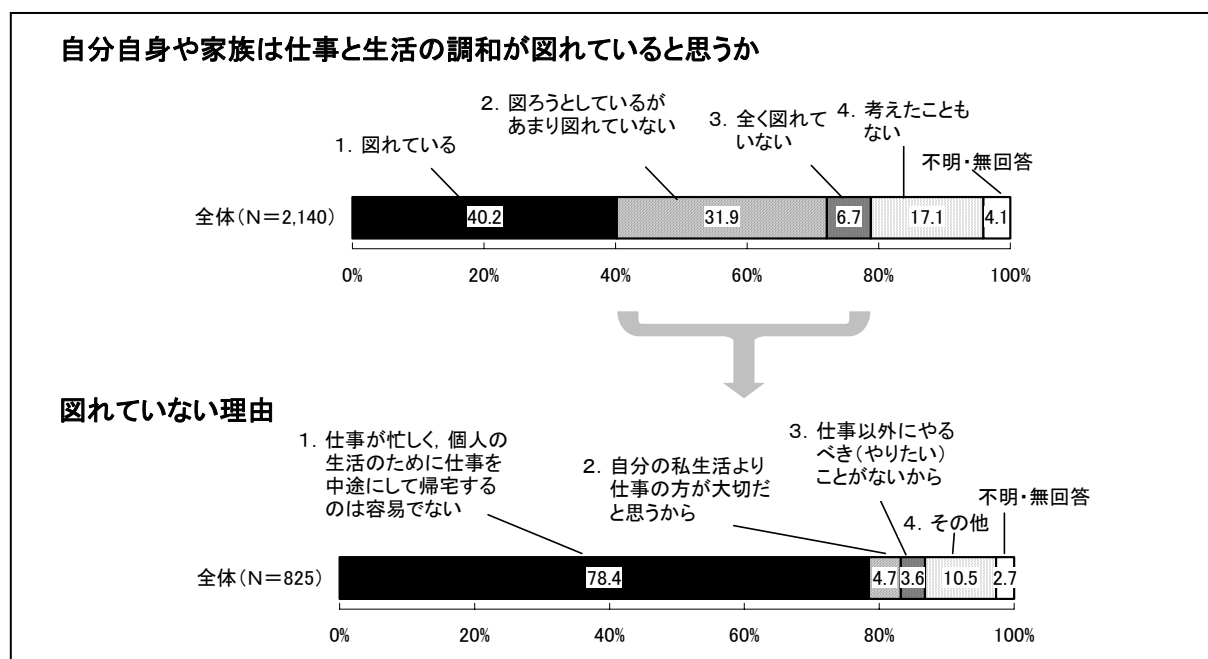
【調査結果からみる現状】

仕事と生活の調和が図れていると思うか（問 28）について、「1. 図れている」が4割となっている一方で、図れていないと感じている人も4割となっています。「図れていない」理由（問 28-1）として、仕事のためが8割と大半を占めており、仕事が理由で仕事と生活の調和が図れていない人が多いことがうかがえます。

結婚や出産前後の仕事の状況（問 29, 問 30）について、それを機に仕事をやめたとの回答は女性で高くなっています。出産を機に仕事をやめた理由（問 30-1）について、「1. 家庭生活（家事や子育てなど）に専念したかった」が4割、育児休暇制度の取得や仕事と家庭生活の両立が困難であったことなども理由として高くなっています。また、「3. 配偶者や家族が退職を望んだ」は4.3%と低くなっています。仕事と生活の両立を望む傾向がみられるものの、実際には難しい状況にあることがうかがえます。

仕事をやめた後の就労（問 30-2）について、9割が働きはじめた、働きたいと回答しており、出産を機に仕事をやめた人の就労意向は高くなっています。その理由（問 30-3）を「2. 経済的な理由が発生したから」「1. 子どもが大きくなったから」としています。また、出産を機に仕事をやめようと思う理由（問 30-5）について、出産を機に仕事をやめた理由（問 30-1）と同じ項目で高くなっていますが、「4. 仕事と家庭生活の両立が難しそうのため」が3割と最も高くなっており、両立したいという意向がありながら、現状では難しい状況であることがうかがえます。

仕事と生活の調和を実現するために、企業等に取り組んでほしいこと（問 31）について、多様な働き方への対応、長時間労働、時間単位休暇や有給休暇などの取得促進や制度導入など、働く人の状況にあわせて就業形態や休業制度等が利用できることが求められています。一方、国や京都市に期待すること（問 33）として、「3. 仕事と生活の調和実現に積極的に取り組む企業等への経済的な支援（税制上の優遇措置等）」が最も高くなっています。



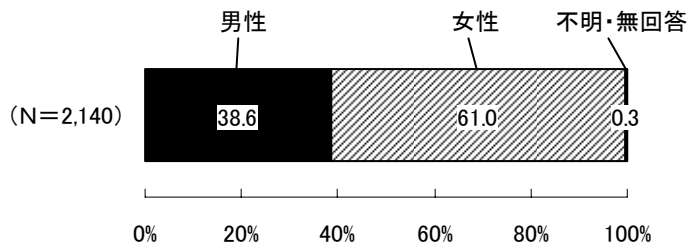
※問 28, 問 28-1 結果から引用

III 調査結果

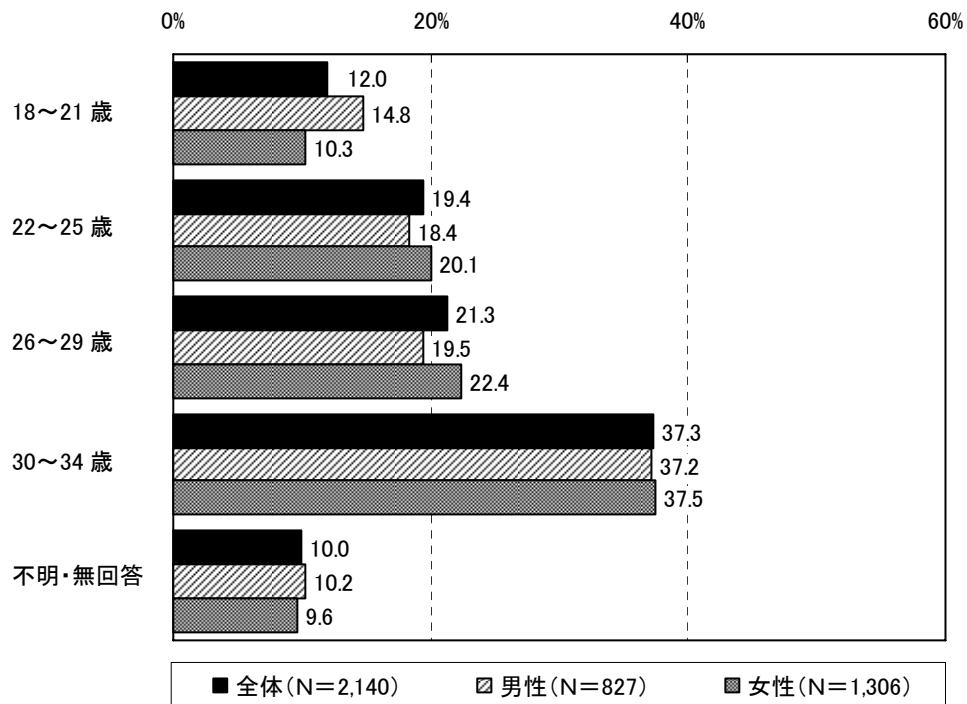
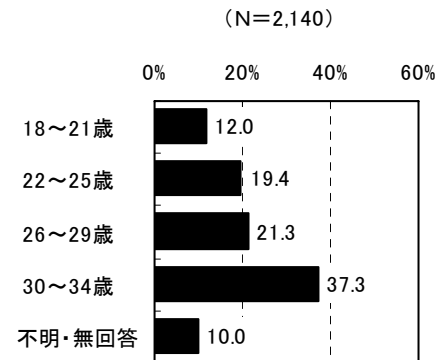
1 回答者の属性

問1 あなたの性別と年齢をおうかがいします。(年齢は平成20年4月1日現在)

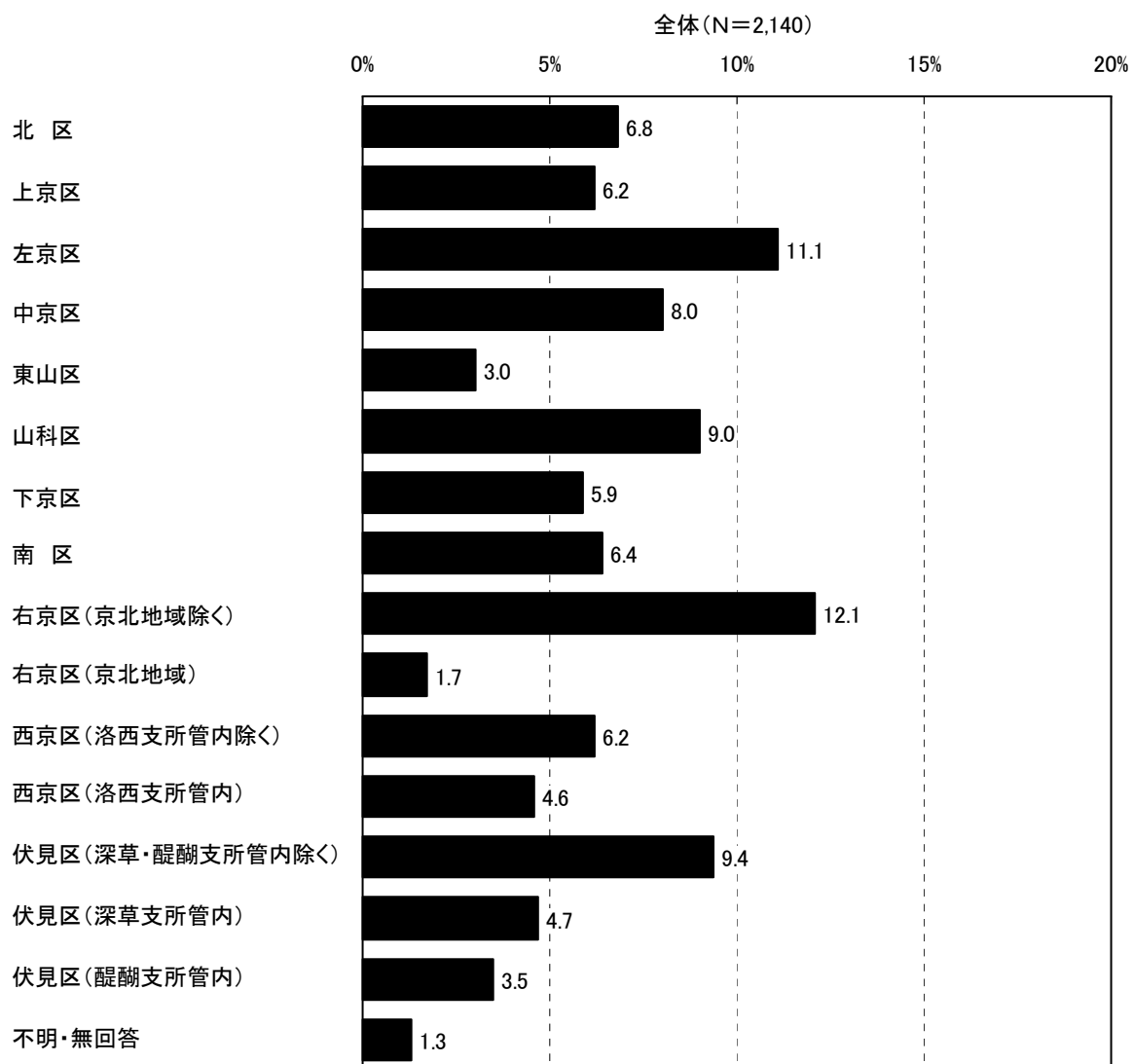
【性別】



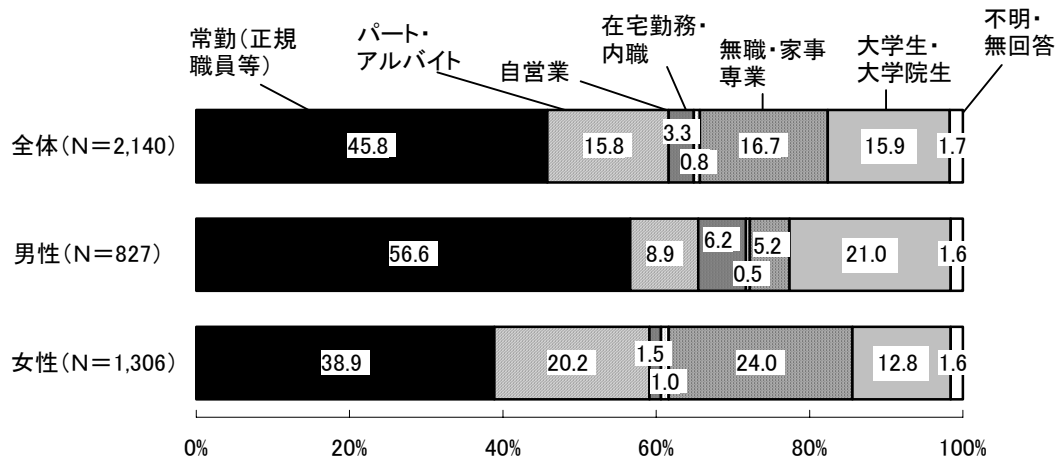
【年齢】



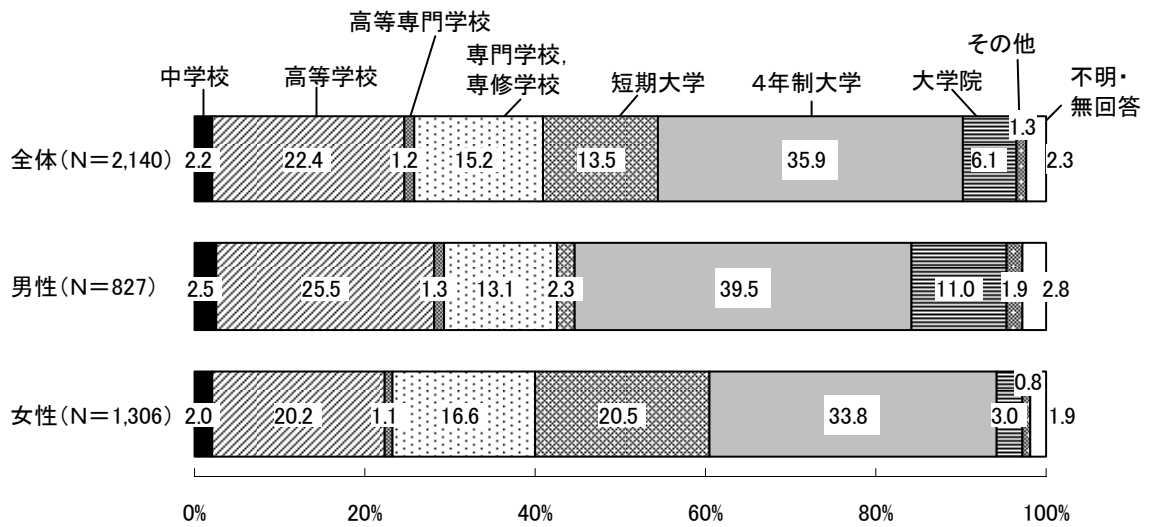
問2 お住まいの区等はどちらですか。



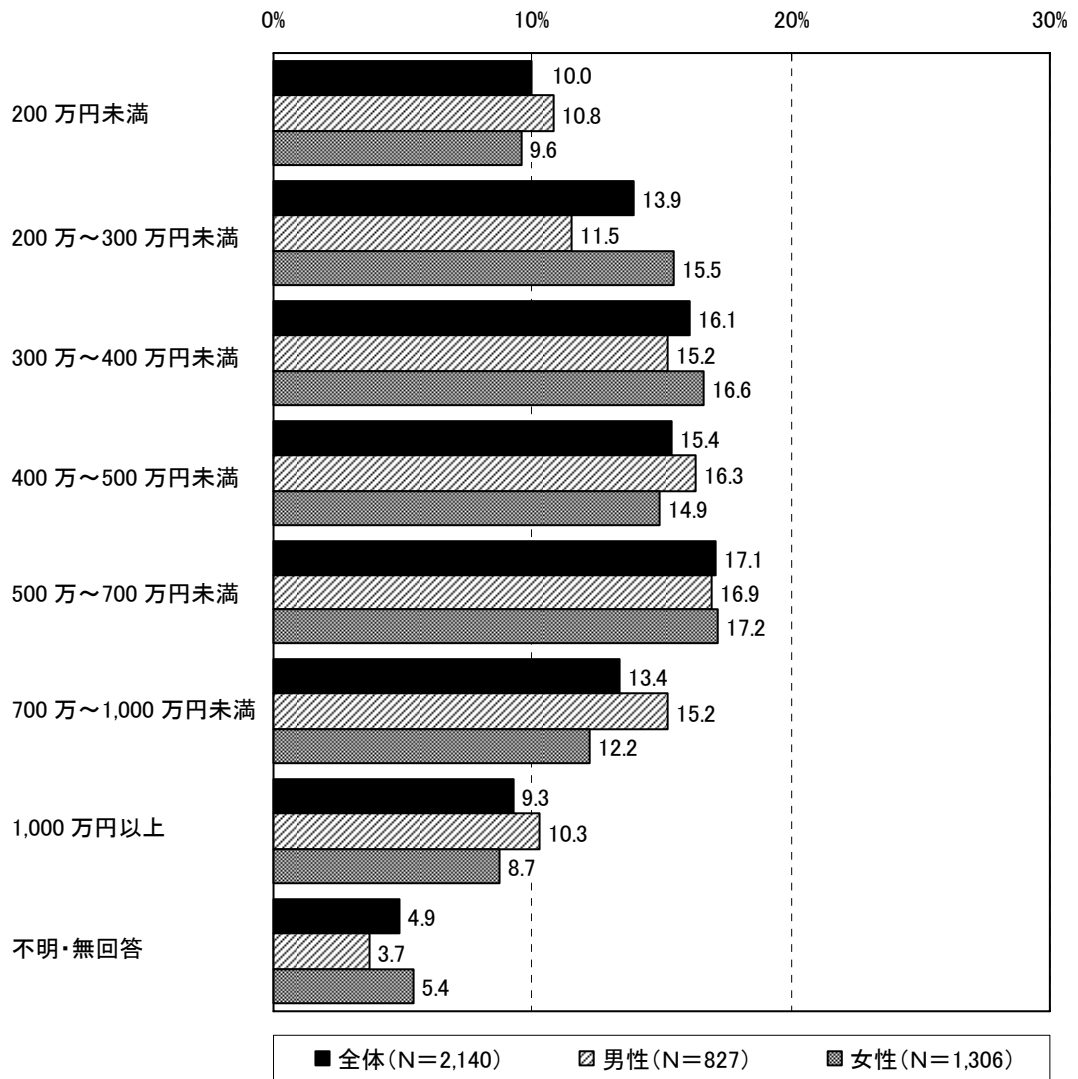
問3 あなたの職業をおうかがいします。



問4 あなたの最終学歴をおうかがいします。



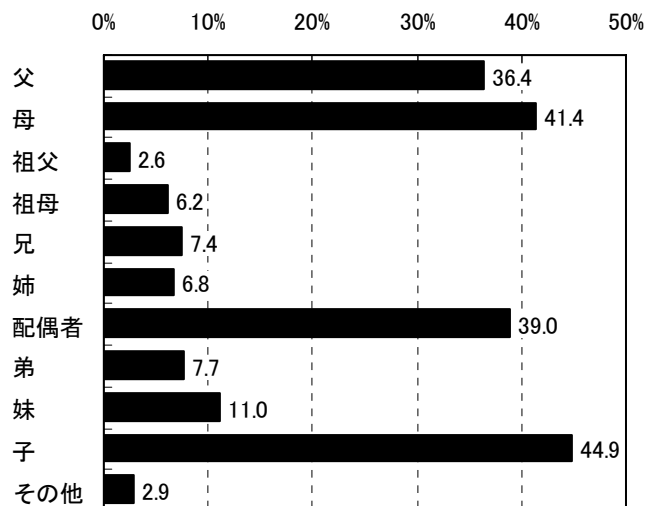
問5 同居しているご家族全員の総所得（世帯の年収）はいくらくらいですか。



問6 あなたを含めて、同居しているすべてのご家族について、あなたからみた続柄、職業、年齢、健康状態や心身の状況についてお答えください。年齢は、平成20年4月1日現在の年齢をご記入ください。

【同居の状況】

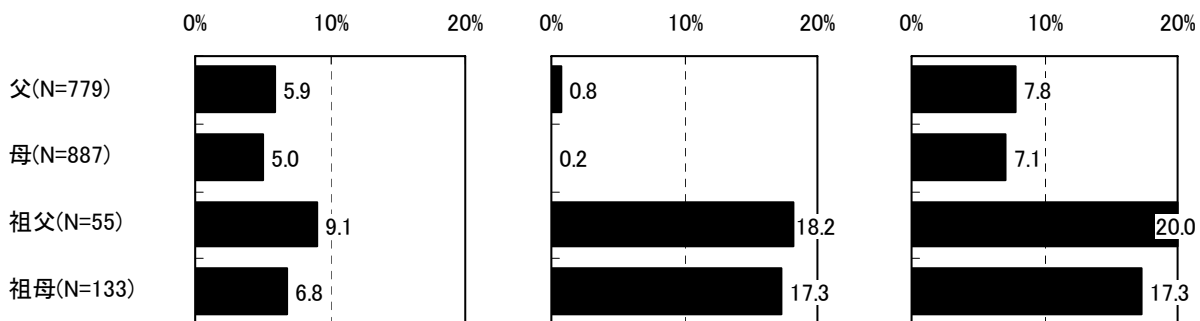
(N=2,140)



【現在、病気療養中の方】

【介護が必要な状態の方】

【心身に障がいがある方】

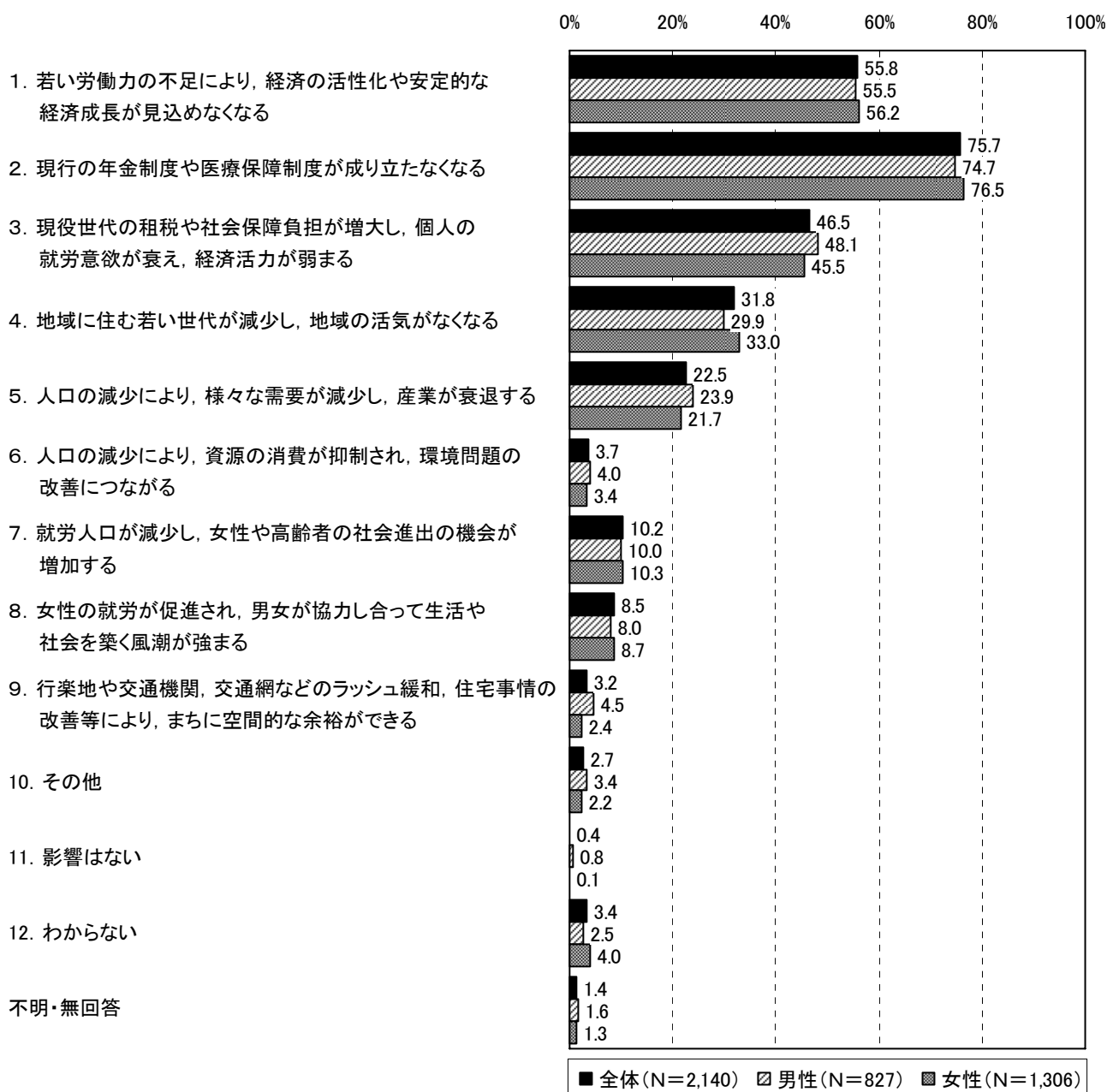


2 少子化について

問7 少子化が社会に与える影響として、どのような問題点あるいは利点があると思いますか。(あてはまるもの3つまで)

「2. 現行の年金制度や医療保障制度が成り立たなくなる」が75.7%と最も高く、次いで「1. 若い労働力の不足により、経済の活性化や安定的な経済成長が見込めなくなる」が55.8%、「3. 現役世代の租税や社会保障負担が増大し、個人の就労意欲が衰え、経済活力が弱まる」が46.5%と高くなっており、社会にとって少子化は問題であると思われる方が多くなっている。

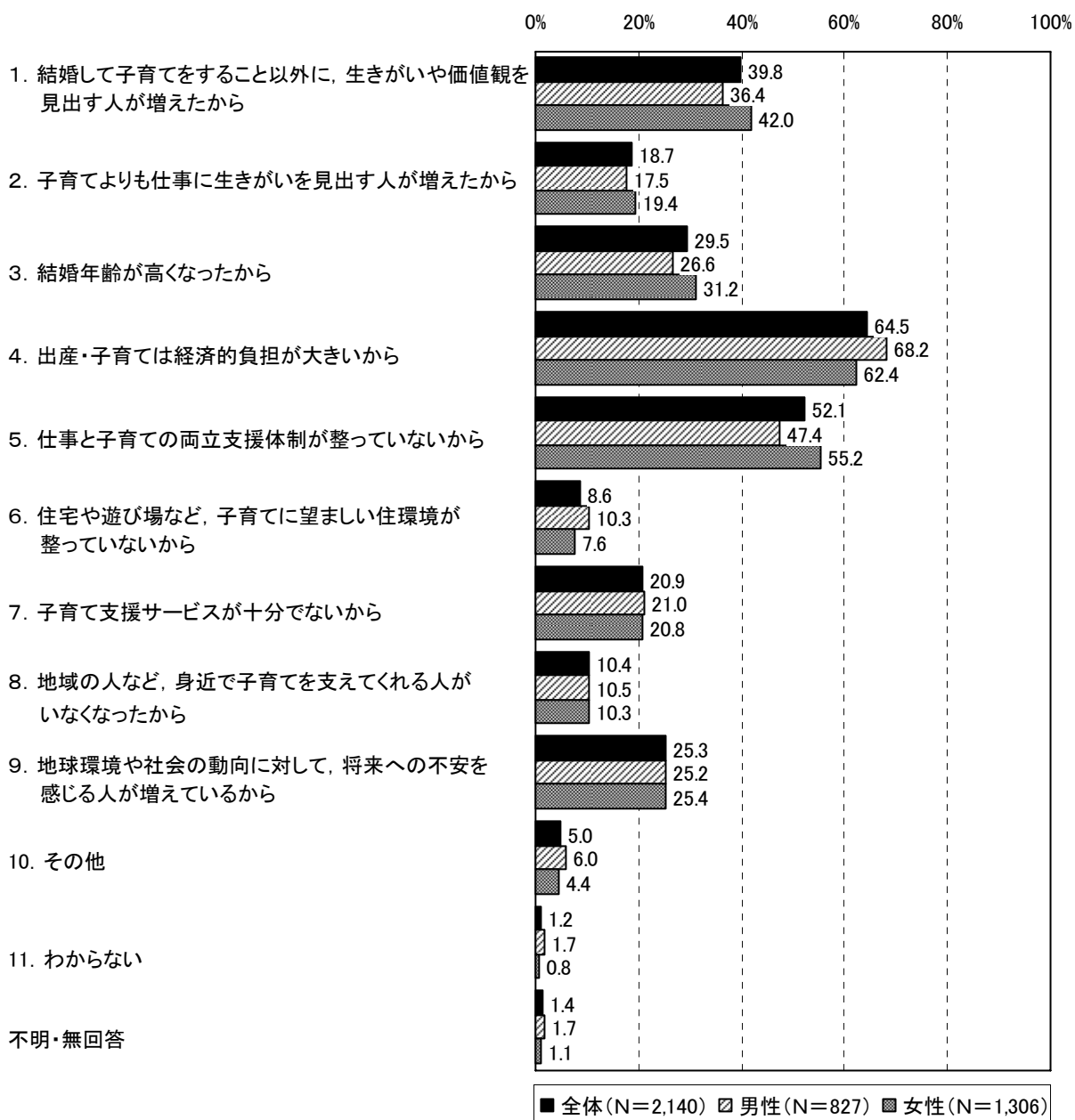
性別による大きな差はみられない。



問8 出生率が低い主な原因は何だと思いますか。(あてはまるもの3つまで)

「4. 出産・子育ては経済的負担が大きいから」が64.5%と最も高く、次いで「5. 仕事と子育ての両立支援体制が整っていないから」が52.1%、「1. 結婚して子育てをすること以外に、生きがいや価値観を見出す人が増えたから」が39.8%と高くなっている。

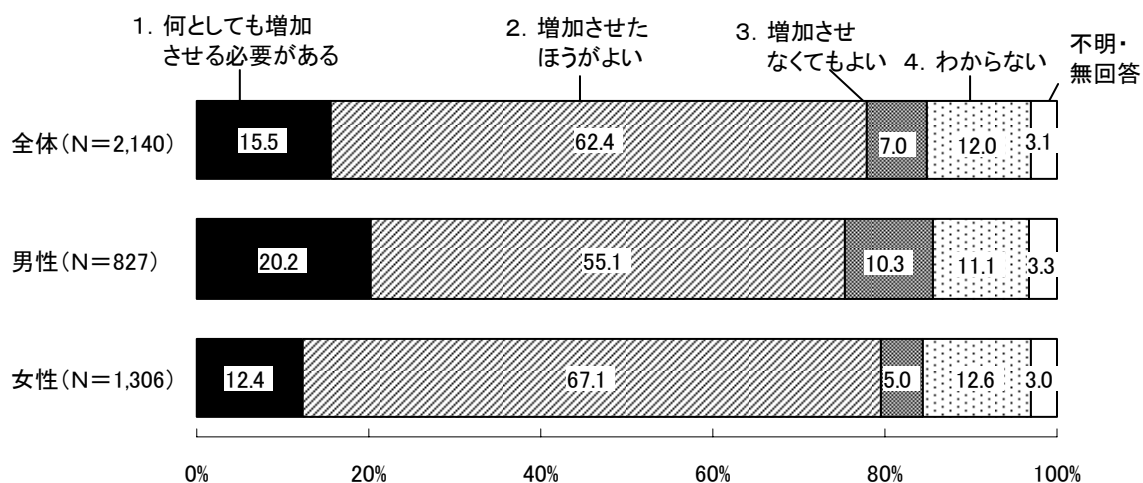
性別にみると、「5. 仕事と子育ての両立支援体制が整っていないから」については、「男性」が47.4%に対し、「女性」が55.2%と約8ポイントの差が生じている。



問9 あなたは、出生率の増加を必要と考えますか。

「1. 何としても増加させる必要がある」と「2. 増加させたほうがよい」を合わせて『増加させる必要性を感じる』人が77.9%を占め、「3. 増加させなくてもよい」と考えている人は7.0%にとどまっている。

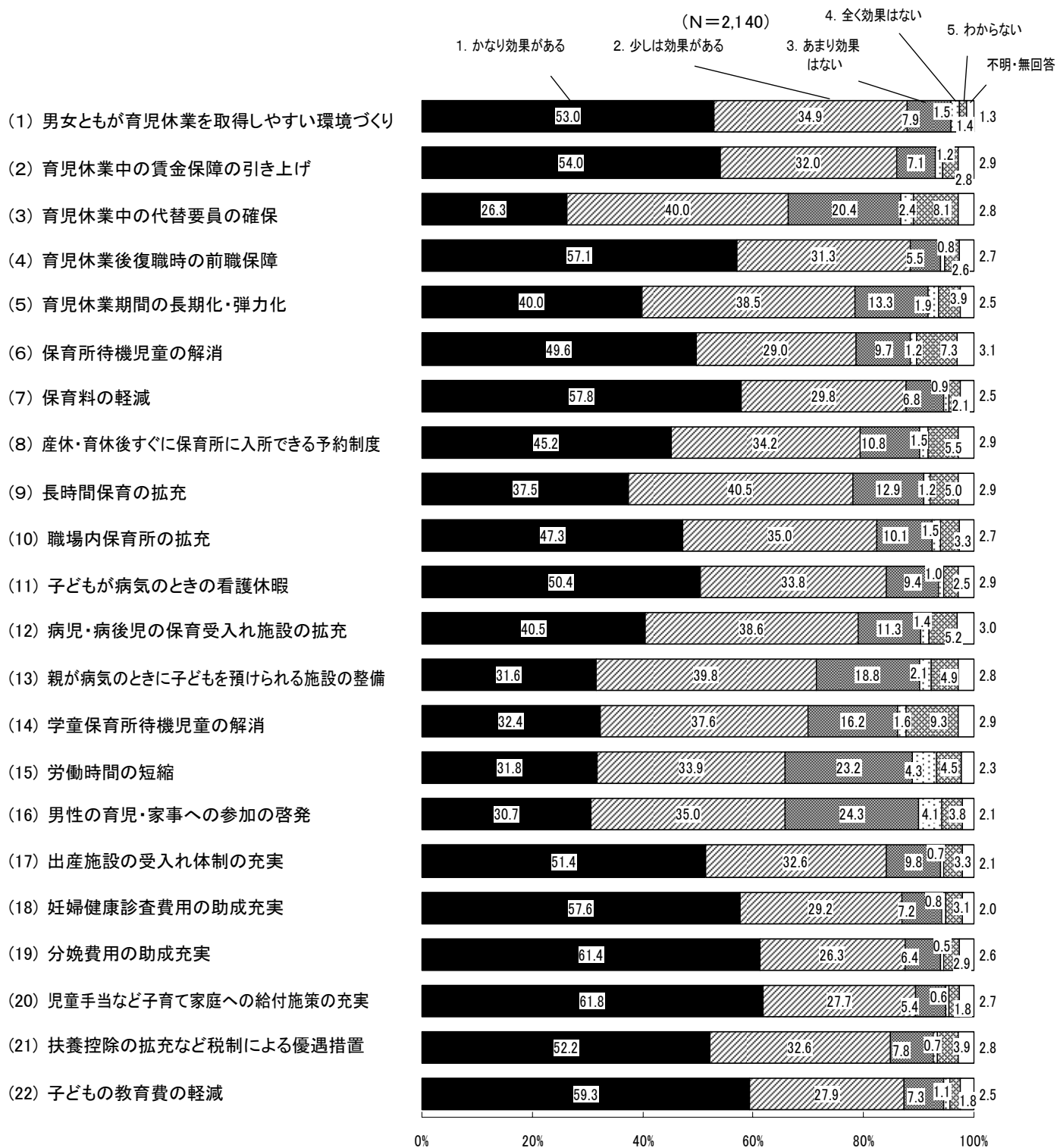
性別による大きな差はみられない。



問 10 以下の施策等について、少子化対策として効果があると思いますか。

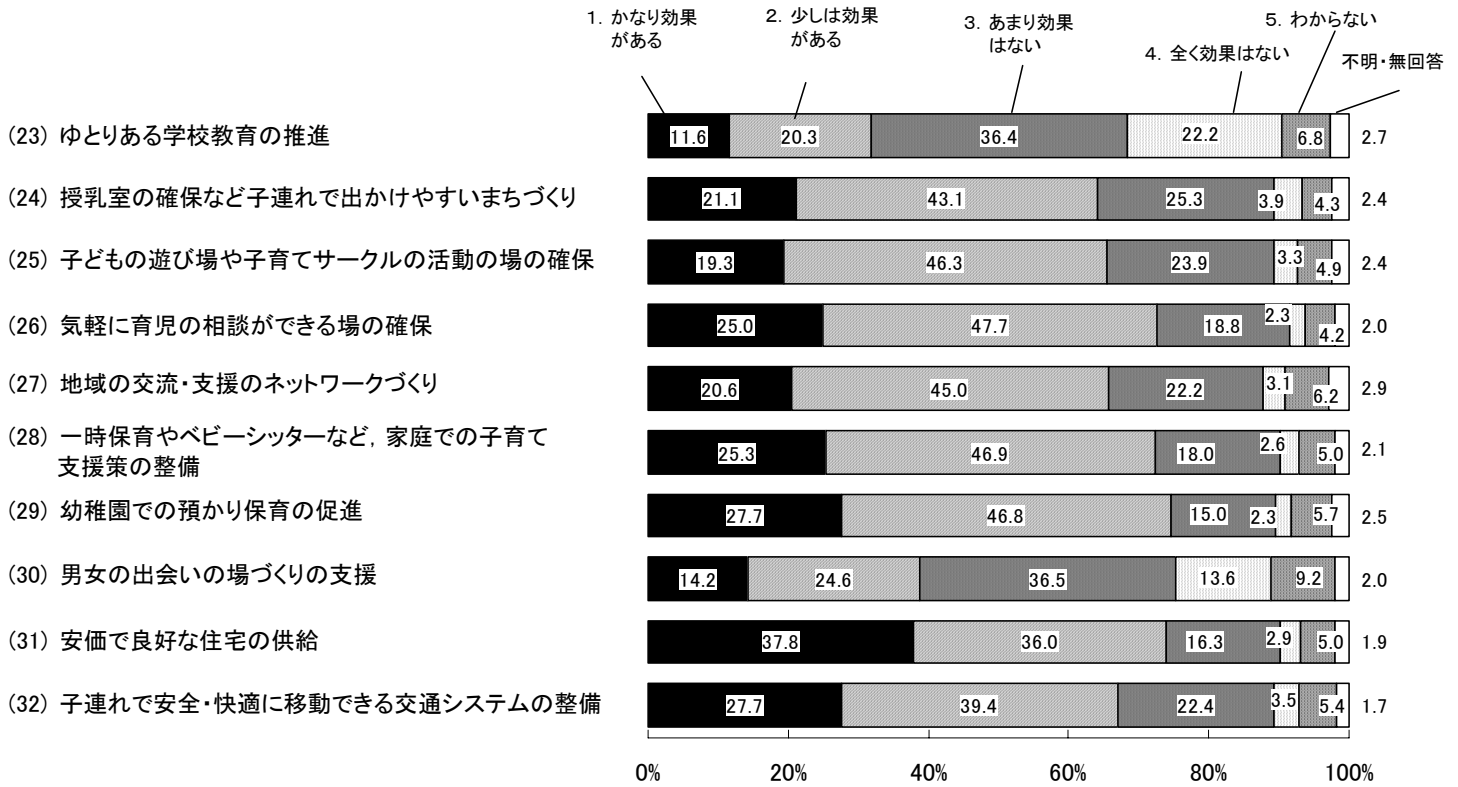
「1. かなり効果がある」と「2. 少しは効果がある」を合わせた『効果がある』の割合が高い施策等は、「(20) 児童手当など子育て家庭への給付施策の充実」が最も高く 89.5%、次いで「(4) 育児休業後復職時の前職保障」が 88.4%と高くなっている。

一方で、「3. あまり効果はない」と「4. 全く効果はない」を合わせた『効果はない』の割合が高い施策等は、「(23) ゆとりある学校教育の推進」が最も高く 58.6%、次いで「(30) 男女の出会いの場づくりの支援」が 50.1%と高くなっている。



(23)～(32)は次頁につづく

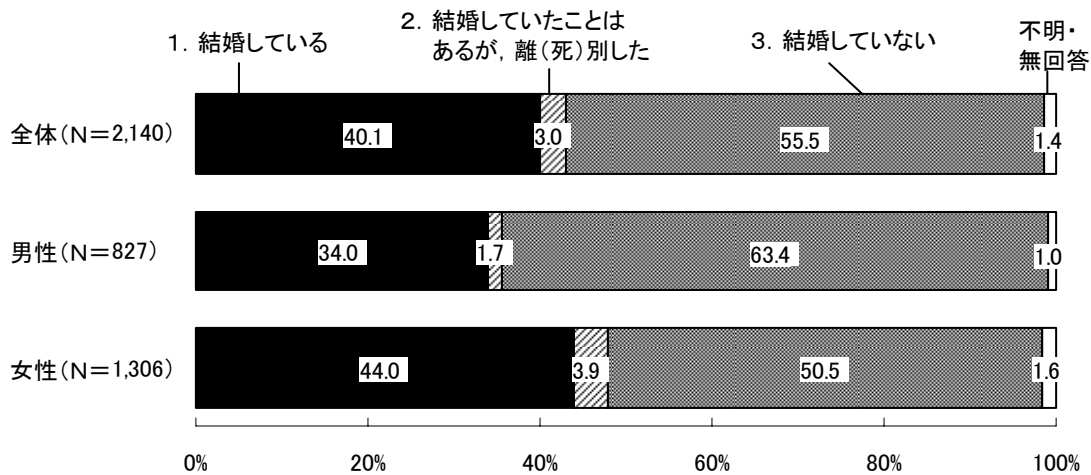
(N=2,140)



3 結婚について

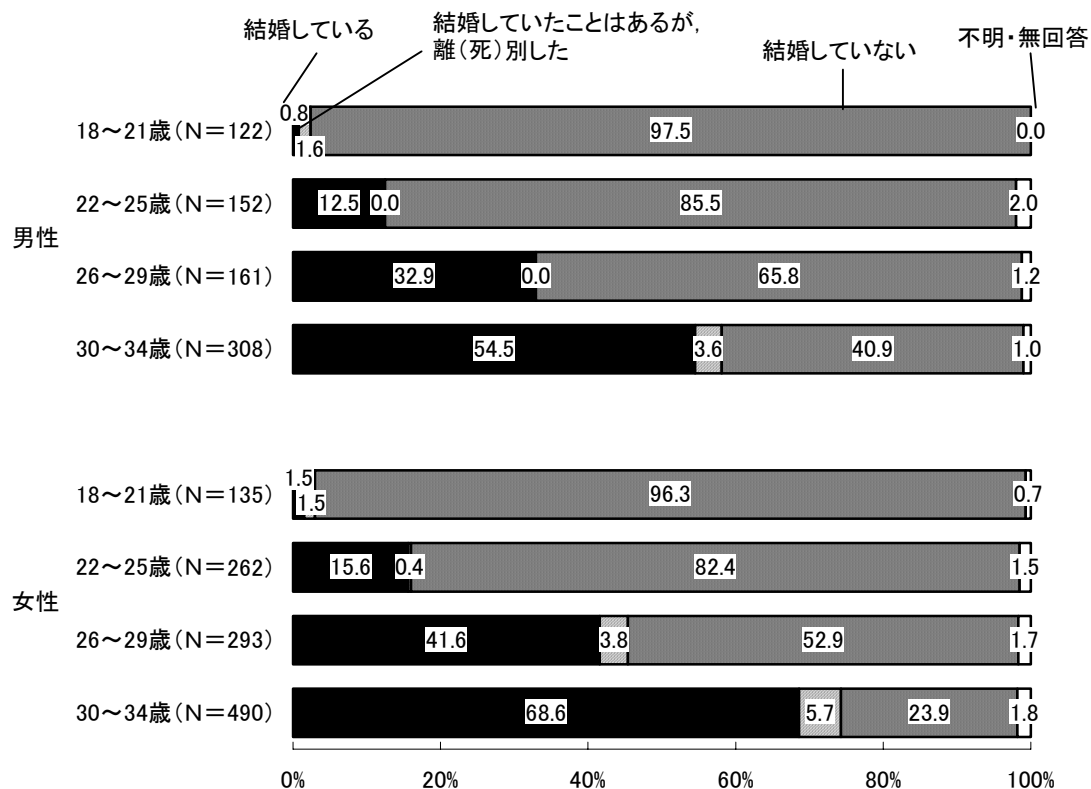
問 11 あなたは結婚（入籍していないいわゆる事実婚を含みます）されていますか。

「3. 結婚していない」が55.5%, 「1. 結婚している」が40.1%となっている。



【性別×年齢別】

性別×年齢別にみると、「男性」「女性」ともに年齢があがるにつれて「結婚している」の割合が高くなっているが、「女性」の方が「男性」より「結婚している」割合が高い。

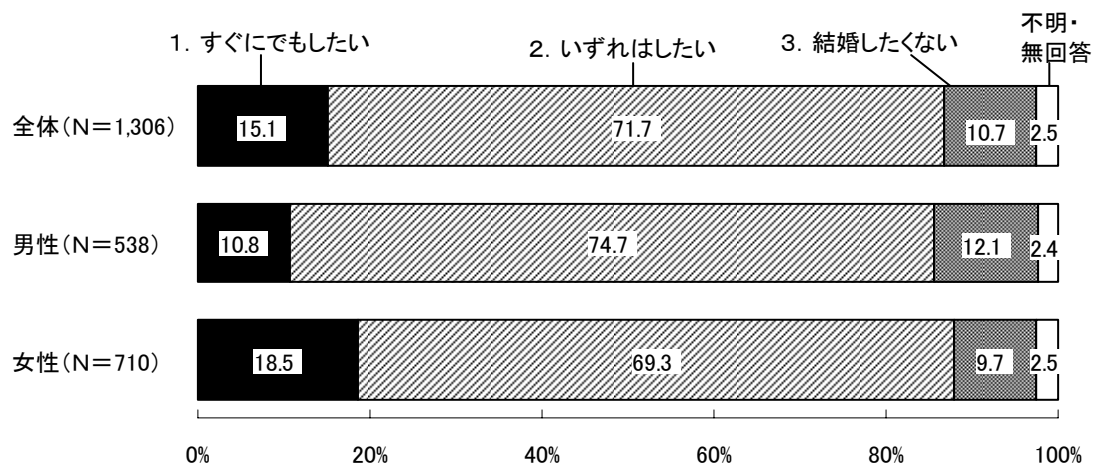


問 11-1～問 11-3 は問 11 で「2」、「3」を選ばれた方におうかがいします。

問 11-1 今後、結婚したいと思いますか。

「2. いずれはしたい」が71.7%と最も高く、「1. すぐにでもしたい」が15.1%と結婚を望む割合が約9割となっている。

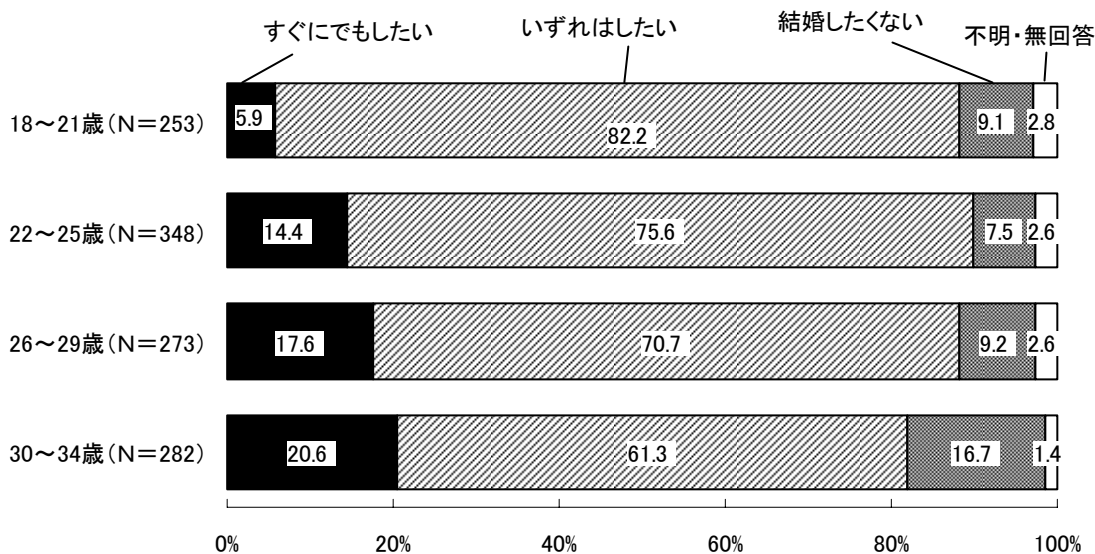
性別にみると、「1. すぐにでもしたい」については、「男性」が10.8%に対し、「女性」が18.5%と約8ポイントの差が生じている。



※問 11 で「2. 結婚していたことはあるが、離（死）別した」または「3. 結婚していない」のどちらかを選択した方だけの回答結果

【年齢別】

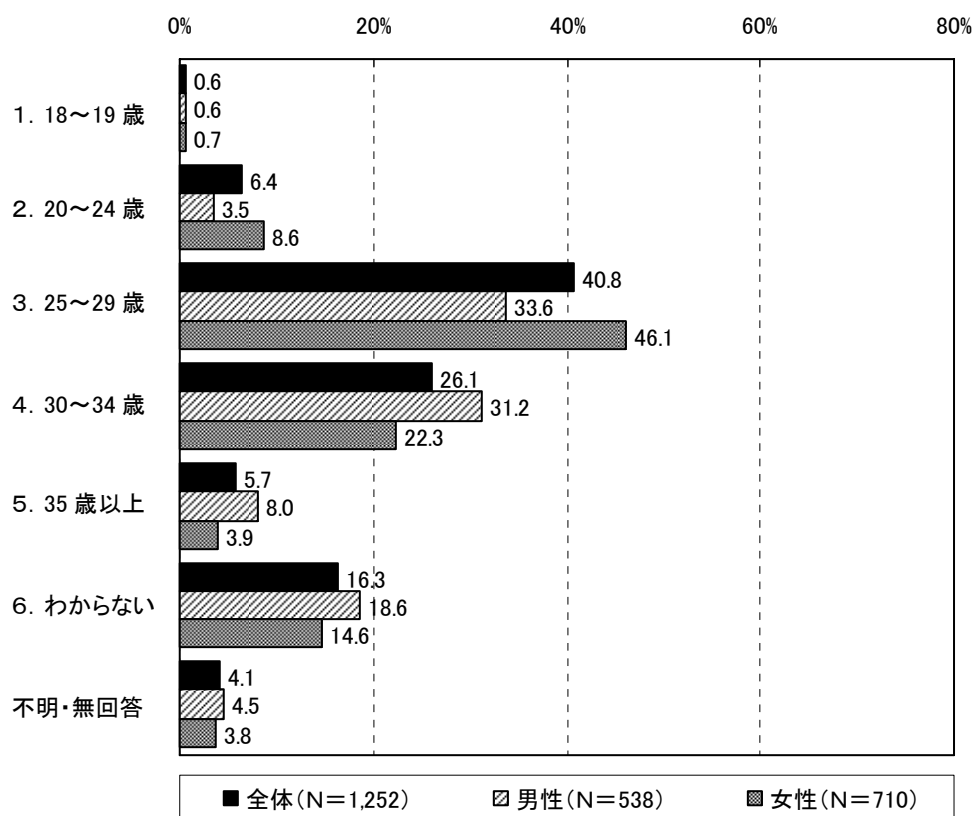
年齢別にみると、年齢があがるにつれて「すぐにでもしたい」の割合が高くなっている。一方、「結婚したくない」の割合も「30～34歳」が最も高くなっている。



問 11-2 あなたが結婚したいと思う年齢はどれですか。

「3. 25～29 歳」が最も高く、次いで「4. 30～34 歳」となっている。約7割の人が30歳前後で結婚したいと回答している。

性別にみると、「3. 25～29 歳」は「女性」が「男性」よりも12.5ポイント高く、46.1%、「4. 30～34 歳」は「男性」が「女性」よりも8.9ポイント高く、31.2%と男女で差が生じている。

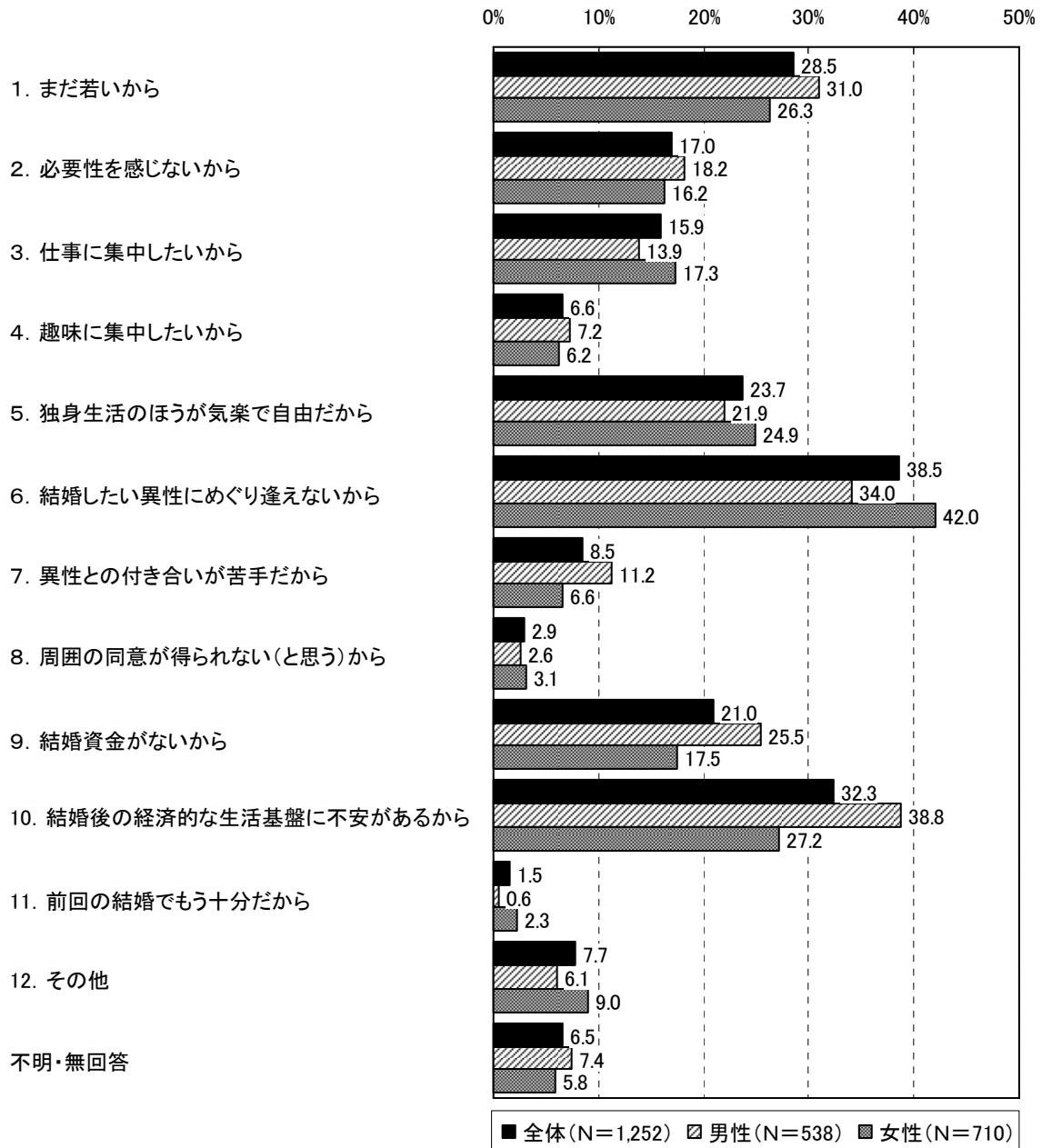


※問 11 で「2. 結婚していたことはあるが、離 (死) 別した」または「3. 結婚していない」のどちらかを選択した方のみの回答結果

問 11-3 結婚していない、あるいは、結婚したくない理由をおうかがいします。(あてはまるもの3つまで)

「6. 結婚したい異性にめぐり逢えないから」が38.5%と最も高く、次いで「10. 結婚後の経済的な生活基盤に不安があるから」が32.3%、「1. まだ若いから」が28.5%と高くなっている。

性別にみると、男性は「10. 結婚後の経済的な生活基盤に不安があるから」が、女性は「6. 結婚したい異性にめぐり逢えないから」が最も高くなっている。



※問 11 で「2. 結婚していたことはあるが、離(死)別した」または「3. 結婚していない」のどちらかを選択した方だけの回答結果

【年齢別】

年齢別にみると、20歳代前半以前は「まだ若いから」が、20歳代後半以降は「結婚したい異性にめぐり逢えないから」「結婚後の経済的な生活基盤に不安があるから」などが高くなっている。

単位：%

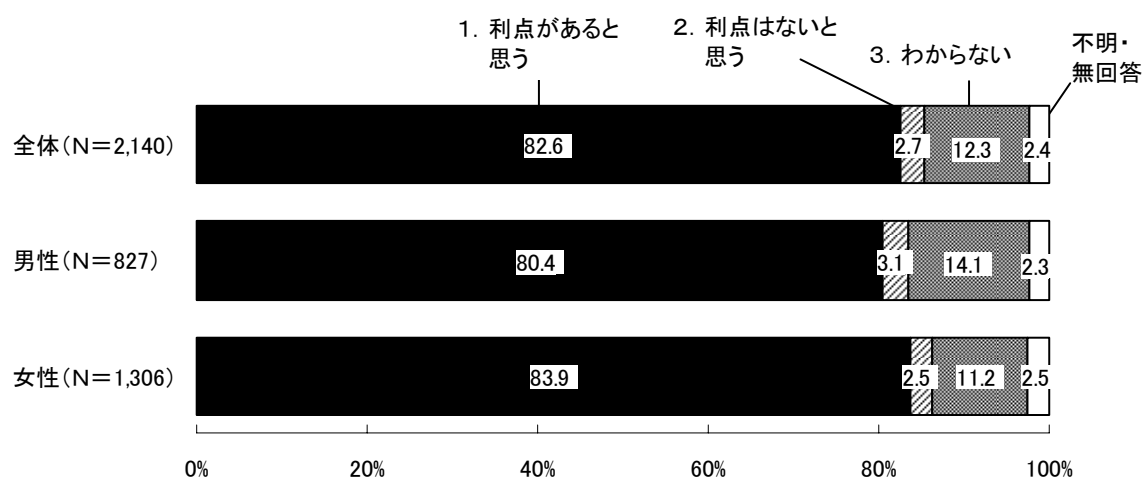
	年齢別			
	18～21歳	22～25歳	26～29歳	30～34歳
回答者数(人)	253	348	273	282
まだ若いから	69.2	38.2	8.1	2.1
必要性を感じないから	16.6	14.9	15.0	21.6
仕事に集中したいから	13.0	22.7	16.5	9.9
趣味に集中したいから	5.9	6.0	6.6	8.2
独身生活のほうが気楽で自由だから	13.4	19.0	30.8	33.0
結婚したい異性にめぐり逢えないから	28.9	35.9	42.9	44.7
異性との付き合いが苦手だから	7.1	4.9	9.9	13.1
周囲の同意が得られない(と思う)から	2.8	3.2	2.9	2.5
結婚資金がないから	14.2	22.7	25.3	20.6
結婚後の経済的な生活基盤に不安があるから	20.9	32.5	43.2	32.3
前回の結婚でもう十分だから	-	-	0.7	4.6
その他	10.3	6.0	9.5	6.7
不明・無回答	5.9	6.0	5.5	7.4

問12～問16までは、既婚・未婚にかかわらず想定でお答えください。

問12 結婚生活は独身生活にはない利点があると思いますか。

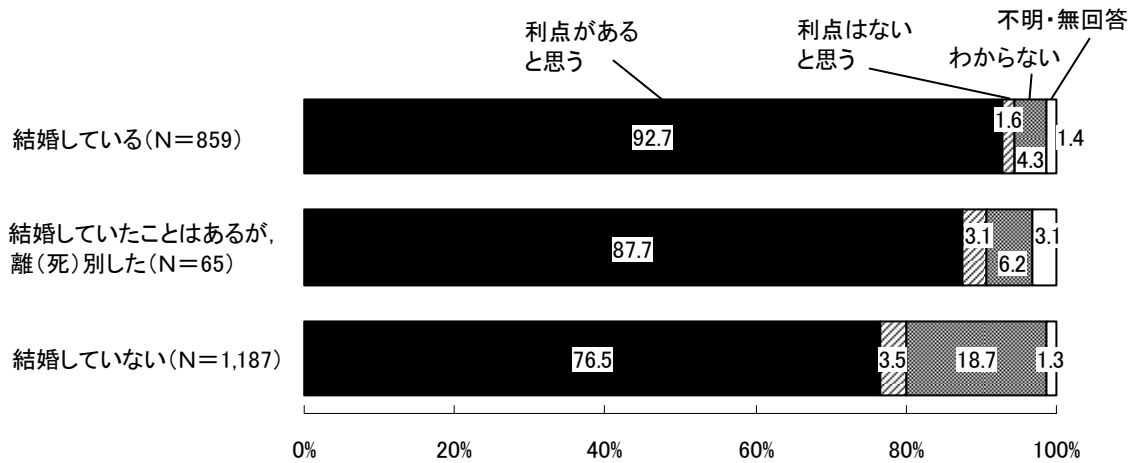
結婚生活に「1. 利点があると思う」と回答した方が82.6%と大半を占め、「2. 利点はないと思う」と回答した方は2.7%にとどまっている。

性別による大きな差はみられない。



【結婚の有無別】

結婚の有無別にみると、「結婚している」と回答した人は約 9 割が「利点があると思う」と回答している。

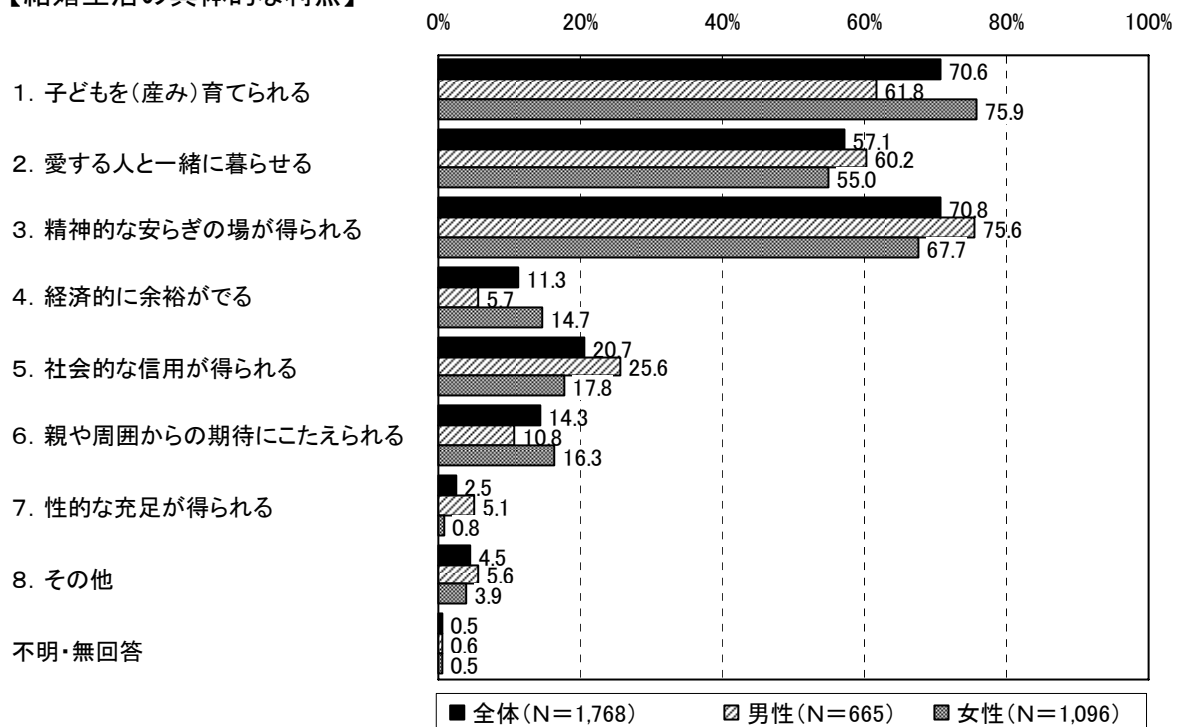


問 12-1 問 12 で「1」を選ばれた方におうかがいします。具体的な利点はどんなことが考えられますか。(あてはまるもの3つまで)

結婚生活に利点があると思うと回答した方に、具体的な利点について聞いたところ、「3. 精神的な安らぎの場が得られる」が 70.8%と最も高く、次いで「1. 子どもを(産み)育てられる」が 70.6%、「2. 愛する人と一緒に暮らせる」が 57.1%と高くなっている。

性別にみると、「男性」では「3. 精神的な安らぎの場が得られる」が最も高く、「女性」では「1. 子どもを(産み)育てられる」が最も高くなっている。

【結婚生活の具体的な利点】



※問 12 で「1. 利点があると思う」を選択した方だけの回答結果

【結婚の有無別】

結婚の有無別にみると、「結婚している」「結婚していたことはあるが、離(死)別した」では「子どもを(産み)育てられる」が最も高く、「結婚していない」では「精神的な安らぎの場が得られる」が最も高くなっている。

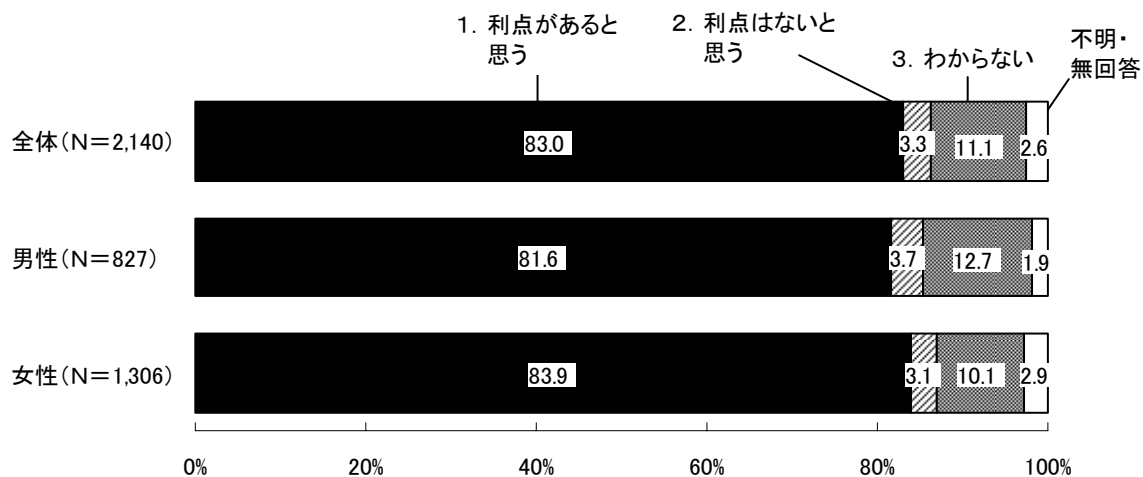
単位：%

	結婚の有無		
	結婚している	結婚していたことはあるが、離(死)別した	結婚していない
回答者数(人)	796	57	908
子どもを(産み)育てられる	75.5	80.7	65.7
愛する人と一緒に暮らせる	54.6	42.1	60.1
精神的な安らぎの場が得られる	75.1	59.6	67.6
経済的に余裕がでる	11.2	19.3	10.8
社会的な信用が得られる	21.2	19.3	20.5
親や周囲からの期待にこたえられる	13.4	7.0	15.3
性的な充足が得られる	1.6	1.8	3.3
その他	5.0	7.0	4.0
不明・無回答	0.3	-	0.8

問 13 独身生活に結婚生活にはない利点があると思いますか。

独身生活に「1. 利点があると思う」と回答した方が83.0%と大半を占め、「2. 利点はないと思う」と回答した方は3.3%にとどまっている。

性別による大きな差はみられない。

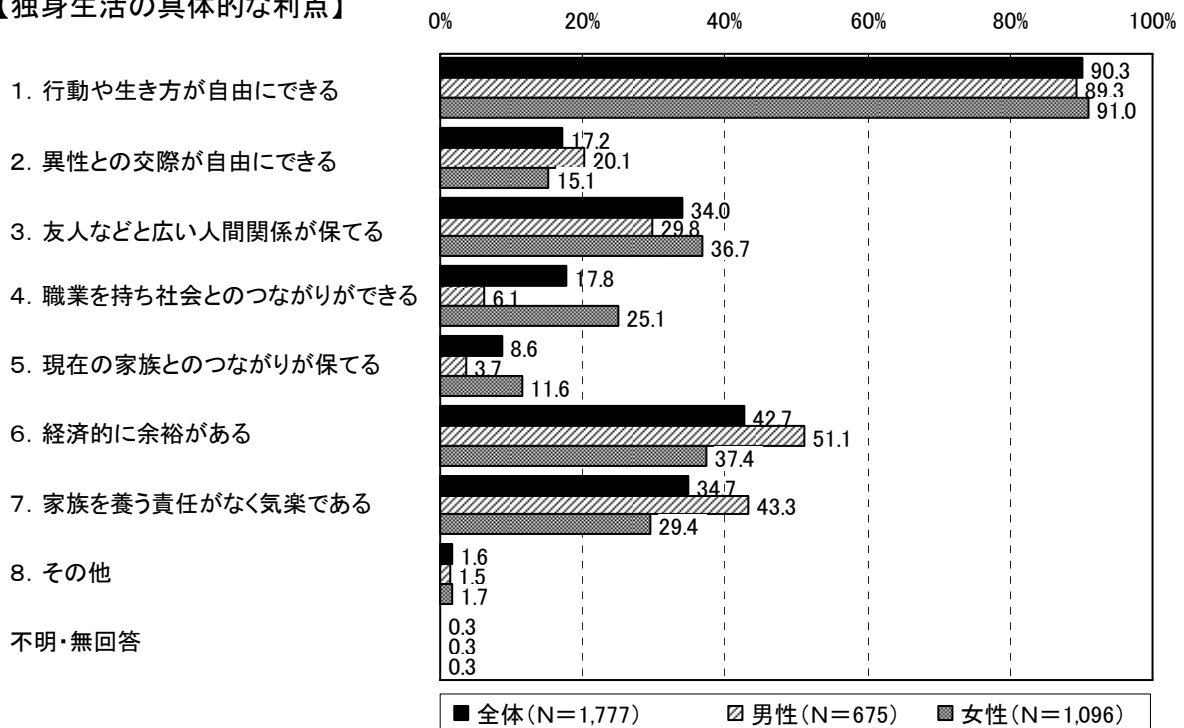


問 13-1 問 13 で「1」を選ばれた方におうかがいします。具体的な利点はどんなことが考えられますか。(あてはまるもの3つまで)

独身生活に利点があると思うと回答した方に、具体的な利点について聞いたところ、「1. 行動や生き方が自由にできる」が90.3%と最も高く、次いで「6. 経済的に余裕がある」が42.7%、「7. 家族を養う責任がなく気楽である」が34.7%と高くなっている。

性別にみると、「男性」「女性」とともに「1. 行動や生き方が自由にできる」が最も高く、次いで「6. 経済的に余裕がある」となっている。

【独身生活の具体的な利点】



※問 13 で「1. 利点があると思う」を選択した方だけの回答結果

【結婚の有無別】

結婚の有無別にみると、「結婚している」「結婚していたことはあるが、離(死)別した」「結婚していない」とともに、「行動や行き方が自由にできる」が最も高くなっている。

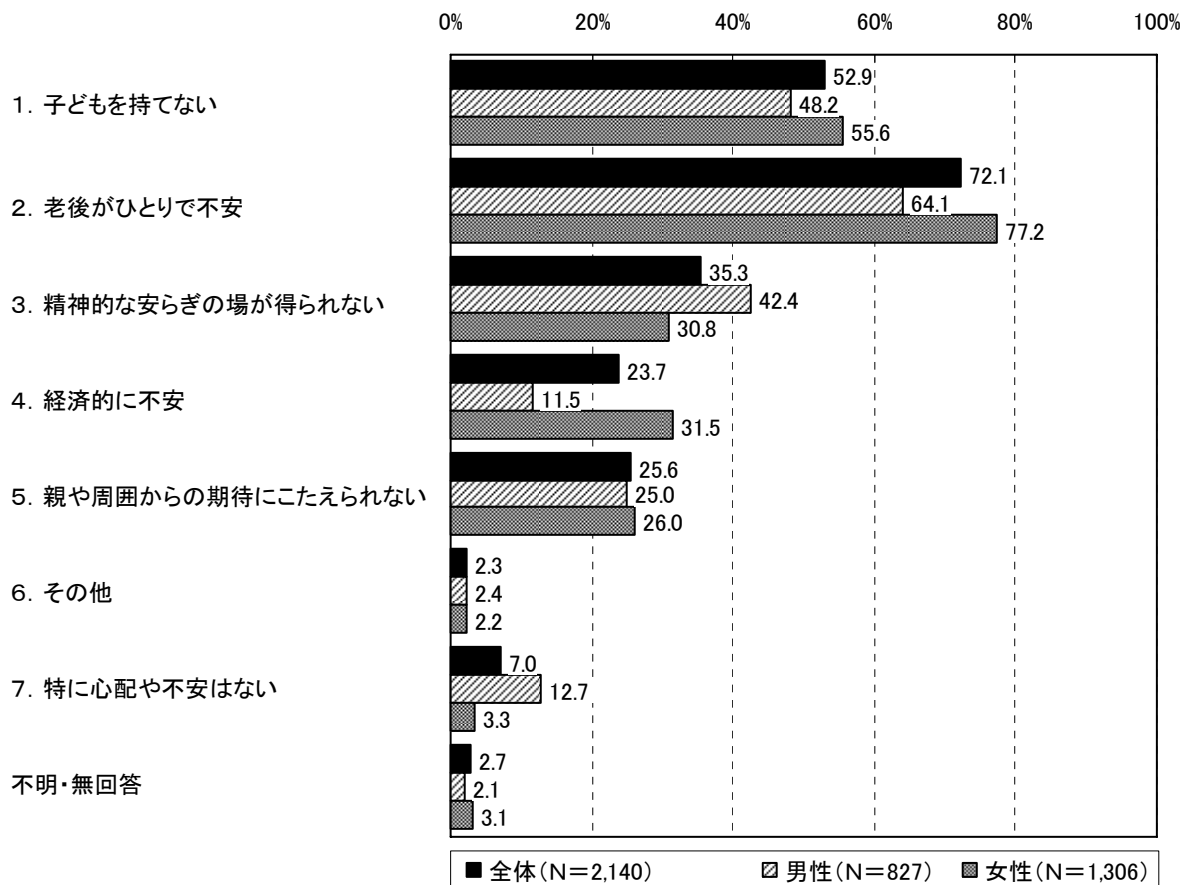
単位：%

	結婚の有無		
	結婚している	結婚していたことはあるが、離(死)別した	結婚していない
回答者数(人)	731	57	981
行動や生き方が自由にできる	91.8	87.7	89.3
異性との交際が自由にできる	16.8	14.0	17.6
友人などと広い人間関係が保てる	36.1	42.1	31.7
職業を持ち社会とのつながりができる	19.3	28.1	16.2
現在の家族とのつながりが保てる	5.7	8.8	10.7
経済的に余裕がある	45.8	40.4	40.4
家族を養う責任がなく気楽である	34.9	19.3	35.5
その他	1.1	-	2.1
不明・無回答	0.3	-	0.3

問 14 独身生活を続けるとした場合、どんな心配や不安がありますか。（あてはまるもの3つまで）

「2. 老後がひとりで不安」が72.1%と最も高く、次いで「1. 子どもを持ってない」が52.9%、「3. 精神的な安らぎの場が得られない」が35.3%と高くなっている。

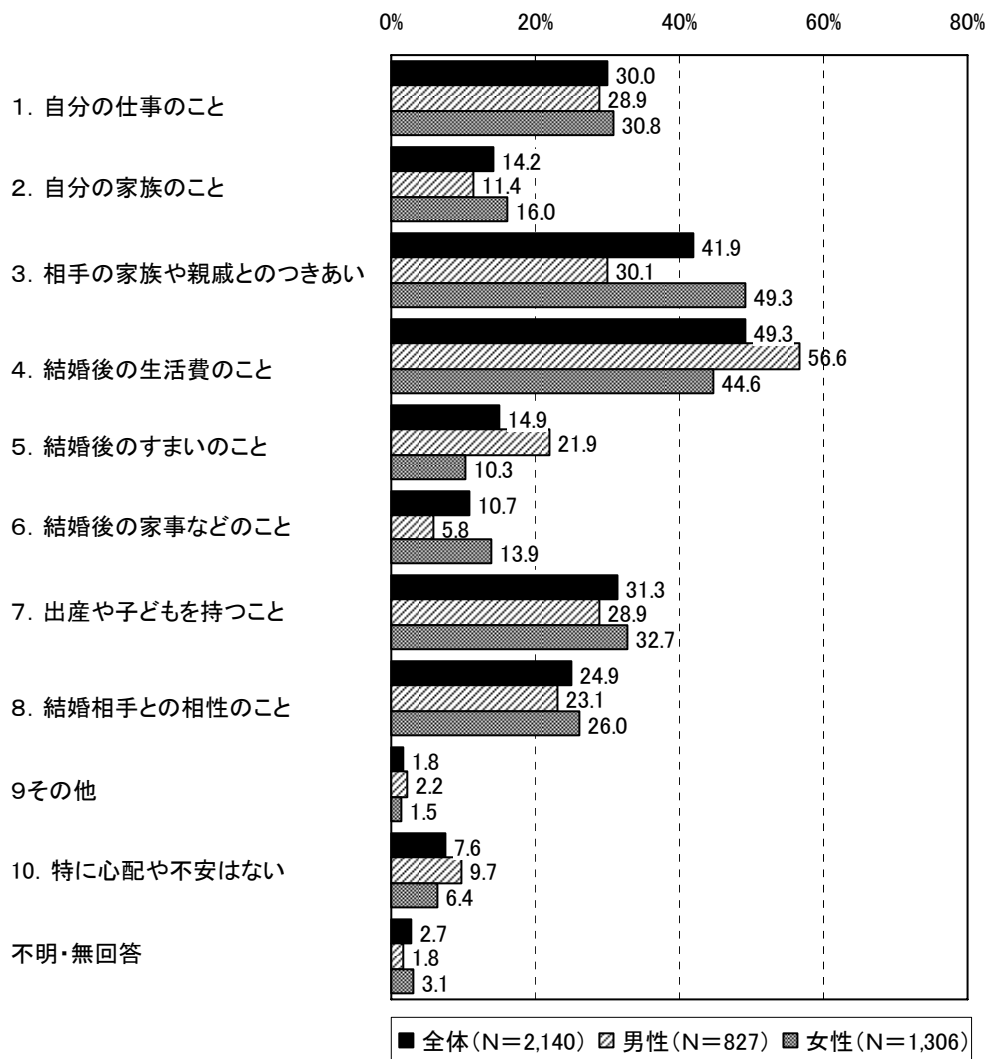
性別にみると、「4. 経済的に不安」については、「男性」が11.5%に対し、「女性」が31.5%と20ポイントの差が生じている。



問 15 結婚を考える場合、どんな心配や不安がありますか。（あてはまるもの3つまで）

「4. 結婚後の生活費のこと」が49.3%と最も高く、次いで「3. 相手の家族や親戚とのつきあい」が41.9%、「7. 出産や子どもを持つこと」が31.3%と高くなっている。

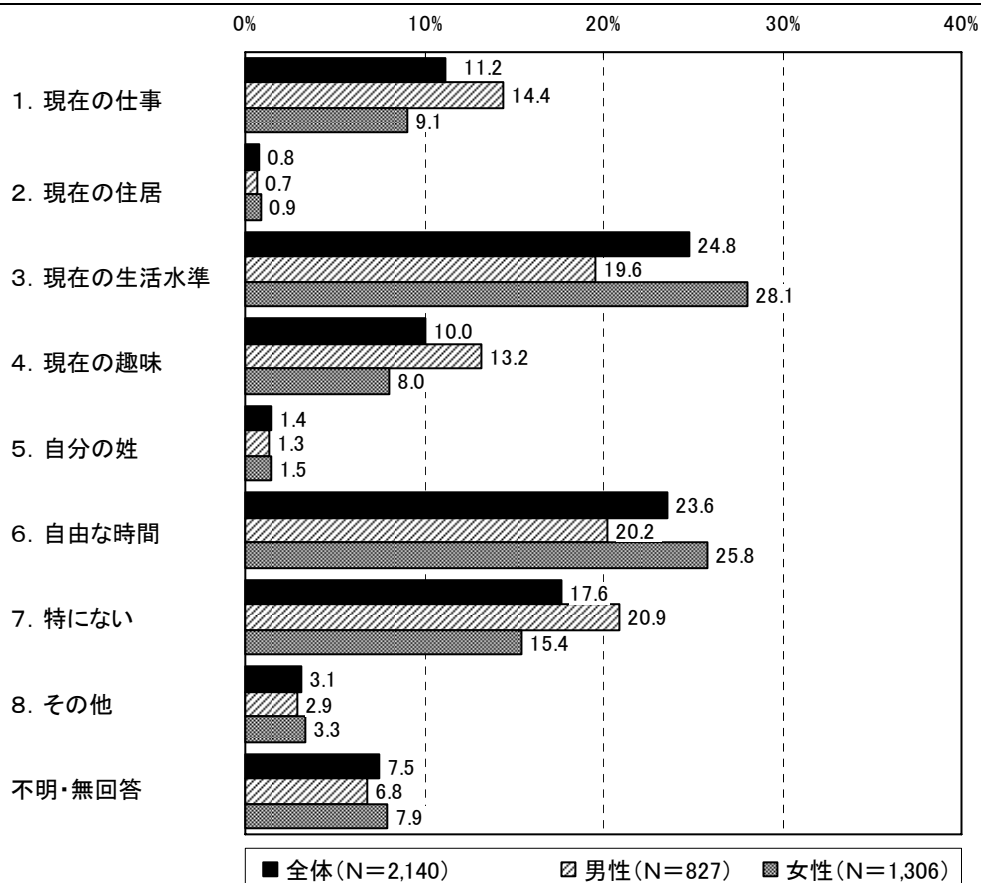
性別にみると、男性は「4. 結婚後の生活費のこと」、女性は「3. 相手の家族や親戚とのつきあい」がそれぞれ最も高くなっている。



問 16 結婚生活を始めた場合、失いたくないものは何ですか。(最も失いたくないもの1つだけ)

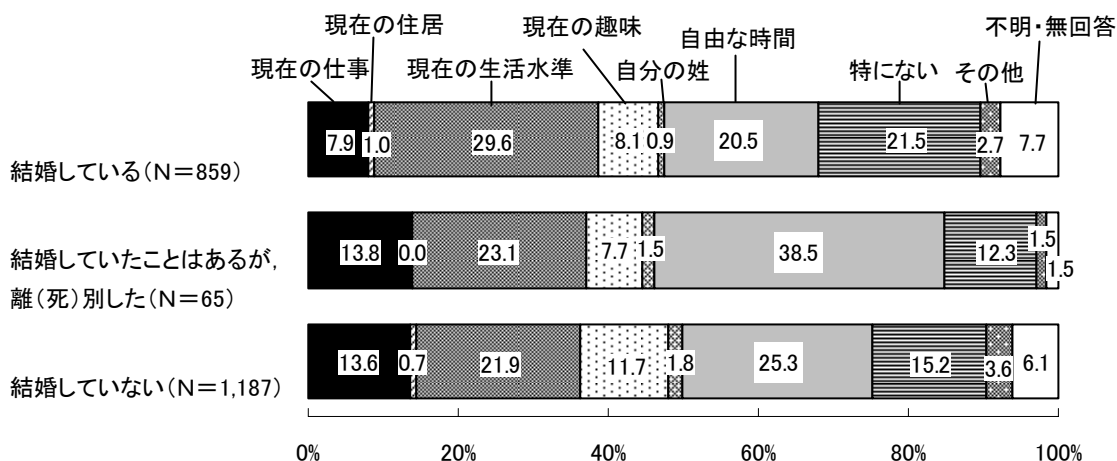
「3. 現在の生活水準」が24.8%と最も高く、次いで「6. 自由な時間」が23.6%、「7. 特にない」が17.6%と高くなっている。

性別にみると、「3. 現在の生活水準」については、「男性」が19.6%に対し、「女性」が28.1%と約10ポイントの差が生じている。



【結婚の有無別】

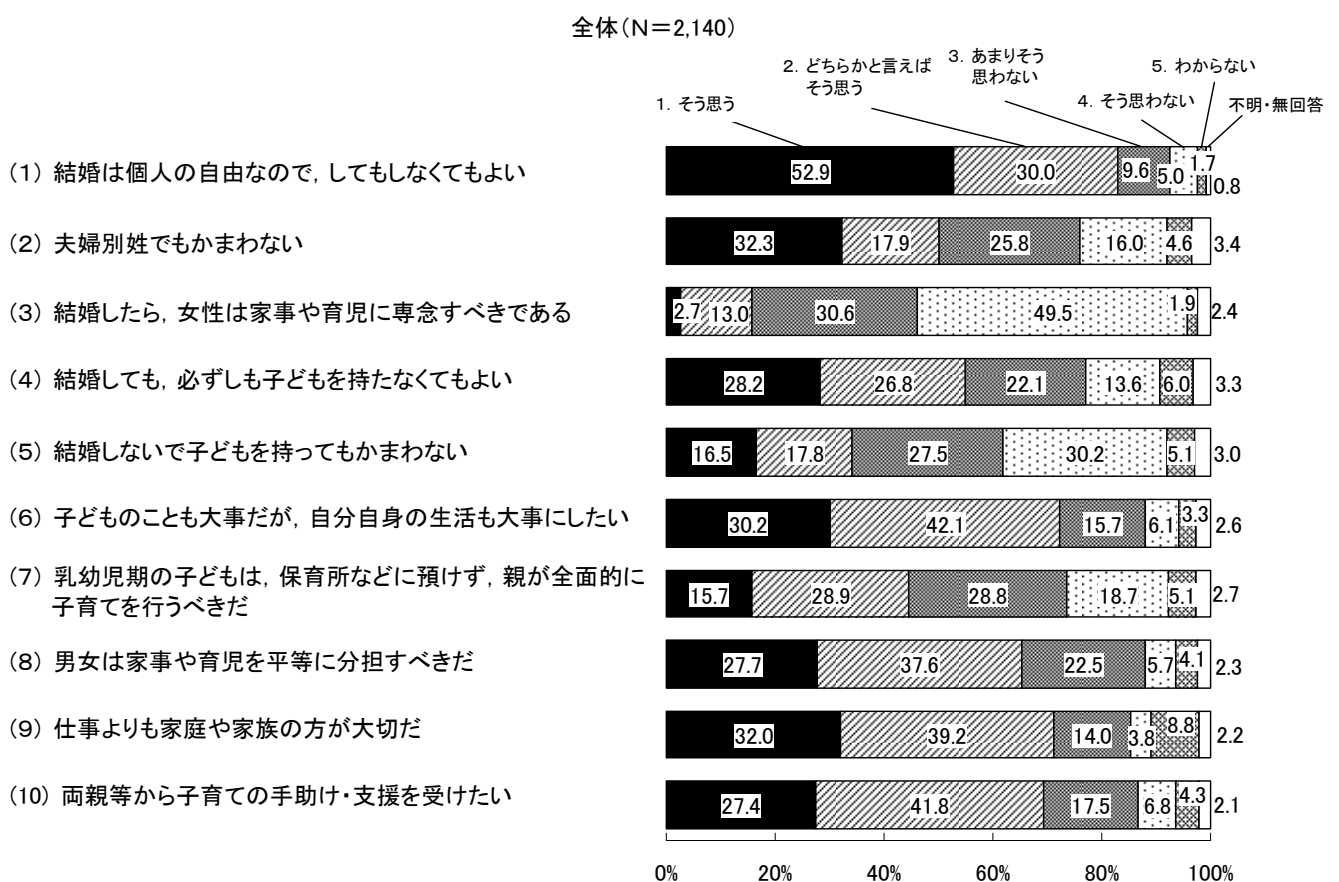
結婚の有無別にみると、「結婚している」では「現在の生活水準」が、「結婚していたことはあるが、離(死)別した」「結婚していない」では「自由な時間」が最も高い。



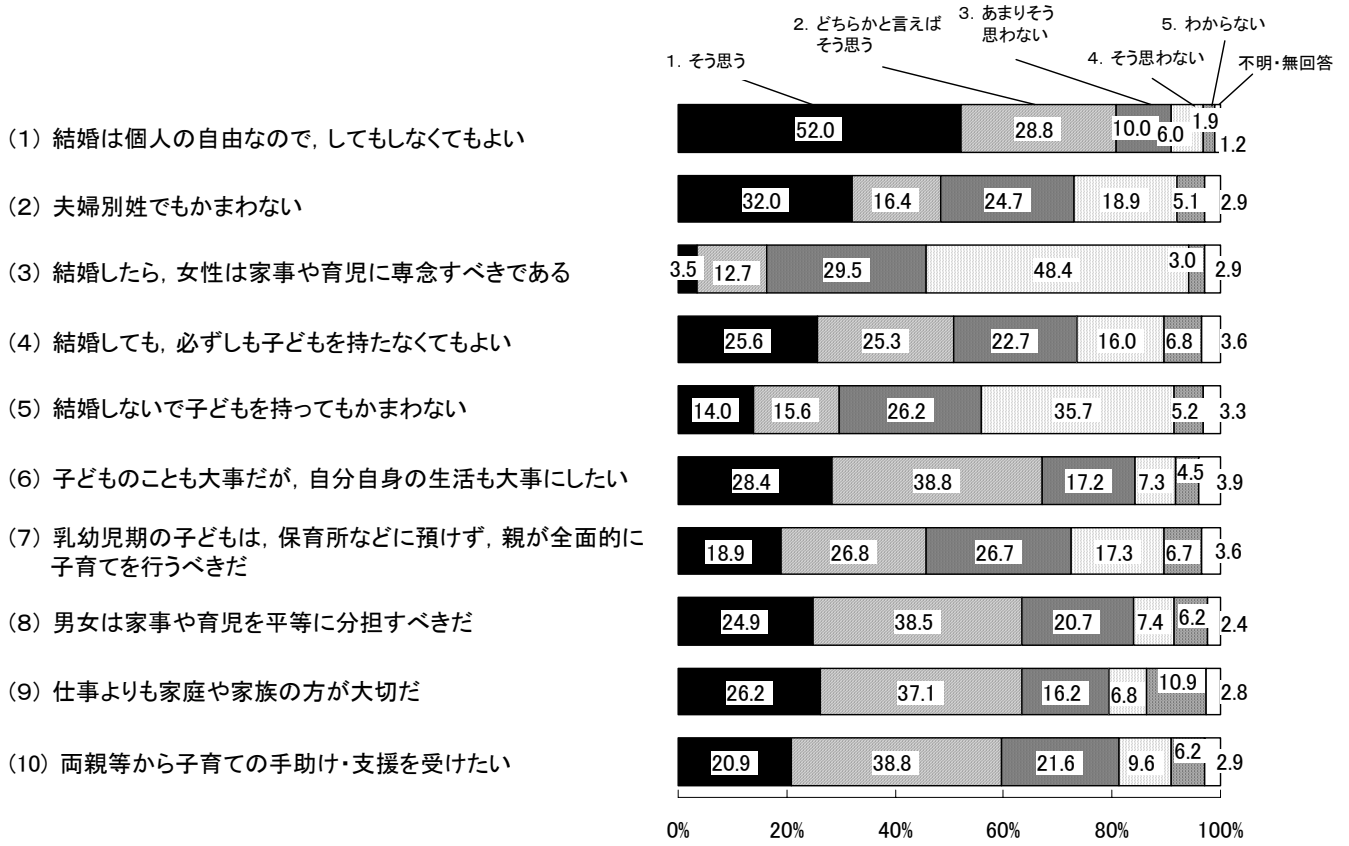
問 17 家族や家庭に関する次のような考え方について、どう思われますか。

「1. そう思う」と「2. どちらかと言えばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合が高い項目は、「(1) 結婚は個人の自由なので、してもしなくてもよい」が 82.9%と最も高くなっている。一方で、「3. あまりそう思わない」と「4. そう思わない」を合わせた『そう思わない』の割合が高い項目は、「(3) 結婚したら、女性は家事や育児に専念すべきである」が 80.1%と最も高くなっている。

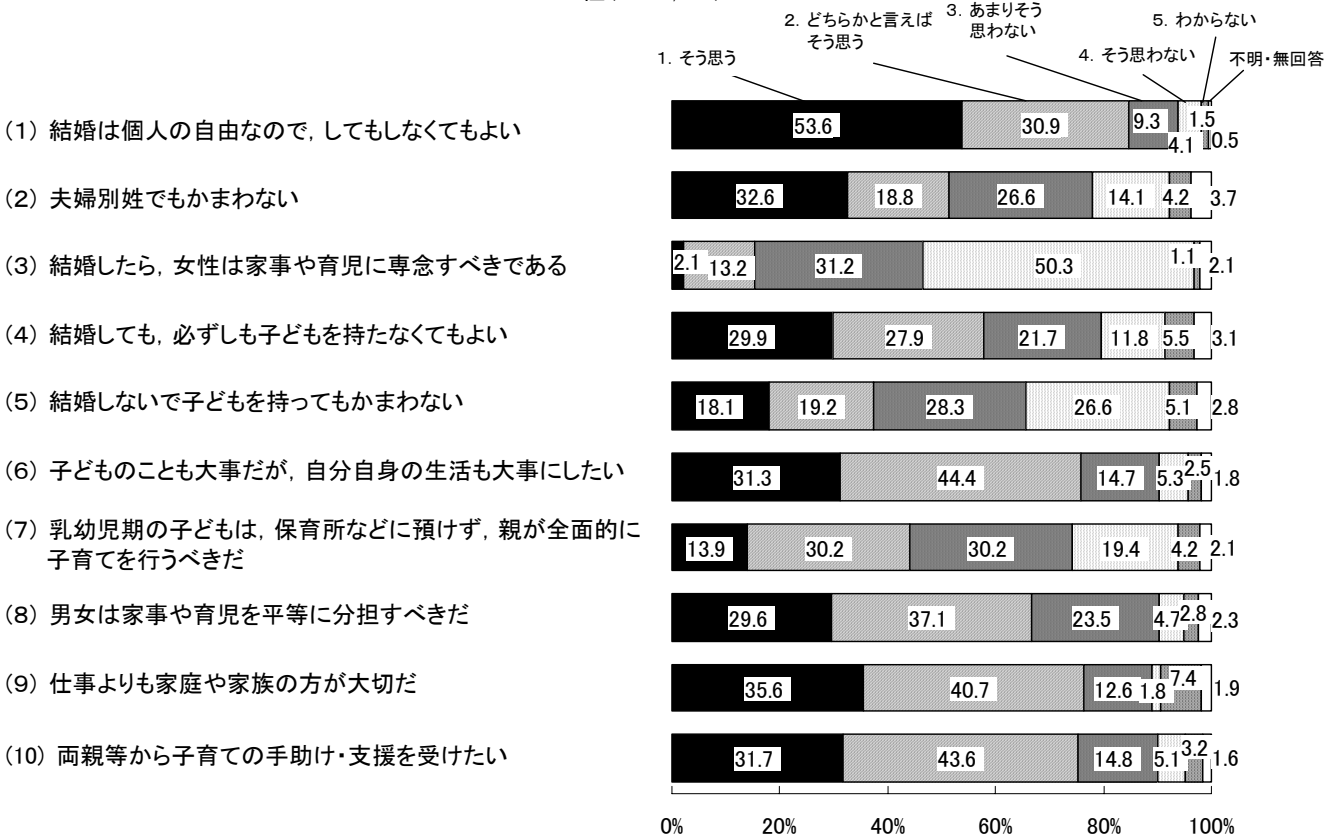
性別にみると、「(10) 両親等から子育ての手助け・支援を受けたい」については、『そう思う』の割合が「男性」が 59.7%に対し、「女性」が 75.3%と約 16 ポイント、「(9) 仕事よりも家庭や家族の方が大切だ」については、『そう思う』の割合が「男性」が 63.3%に対し、「女性」が 76.3%と 13 ポイントの差が生じている。



男性(N=827)

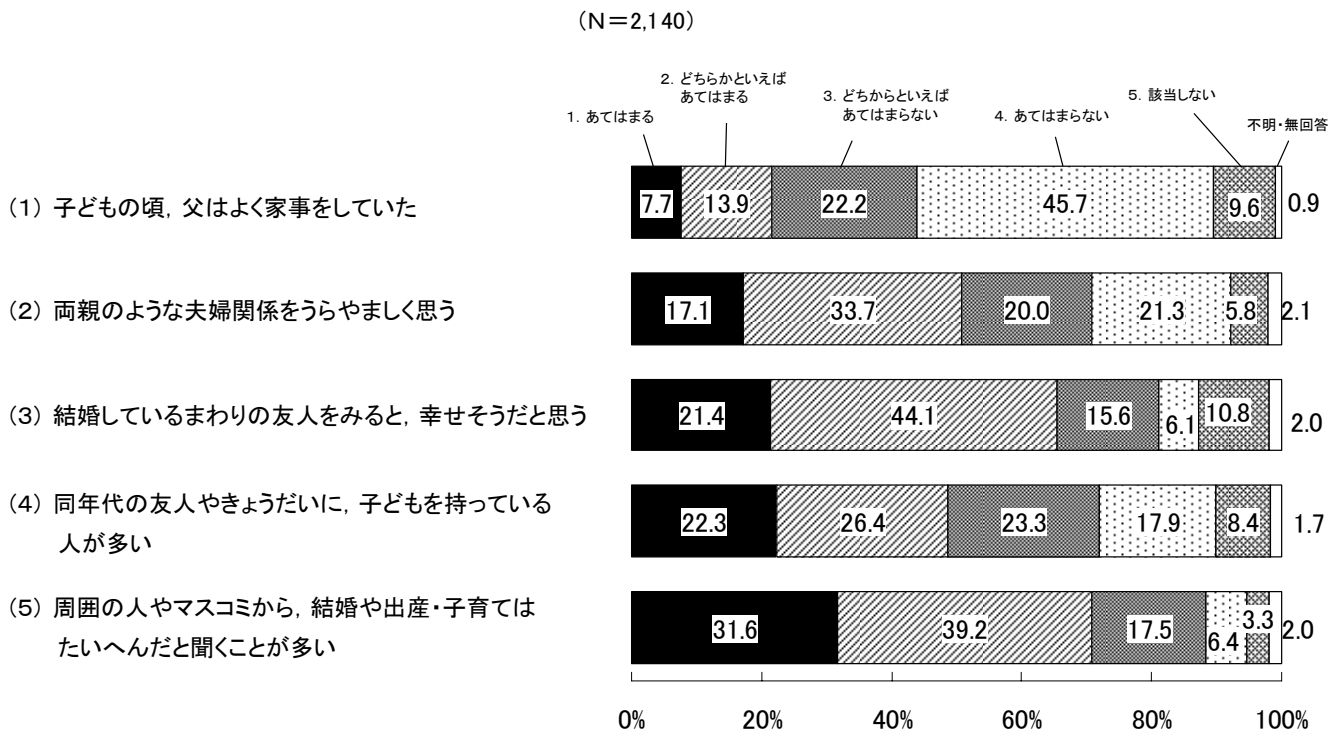


女性(N=1,306)



問 18 あなたのご両親や友人などについて、あなたはどのように思われますか。

「1. あてはまる」と「2. どちらかといえばあてはまる」を合わせた『あてはまる』の割合が高い項目は、「(5) 周囲の人やマスコミから、結婚や出産・子育てはたいへんだと聞くことが多い」が最も高く70.8%となっている。一方で、「3. どちらかといえばあてはまらない」と「4. あてはまらない」を合わせた『あてはまらない』の割合が高い項目は、「(1) 子どもの頃、父はよく家事をしていた」が67.9%と最も高くなっている。



【結婚の有無別】

結婚の有無別にみると、「同年代の友人やきょうだいに、子どもを持っている人が多い」については、「結婚している」では、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」の合計が7割弱あるのに対し、「結婚していない」では、3割強となっている。

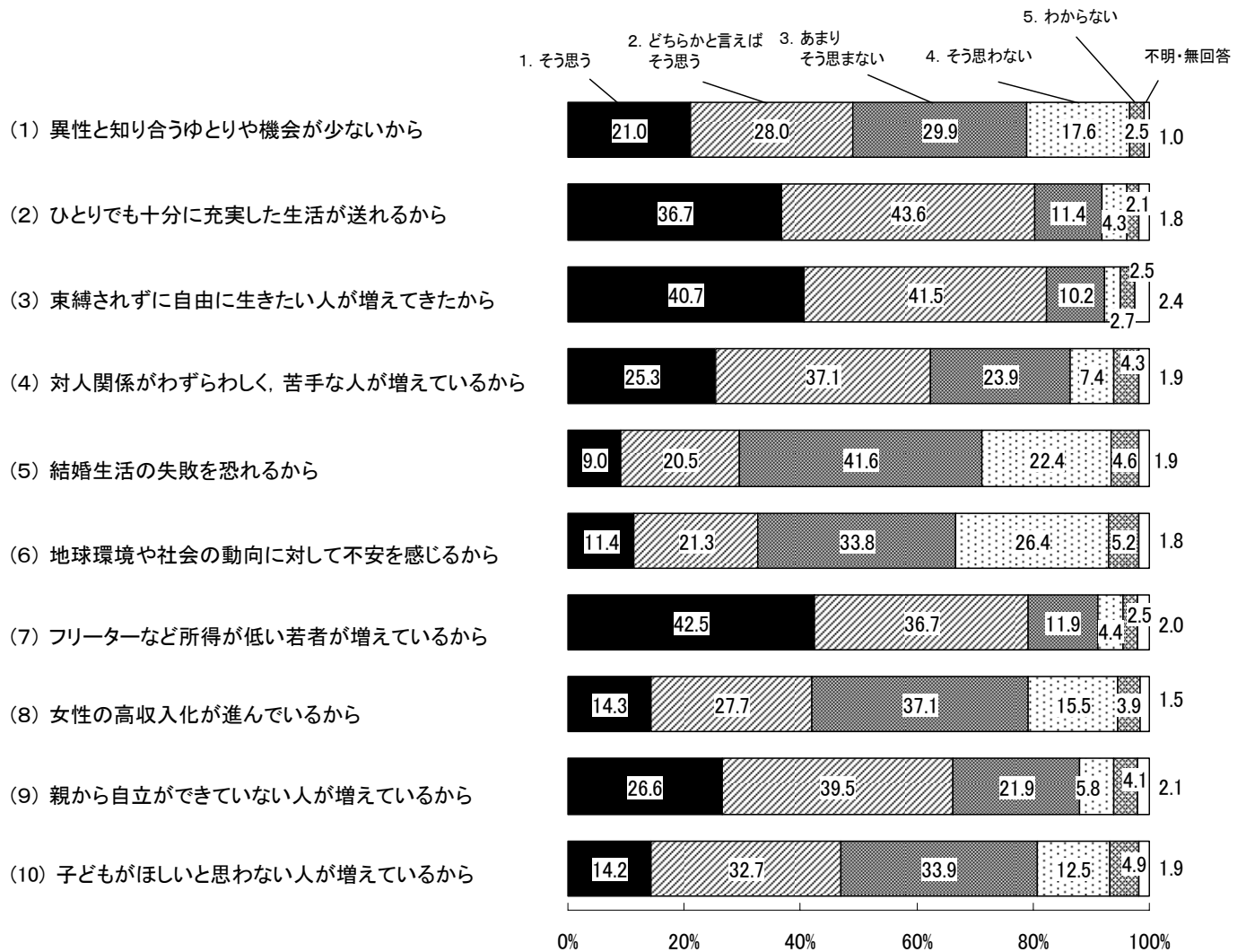
単位：%

		結婚の有無		
		結婚している	結婚していたことはあ るが、離(死)別した	結婚していない
回答者数(人)		859	65	1,187
子どもの 頃、父はよ く家事をし ていた	あてはまる	6.4	4.6	8.9
	どちらかといえばあてはまる	13.6	10.8	14.2
	どちらからといえばあてはまらない	21.4	33.8	21.8
	あてはまらない	47.4	40.0	44.9
	該当しない	9.9	10.8	9.4
	不明・無回答	1.3	-	0.8
両親のよう な夫婦関係 をうらやまし く思う	あてはまる	17.7	9.2	17.4
	どちらかといえばあてはまる	33.5	36.9	33.2
	どちらからといえばあてはまらない	19.0	21.5	20.7
	あてはまらない	21.4	26.2	20.9
	該当しない	5.7	4.6	6.1
	不明・無回答	2.7	1.5	1.7
結婚してい るまわりの 友達をみる と、幸せそ うだと思う	あてはまる	24.3	16.9	19.6
	どちらかといえばあてはまる	53.2	46.2	37.6
	どちらからといえばあてはまらない	12.3	27.7	17.0
	あてはまらない	4.4	4.6	7.2
	該当しない	3.3	4.6	16.8
	不明・無回答	2.4	-	1.8
同年代の友 人やきょう だいに、子 どもを持っ ている人が 多い	あてはまる	35.4	32.3	12.5
	どちらかといえばあてはまる	34.2	26.2	20.5
	どちらからといえばあてはまらない	17.9	29.2	26.4
	あてはまらない	9.0	7.7	25.4
	該当しない	0.9	4.6	14.1
	不明・無回答	2.6	-	1.3
周囲の人や マスコミか ら、結婚や 出産・子育 てはたいへ んだと聞くこ とが多い	あてはまる	32.4	32.3	31.0
	どちらかといえばあてはまる	39.6	40.0	38.4
	どちらからといえばあてはまらない	17.9	16.9	17.5
	あてはまらない	6.2	7.7	6.6
	該当しない	1.7	3.1	4.5
	不明・無回答	2.2	-	2.0

問 19 最近、結婚しない人や晩婚の人が増えている理由・原因として次のようなことが考えられていますが、あなたはどのようにお考えですか。

「1. そう思う」と「2. どちらかと言えばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合が高い項目は、「(3) 束縛されずに自由に生きていきたい人が増えてきたから」が最も高く 82.2%となっている。一方で、「3. あまりそう思わない」と「4. そう思わない」を合わせた『そう思わない』の割合が高い項目は、「(5) 結婚生活の失敗を恐れるから」が 64.0%と最も高くなっている。

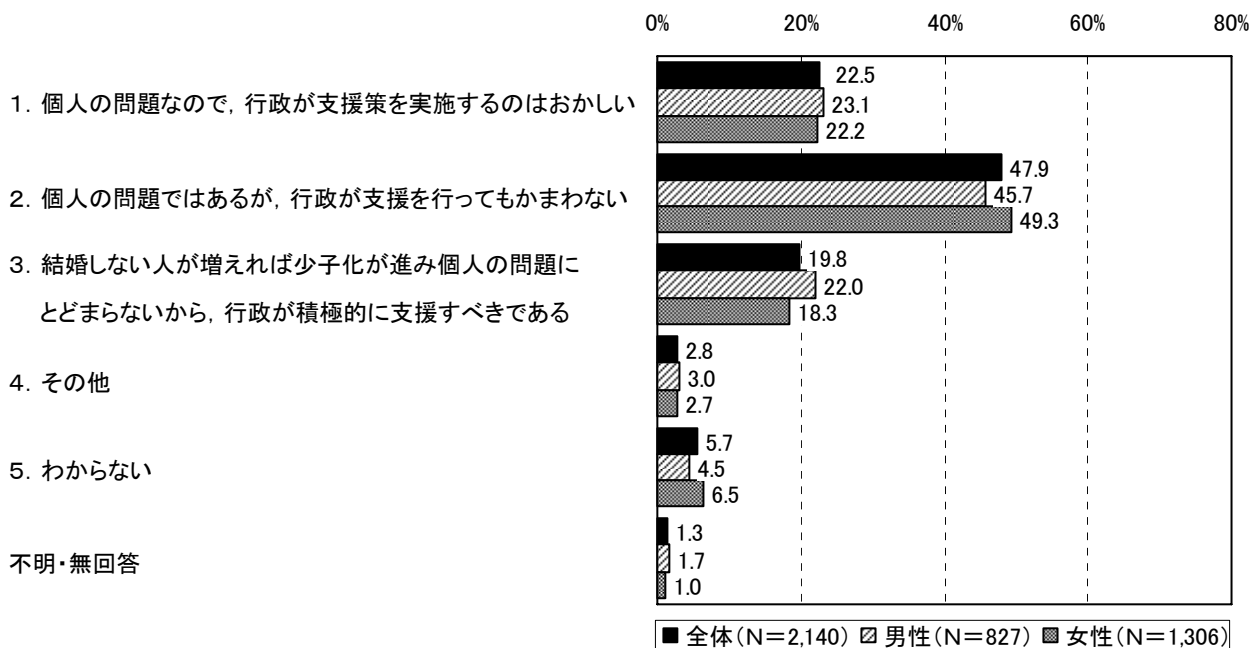
(N=2,140)



問 20 結婚する機会を増やすため、行政がなんらかの支援策を実施することについて
どう思われますか。

「2. 個人の問題ではあるが、行政が支援を行ってもかまわない」と思われている方が 47.9%と最も高くなっている。一方で、「1. 個人の問題なので、行政が支援策を実施するのはおかしい」と思われてる方が 22.5%となっており、「3. 結婚しない人が増えれば少子化が進み個人の問題にとどまらないから、行政が積極的に支援すべきである」と思われている方の 19.8%を上回っている。

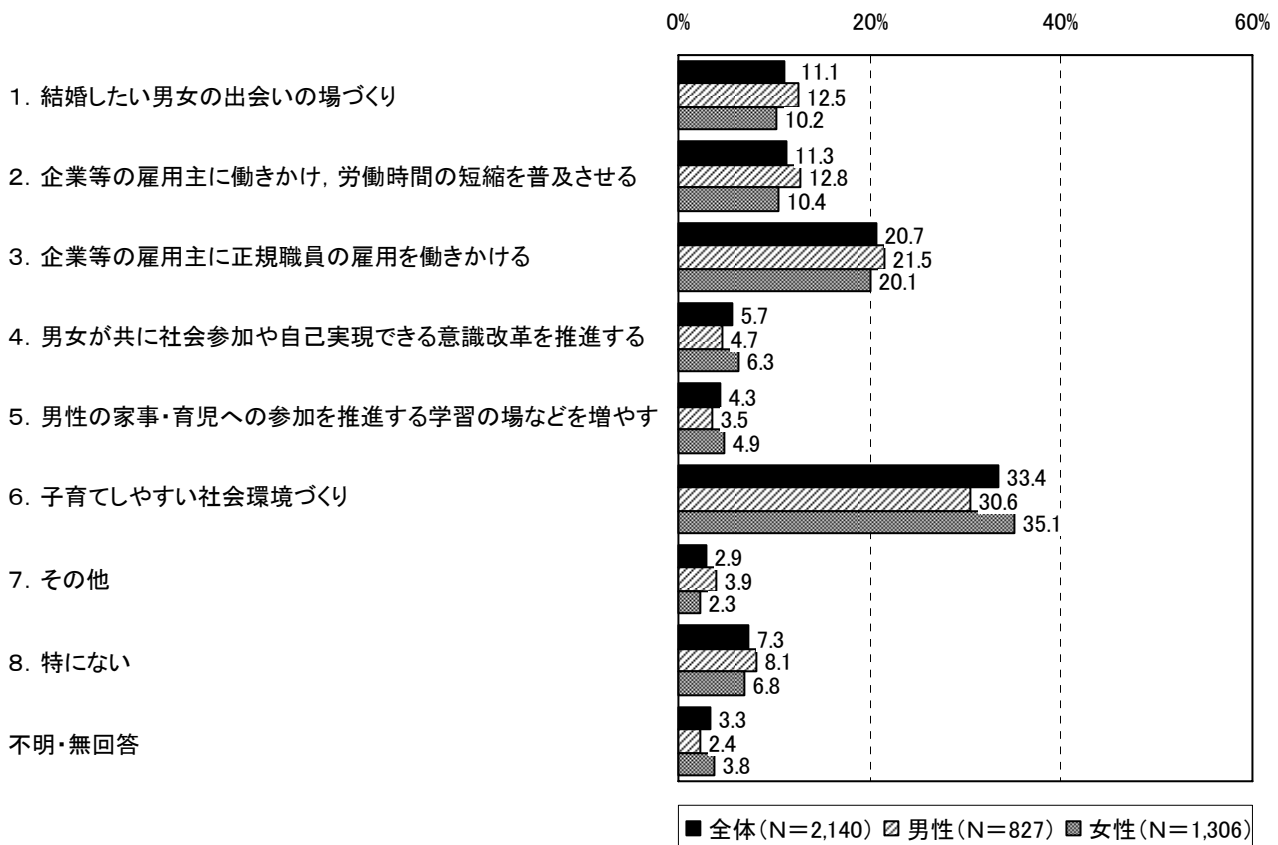
性別による大きな差はみられない。



問 21 結婚の支援のため、行政が実施することが望ましい政策はどのような内容が考えられますか。(最も望ましいと考えられるもの1つ)

「6. 子育てしやすい社会環境づくり」が 33.4%と最も高く、次いで「3. 企業等の雇用主に正規職員の雇用を働きかける」、「2. 企業等の雇用主に働きかけ、労働時間の短縮を普及させる」といった企業等への啓発が高くなっている。

性別による大きな差はみられない。

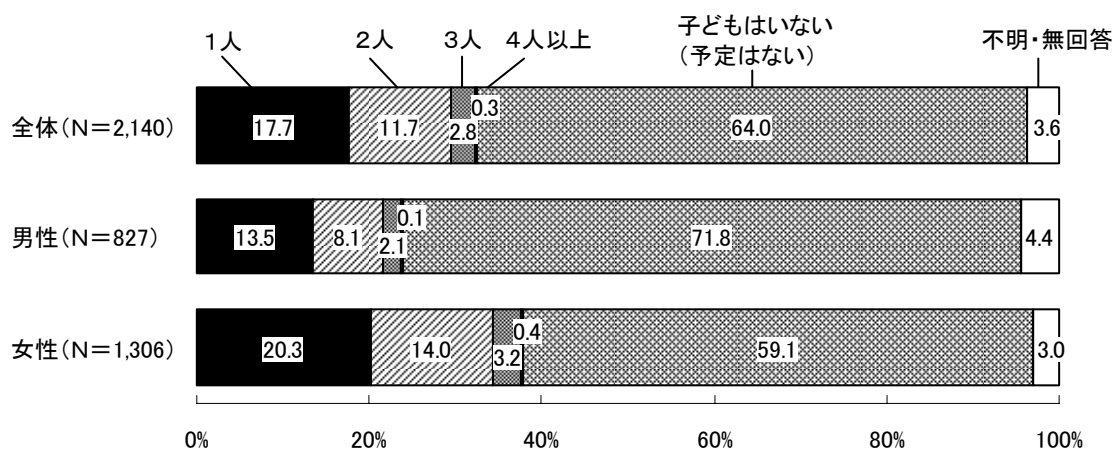


4 出産について

問 22 あなたは何人のお子さんがいらっしゃいますか。

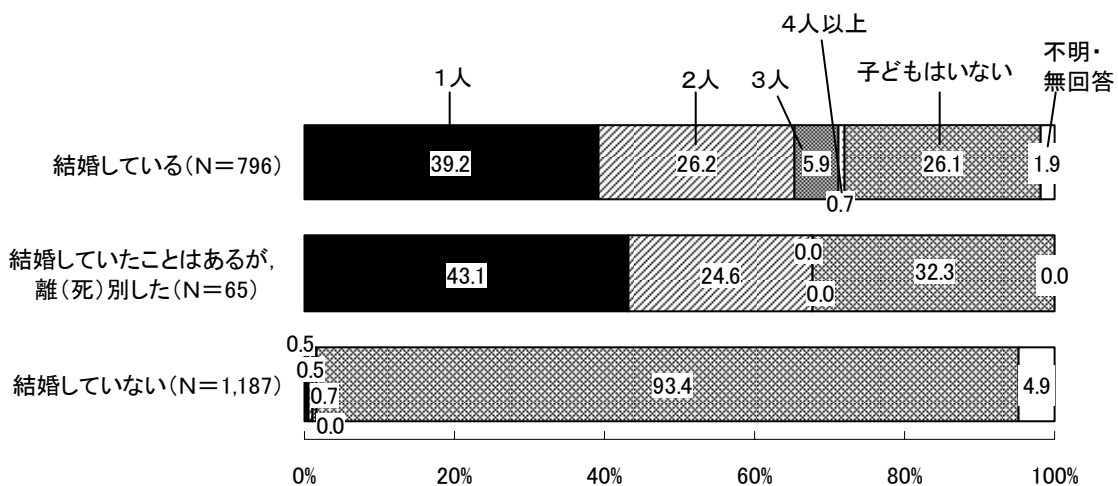
「子どもはいない（予定はない）」が最も多く、次いで「1人」が多い。

性別にみると、「子どもはいない（予定はない）」については、「男性」が71.8%に対し、「女性」が59.1%と約10ポイントの差が生じている。



【結婚の有無別】

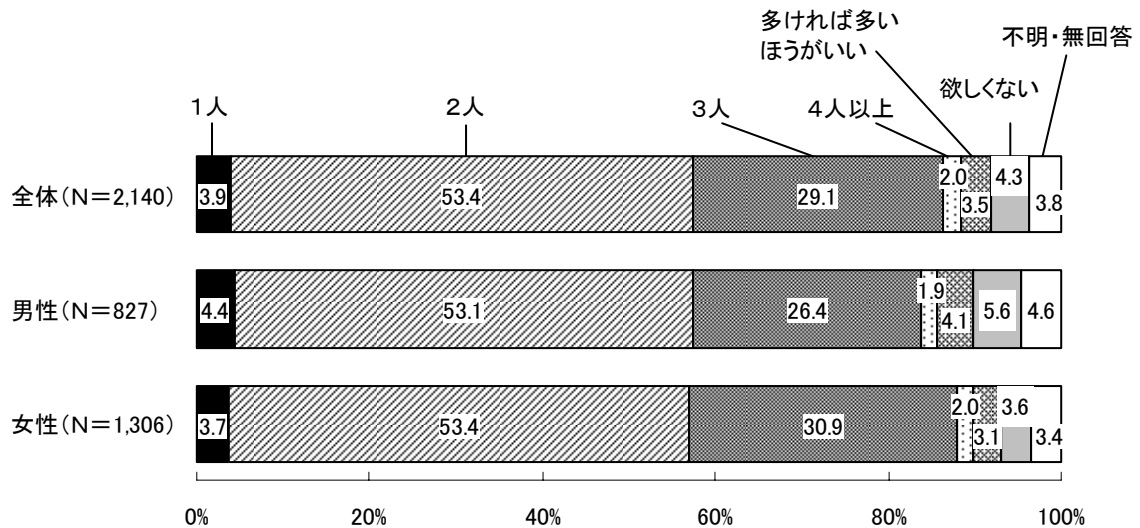
結婚の有無別にみると、「結婚している」「結婚していたことはあるが、離（死）別した」とともに子どもの数は「1人」が多い。



問 23 あなたが、できれば持たい「理想」の子どもの数は何人ですか。

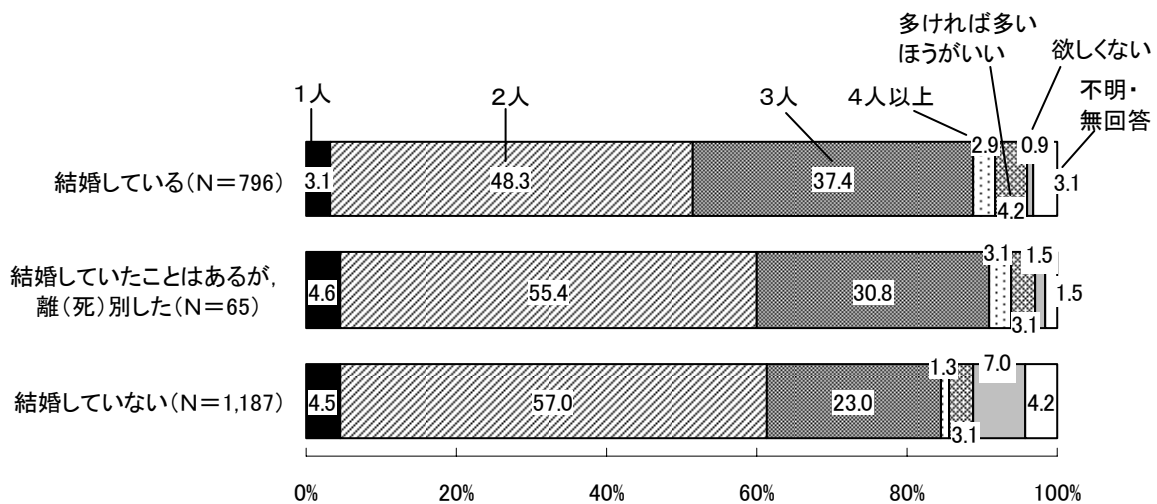
「2人」が53.4%と過半数を占め、「3人」が29.1%、「多ければ多いほうがいい」が3.5%ある一方、「欲しくない」と回答した方は4.3%となっている。

性別による大きな差はみられない。



【結婚の有無別】

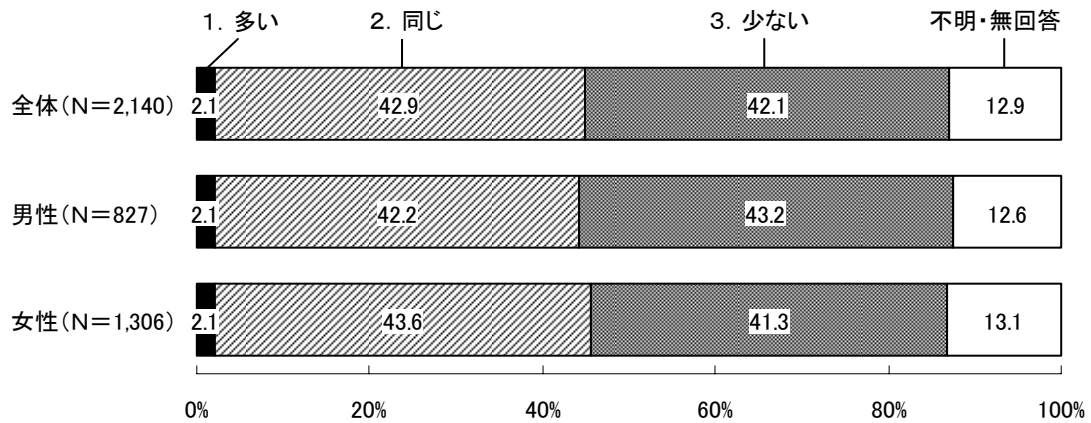
結婚の有無別にみると、「結婚していない」において、「3人」の割合が他の区分より低くなっている。



問 24 現実にはいらっしゃる子どもの数、もしくは持とうと予定されている子どもの数は理想と比べていかがですか。

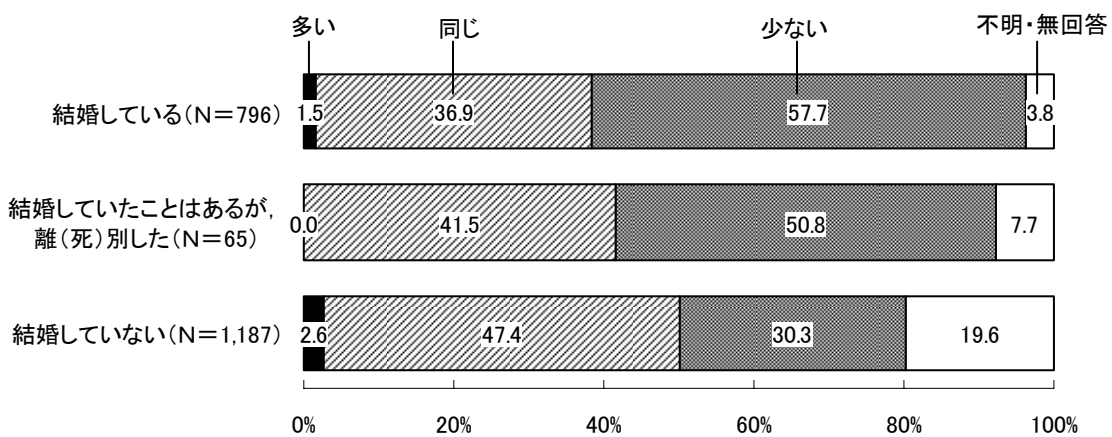
理想と「2. 同じ」と回答した方が 42.9%と高くなっているが、理想より「3. 少ない」と回答した方も 42.1%とほぼ同程度となっている。

性別による大きな差はみられない。



【結婚の有無別】

結婚の有無別にみると、「結婚している」では、「少ない」が 57.7%と「同じ」より約 20 ポイント上回る結果となっている。

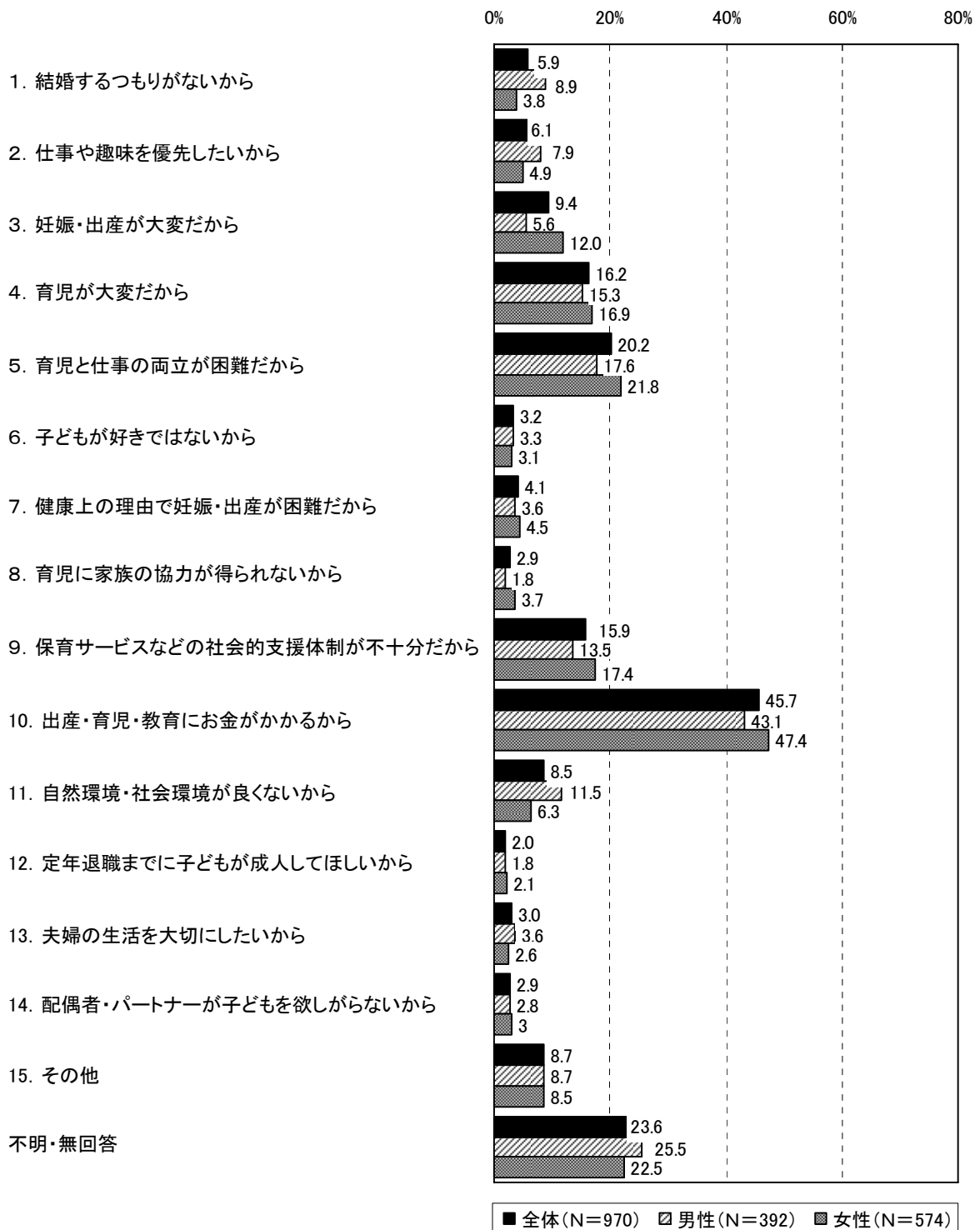


問 25, 問 26 は問 23 で「6」、または問 24 で「3」を選ばれた方におうかがいします。

問 25 子どもが欲しくない理由, 実際には理想より少なくなりそうな理由はどんなことが考えられますか。(あてはまるもの3つまで)

「10. 出産・育児・教育にお金がかかるから」, 「5. 育児と仕事の両立が困難だから」, 「4. 育児が大変だから」などの項目が高くなっている。

性別による大きな差はみられない。



※問 23 で「6. 欲しくない」または問 24 で「3. 少ない」のどちらかを選択した方だけの回答結果

【結婚の有無別】

結婚の有無別にみると、「結婚している」「結婚していたことはあるが、離(死)別した」「結婚していない」ともに「出産・育児・教育にお金がかかるから」が最も高いものの、値については10ポイント以上の差が生じている。

単位：％

	結婚の有無		
	結婚している	結婚していたことはあるが、離(死)別した	結婚していない
回答者数(人)	501	34	423
結婚するつもりがないから	0.2	5.9	12.8
仕事や趣味を優先したいから	2.8	2.9	10.2
妊娠・出産が大変だから	10.2	5.9	8.7
育児が大変だから	15.8	20.6	16.8
育児と仕事の両立が困難だから	20.4	23.5	20.1
子どもが好きではないから	1.0	-	6.1
健康上の理由で妊娠・出産が困難だから	6.2	-	1.9
育児に家族の協力が得られないから	4.4	2.9	0.9
保育サービスなどの社会的支援体制が不十分だから	16.2	11.8	15.4
出産・育児・教育にお金がかかるから	53.7	29.4	37.4
自然環境・社会環境が良くないから	7.6	5.9	9.0
定年退職までに子どもが成人してほしいから	2.0	-	2.1
夫婦の生活を大切にしたいから	3.6	-	2.6
配偶者・パートナーが子どもを欲しがらないから	4.6	2.9	0.9
その他	9.6	11.8	7.6
不明・無回答	22.2	35.3	24.6

【性別×結婚の有無別】

性別×結婚の有無別にみると、性別による大きな差はみられない。

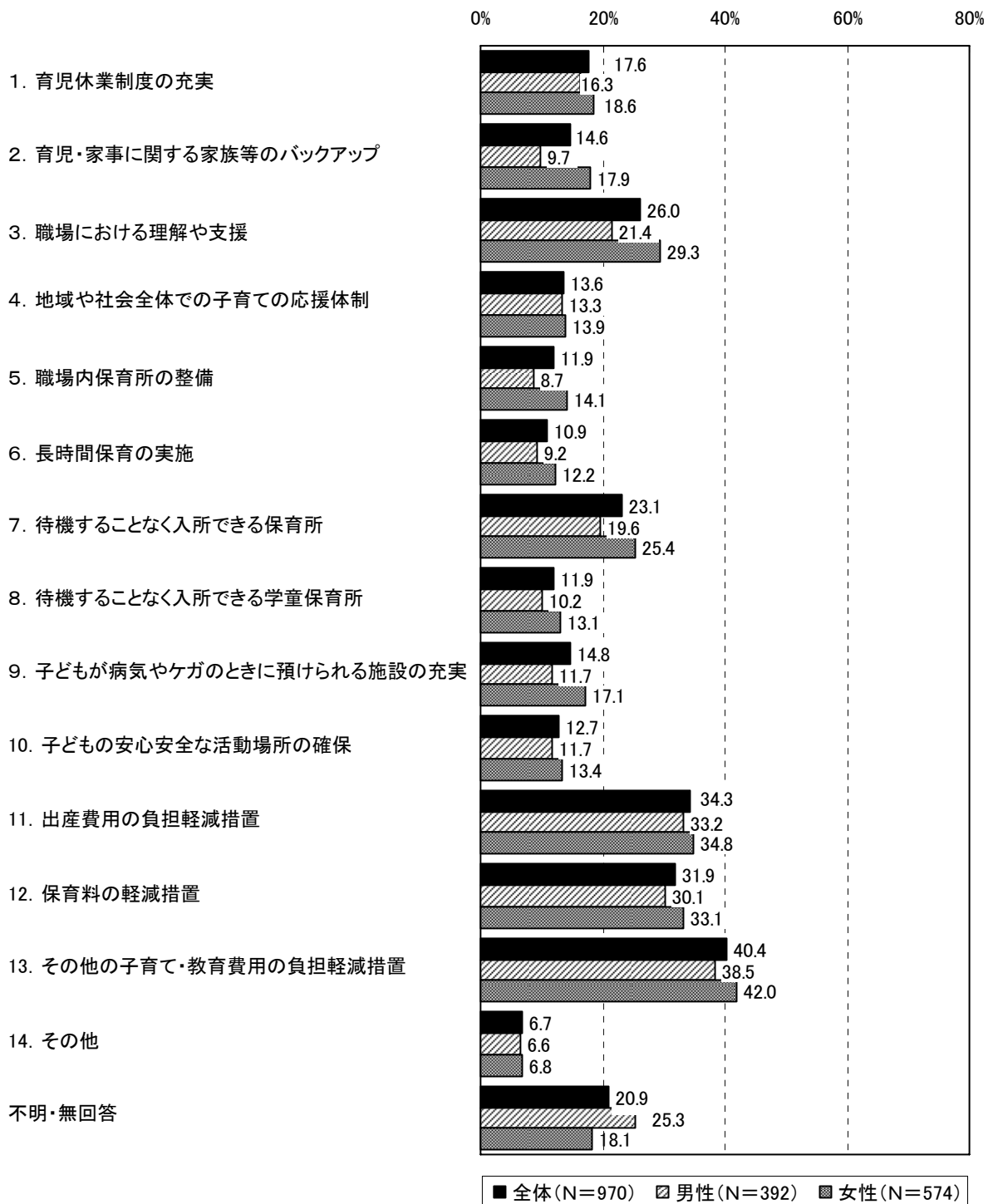
単位：％

	男性			女性		
	結婚している	結婚していたことはあるが、離(死)別した	結婚していない	結婚している	結婚していたことはあるが、離(死)別した	結婚していない
回答者数(人)	170	9	209	329	25	212
結婚するつもりがないから	0.6	11.1	15.8	-	4.0	9.9
仕事や趣味を優先したいから	2.4	11.1	12.0	3.0	-	8.5
妊娠・出産が大変だから	8.2	-	3.8	11.2	8.0	13.7
育児が大変だから	12.4	11.1	18.2	17.6	24.0	15.6
育児と仕事の両立が困難だから	24.1	22.2	12.4	18.5	24.0	26.9
子どもが好きではないから	1.8	-	4.8	0.6	-	7.5
健康上の理由で妊娠・出産が困難だから	7.1	-	1.0	5.8	-	2.8
育児に家族の協力が得られないから	1.8	-	1.4	5.8	4.0	0.5
保育サービスなどの社会的支援体制が不十分だから	14.7	11.1	12.0	17.0	12.0	18.4
出産・育児・教育にお金がかかるから	52.9	22.2	36.4	54.1	32.0	38.2
自然環境・社会環境が良くないから	7.6	22.2	13.4	7.6	-	4.2
定年退職までに子どもが成人してほしいから	0.6	-	2.9	2.7	-	1.4
夫婦の生活を大切にしたいから	5.3	-	2.4	2.7	-	2.8
配偶者・パートナーが子どもを欲しがらないから	5.9	-	0.5	4.0	4.0	1.4
その他	9.4	22.2	7.7	9.4	8.0	7.5
不明・無回答	22.9	22.2	28.2	21.9	40.0	21.2

問 26 以下の項目について、もし十分に条件が満たされていたら、子どもをもったり、理想の子ども数に近づいていたと思いますか。（これだけあればできるかもしれないと思われる最低限必要な項目）

「13. その他の子育て・教育費用の負担軽減措置」、「11. 出産費用の負担軽減措置」、「12. 保育料の軽減措置」といった経済的負担の軽減などの項目が高くなっており、次いで「3. 職場における理解や支援」や「7. 待機することなく入所できる保育所」が高くなっている。

性別にみると、「3. 職場における理解や支援」については、「男性」が21.4%に対し、「女性」が29.3%と約8ポイントの差が生じている。



※問 23 で「6. 欲しくない」または問 24 で「3. 少ない」のどちらかを選択した方だけの回答結果

【結婚の有無別】

結婚の有無別にみると、「その他の子育て・教育費用の負担軽減措置」「保育料の軽減措置」「出産費用の負担軽減措置」については、「結婚している」において他の区分より割合が高い。

単位：％

	結婚の有無		
	結婚している	結婚していたことはあるが、離(死)別した	結婚していない
回答者数(人)	501	34	423
育児休業制度の充実	15.0	14.7	21.5
育児・家事に関する家族等のバックアップ	17.2	5.9	12.1
職場における理解や支援	25.5	29.4	26.2
地域や社会全体での子育ての応援体制	12.6	11.8	14.4
職場内保育所の整備	15.4	23.5	7.1
長時間保育の実施	12.0	8.8	9.9
待機することなく入所できる保育所	25.3	20.6	19.6
待機することなく入所できる学童保育所	13.4	14.7	9.0
子どもが病気やケガのときに預けられる施設の充実	15.8	14.7	13.5
子どもの安心安全な活動場所の確保	15.2	5.9	9.9
出産費用の負担軽減措置	42.3	23.5	25.3
保育料の軽減措置	39.9	20.6	22.9
その他の子育て・教育費用の負担軽減措置	48.9	14.7	32.2
その他	7.8	8.8	5.4
不明・無回答	15.8	29.4	26.2

【性別×結婚の有無別】

性別×結婚の有無別にみると、「結婚していたことはあるが、離(死)別した」「結婚していない」において、「女性」の方が「男性」より、「職場における理解や支援」の割合が高い。

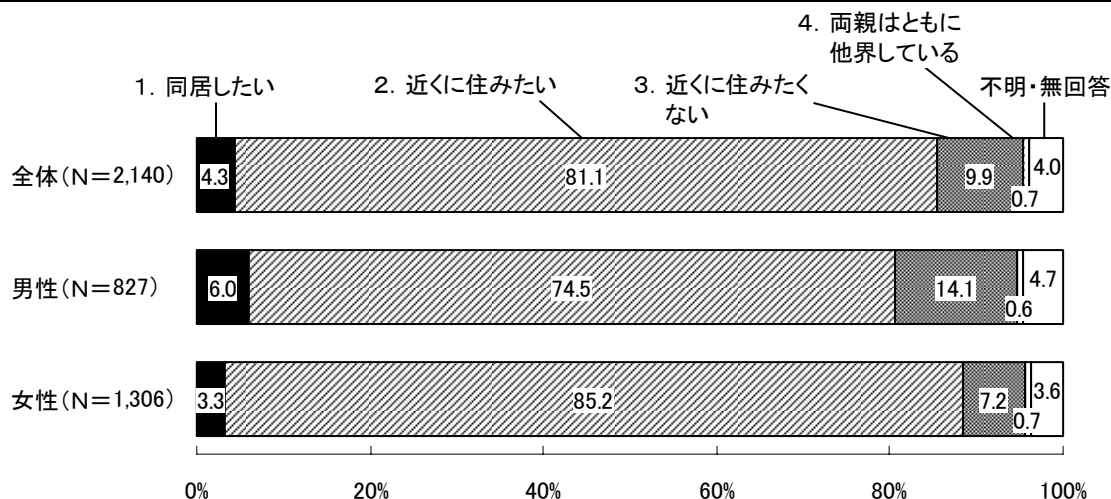
単位：％

	男性			女性		
	結婚している	結婚していたことはあるが、離(死)別した	結婚していない	結婚している	結婚していたことはあるが、離(死)別した	結婚していない
回答者数(人)	170	9	209	329	25	212
育児休業制度の充実	17.6	11.1	15.8	13.7	16.0	27.4
育児・家事に関する家族等のバックアップ	10.6	-	9.1	20.7	8.0	14.6
職場における理解や支援	22.9	11.1	21.1	27.1	36.0	31.6
地域や社会全体での子育ての応援体制	10.0	11.1	15.8	14.0	12.0	13.2
職場内保育所の整備	13.5	-	5.3	16.4	32.0	9.0
長時間保育の実施	11.2	-	8.1	12.5	12.0	11.8
待機することなく入所できる保育所	25.9	-	15.3	25.2	28.0	23.6
待機することなく入所できる学童保育所	14.1	-	7.2	13.1	20.0	10.8
子どもが病気やケガのときに預けられる施設の充実	13.5	11.1	10.0	17.0	16.0	17.0
子どもの安心安全な活動場所の確保	14.7	-	10.0	15.5	8.0	9.9
出産費用の負担軽減措置	44.1	11.1	25.4	41.0	28.0	25.0
保育料の軽減措置	41.2	-	23.0	39.5	28.0	22.6
その他の子育て・教育費用の負担軽減措置	45.9	-	34.4	50.8	20.0	30.2
その他	7.6	22.2	5.3	7.9	4.0	5.7
不明・無回答	18.2	44.4	29.7	14.6	24.0	23.1

問 27 すべての方におうかがいします。あなたは出産後の実家との理想的な距離についてどう思われていますか。

出産後、実家の「2. 近くに住みたい」と回答した方が81.1%と大半を占めている。

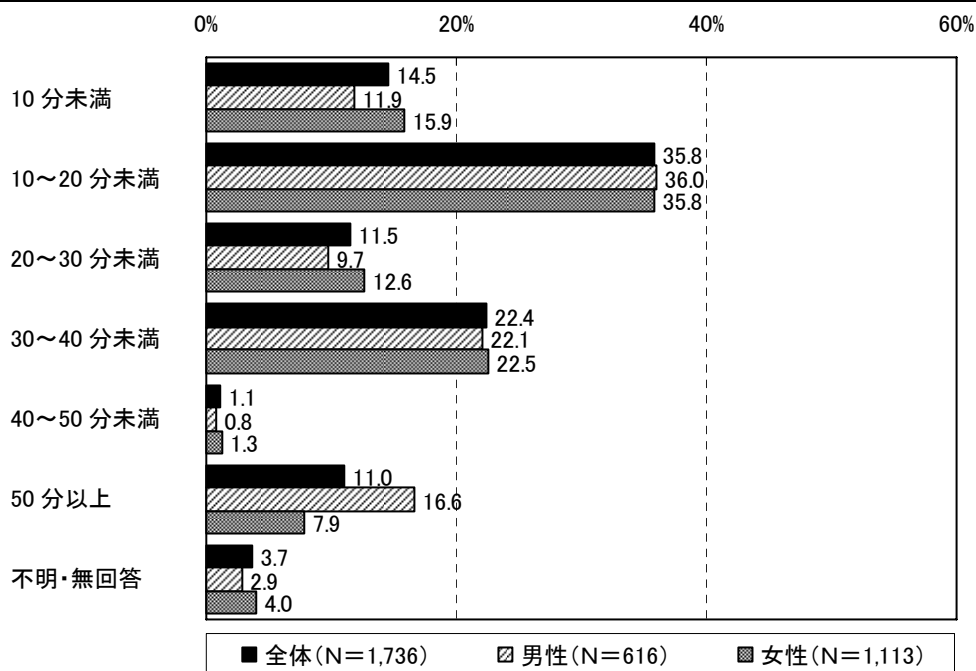
性別にみると、「近くに住みたい」については、「男性」が74.5%に対し、「女性」が85.2%と約10ポイントの差が生じている。



問 27-1 問 27 で「2」を選ばれた方におうかがいします。実家との理想的な距離は、車で何分くらいですか。

実家の近くに住みたいと回答した方に、理想的な距離は車で何分くらいかを聞いたところ、20分未満と回答した方が過半数を占めている。

性別にみると、「50分以上」について、「男性」が16.6%に対し、「女性」が7.9%と約9ポイントの差が生じている。



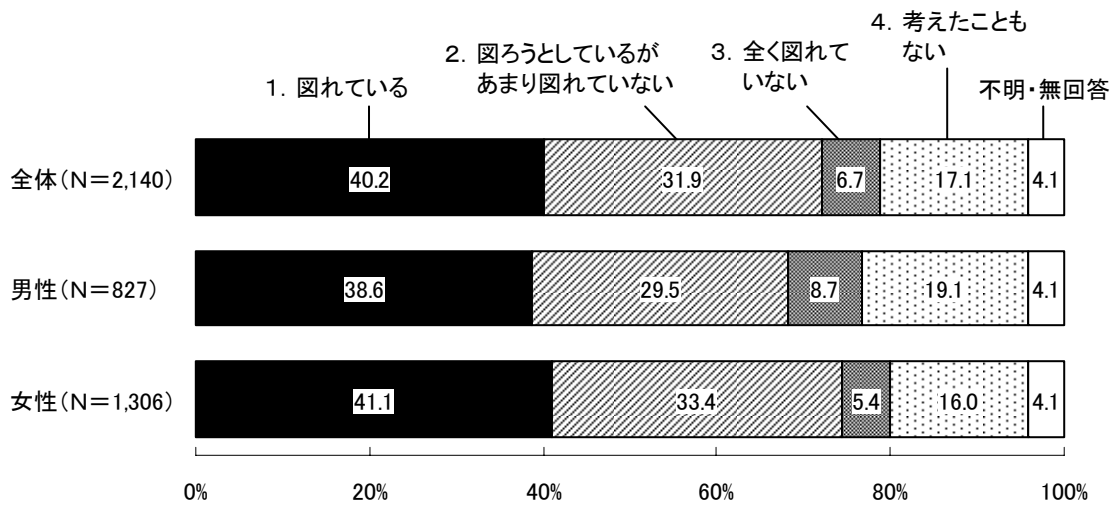
※問 27 で「2. 近くに住みたい」を選択した方だけの回答結果

5 仕事と生活の調和の推進（ワークライフバランス）について

問 28 あなたご自身やご家族は仕事と生活の調和が図れていると思いますか。

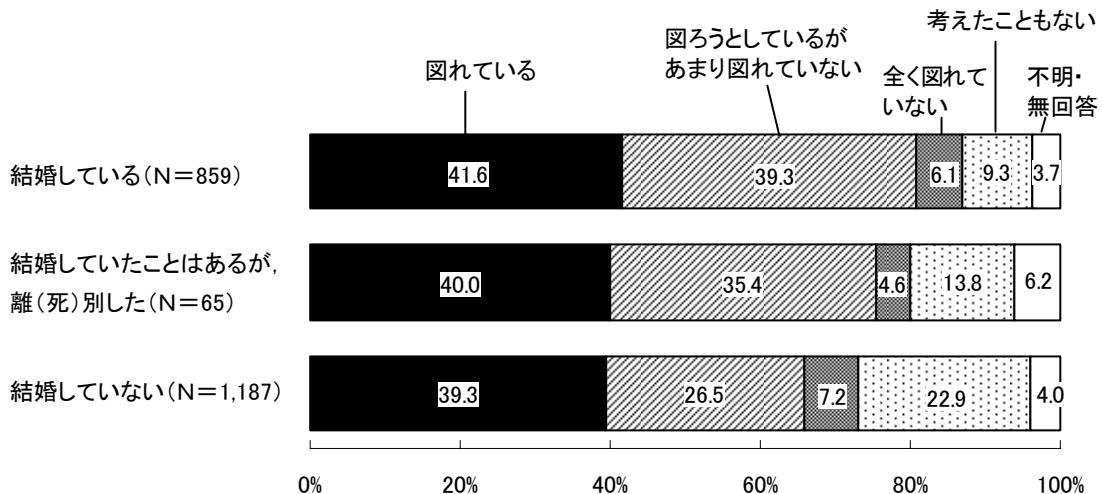
仕事と生活の調和が「1. 図れている」と回答した方が 40.2%、一方「2. 図ろうとしているがあまり図れていない」が 31.9%、「3. 全く図れていない」が 6.7%となっており、「4. 考えたこともない」と回答した方も 17.1%あった。

性別による大きな差はみられない。



【結婚の有無別】

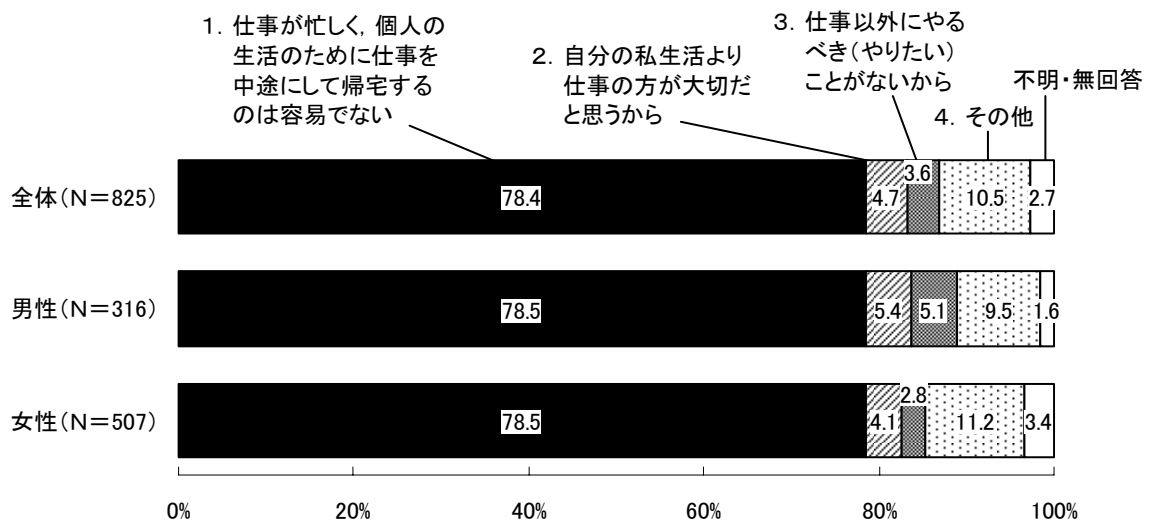
結婚の有無別にみると、「結婚している」で「図ろうとしているがあまり図れていない」が、「結婚していない」では「考えたこともない」が他に比べて割合が高くなっている。



問 28-1 問 28 で「2」または「3」を選ばれた方におうかがいします。図れていない理由は何か。

仕事と生活との調和を図ろうとしているがあまり図れていない、全く図れていないと回答した方に、その理由を聞いたところ、「1. 仕事が忙しく、個人の生活のために仕事を中途にして帰宅するのは容易でない」と回答した方が78.4%と大半を占めている。

性別による大きな差はみられない。

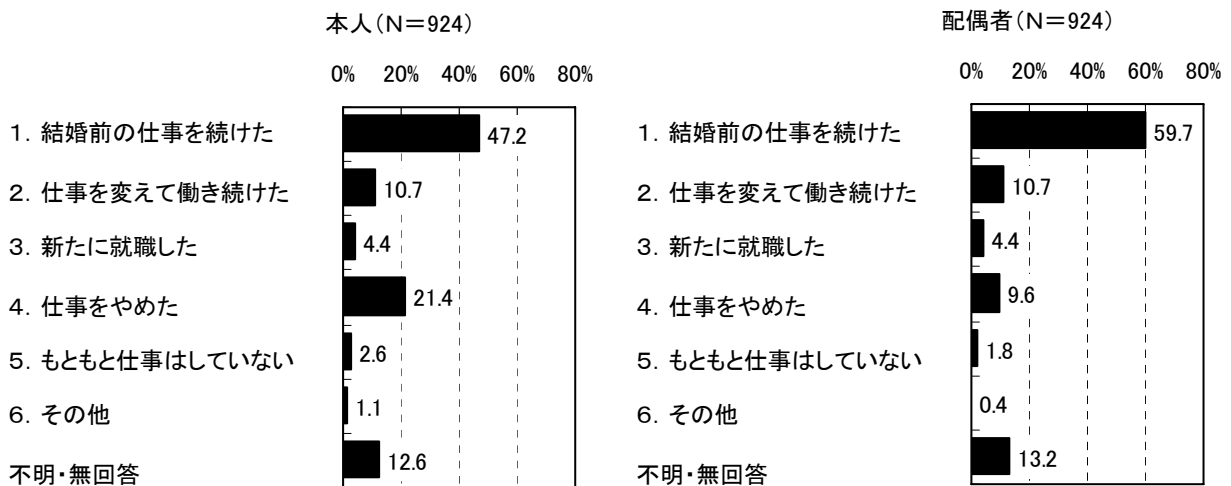


※問 28 で「2. 図ろうとしているがあまり図れていない」または「3. 全く図れていない」のどちらかを選択した方だけの回答結果

問 29～問 32 は結婚（入籍していない、いわゆる事実婚を含みます）されている方におうかがいします。

問 29 結婚の前後で、仕事の状況はどのように変わりましたか。

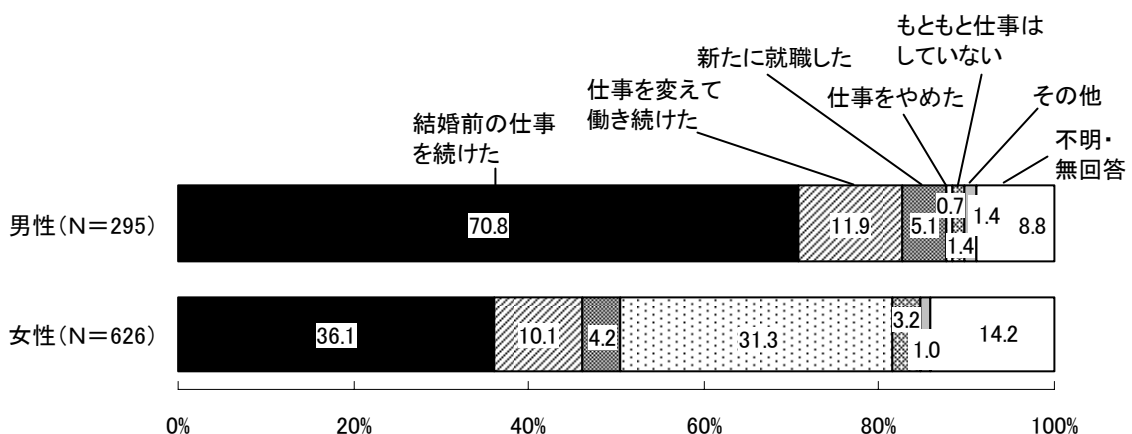
本人、配偶者ともに「1. 結婚前の仕事を続けた」が、本人は 47.2%、配偶者は 59.7%と過半数を占めている。次いで本人は「4. 仕事をやめた」が 21.4%、「2. 仕事を変えて働き続けた」が 10.7%、配偶者は「2. 仕事を変えて働き続けた」が 10.7%、「4. 仕事をやめた」が 9.6%となっている。



※結婚（入籍していない、いわゆる事実婚を含む）されている方だけの回答結果

【性別】

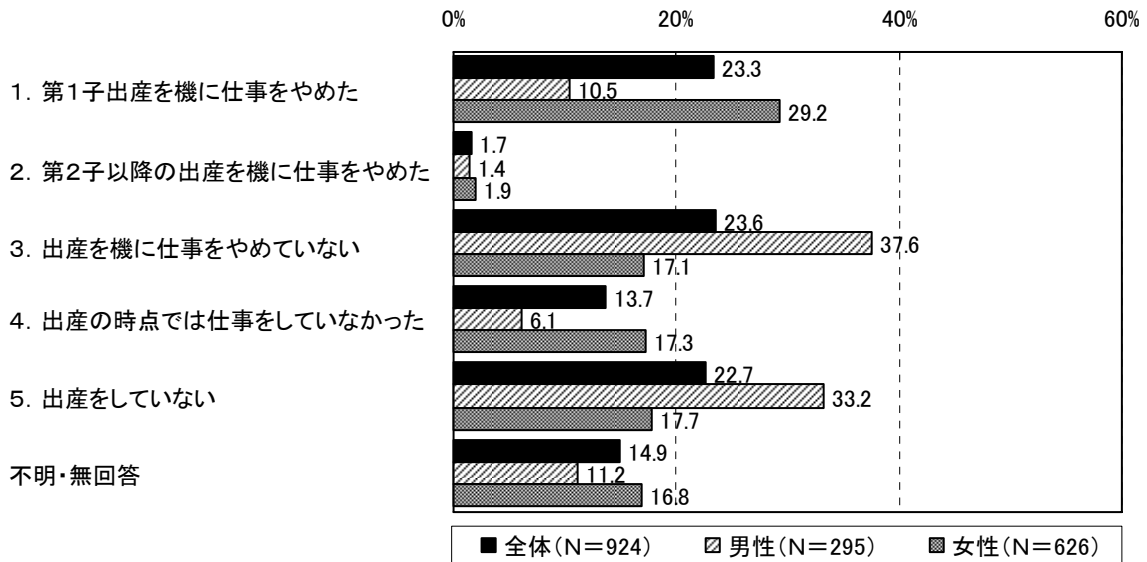
性別にみると、「男性」では「結婚前の仕事を続けた」など、仕事をしている割合が高くなっている。また、「女性」では「仕事をやめた」が「男性」と比べて特に高くなっている。



問 30 あなたは、出産（配偶者の出産を含む）を機に仕事をやめた経験がありますか。

出産（配偶者の出産を含む）を機に仕事をやめた経験がある方は、第1子の出産時と第2子以降の出産時を合わせて25.0%、一方「3. 出産を機に仕事をやめていない」方が23.6%となっている。

性別にみると、「女性」では「1. 第1子出産を機に仕事をやめた」が「男性」に比べて特に高くなっている。



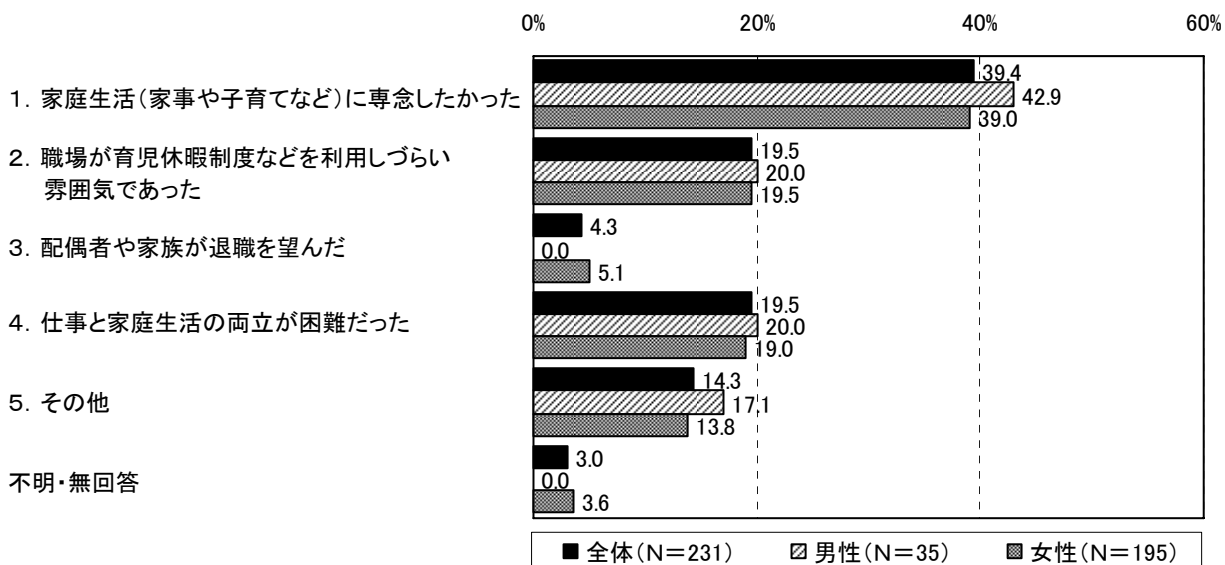
※結婚（入籍していない、いわゆる事実婚を含む）されている方みの回答結果

問 30 で「1」,「2」を選ばれた方は問 30-1, 2 にもご記入ください。

問 30-1 なぜ仕事をやめたのですか。

出産（配偶者の出産を含む）を機に仕事をやめた経験がある方に、なぜ仕事をやめたのか聞いたところ、「1. 家庭生活（家事や子育てなど）に専念したかった」が39.4%と最も高く、次いで「2. 職場が育児休暇制度などを利用しづらい雰囲気であった」、「4. 仕事と家庭生活の両立が困難だった」が19.5%となっている。

性別による大きな差はみられない。

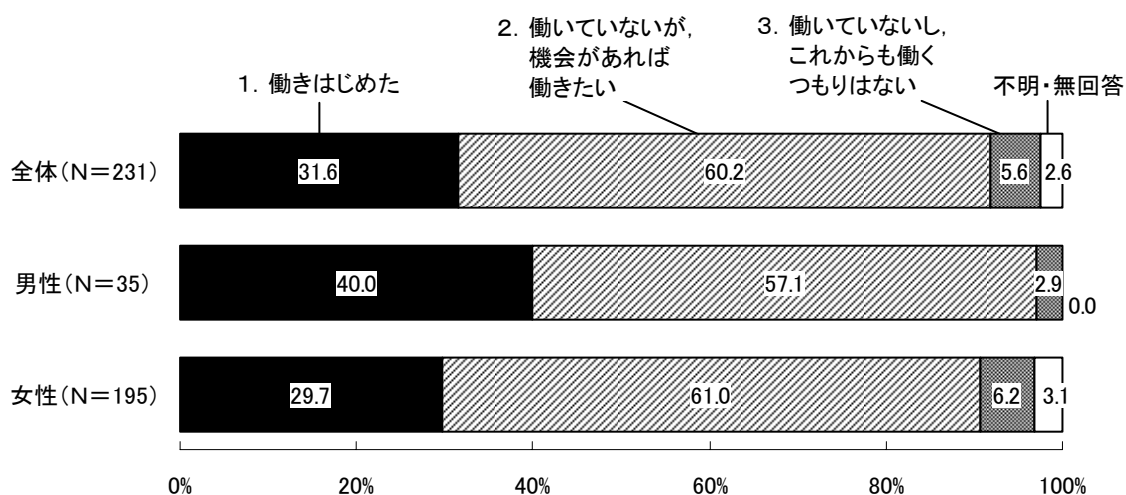


※結婚（入籍していない、いわゆる事実婚を含む）されている方で、問 30 で「1. 第1子出産を機に仕事をやめた」または「2. 第2子以降の出産を機に仕事をやめた」のどちらかを選んだ方の回答結果

問 30-2 仕事を辞めたあと、また働きはじめましたか。

問 30 で出産（配偶者の出産を含む）を機に仕事をやめた経験があると回答した方に、仕事を辞めたあと、また働きはじめたか聞いたところ、「1. 働きはじめた」が 31.6%、「2. 働いていないが、機会があれば働きたい」が 60.2%となっている。

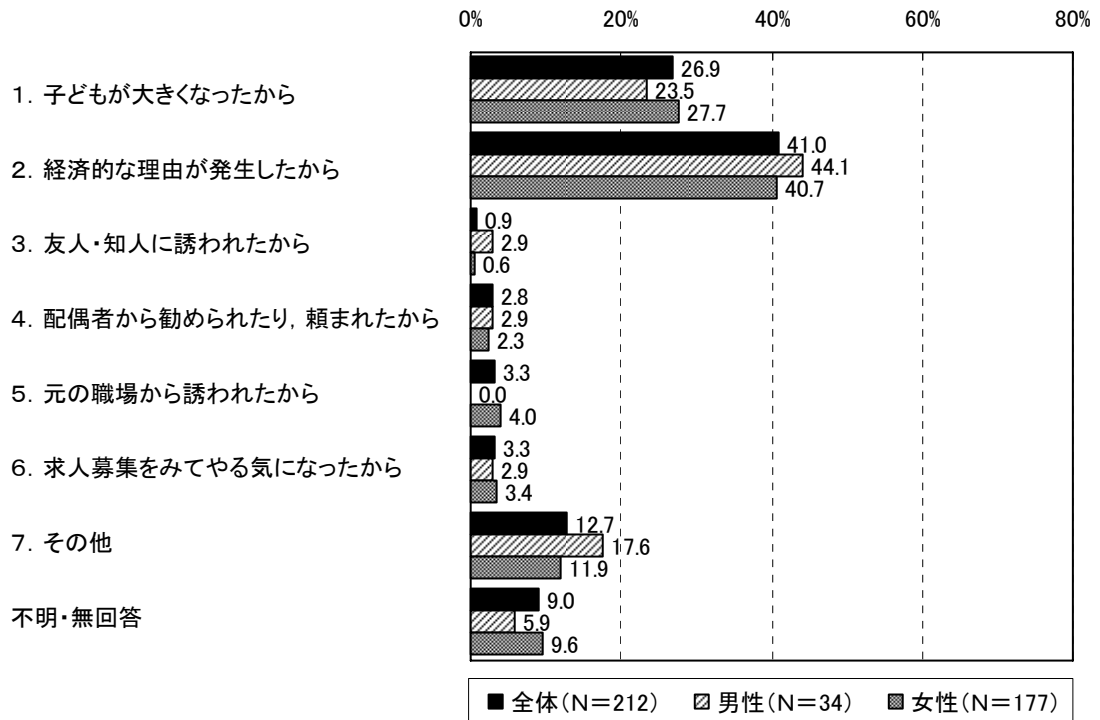
性別にみると、「1. 働きはじめた」については、「男性」が 40.0%に対し、「女性」が 29.7%と 10 ポイントの差が生じている。



※結婚（入籍していない、いわゆる事実婚を含む）されている方で、問 30 で「1. 第 1 子出産を機に仕事をやめた」または「2. 第 2 子以降の出産を機に仕事をやめた」のどちらかを選んだ方の回答結果

問 30-3 問 30-2 で「1」または「2」を選ばれた方におうかがいします。また働きはじめたきっかけは何でしたか。

さらに働きはじめた、または、働いていないが、機会があれば働きたいと回答した方に、働きはじめたきっかけについて聞いたところ、「2. 経済的な理由が発生したから」が 41.0%、「1. 子どもが大きくなったから」が 26.9%と高くなっている。

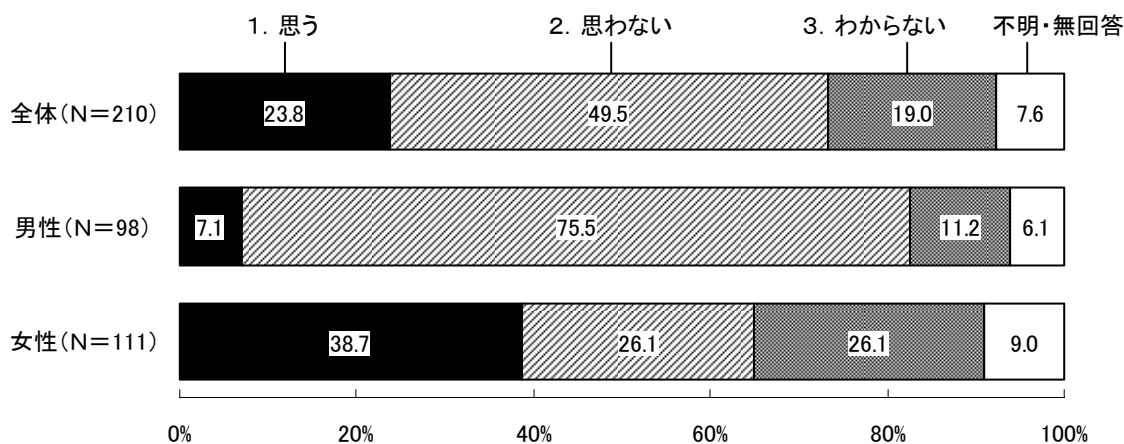


※結婚（入籍していない、いわゆる事実婚を含む）されている方で、問 30-2 で「1. 働きはじめた」または「2. 働いていないが、機会があれば働きたい」のどちらかを選んだ方の回答結果

問 30-4 **問 30 で「5」を選ばれた方におうかがいします。**あなたは、出産（配偶者の出産を含む）を機に仕事をやめようと思いませんか。

問 30 で出産をしていないと回答した方に、出産（配偶者の出産を含む）を機に仕事をやめようと思うか聞いたところ、やめようと「1. 思う」と回答した方が23.8%、「2. 思わない」と回答した方が49.5%となっている。

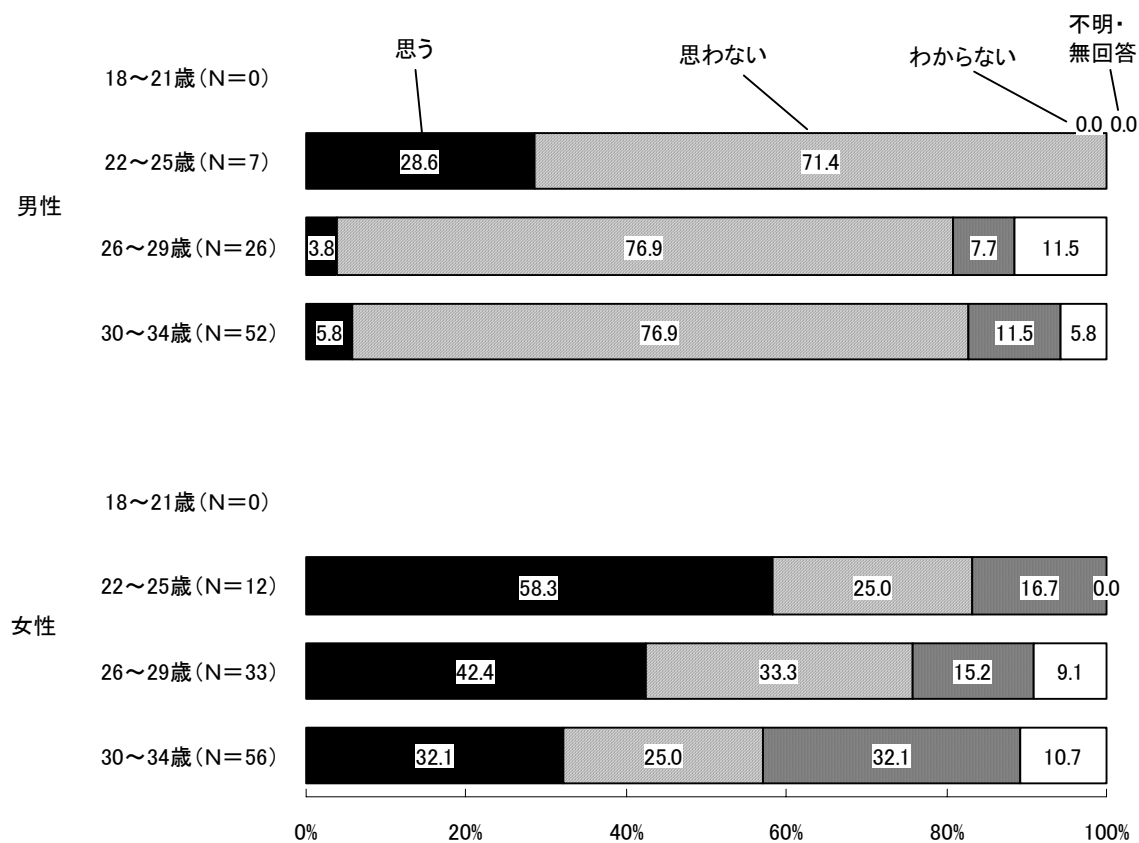
性別にみると、「1. 思う」と回答した方が、「男性」では約7%に対し、「女性」では約40%と傾向が異なっている。



※結婚（入籍していない、いわゆる事実婚を含む）されている方で、問 30 で「5. 出産をしていない」を選んだ方の回答結果

【性別×年齢別】

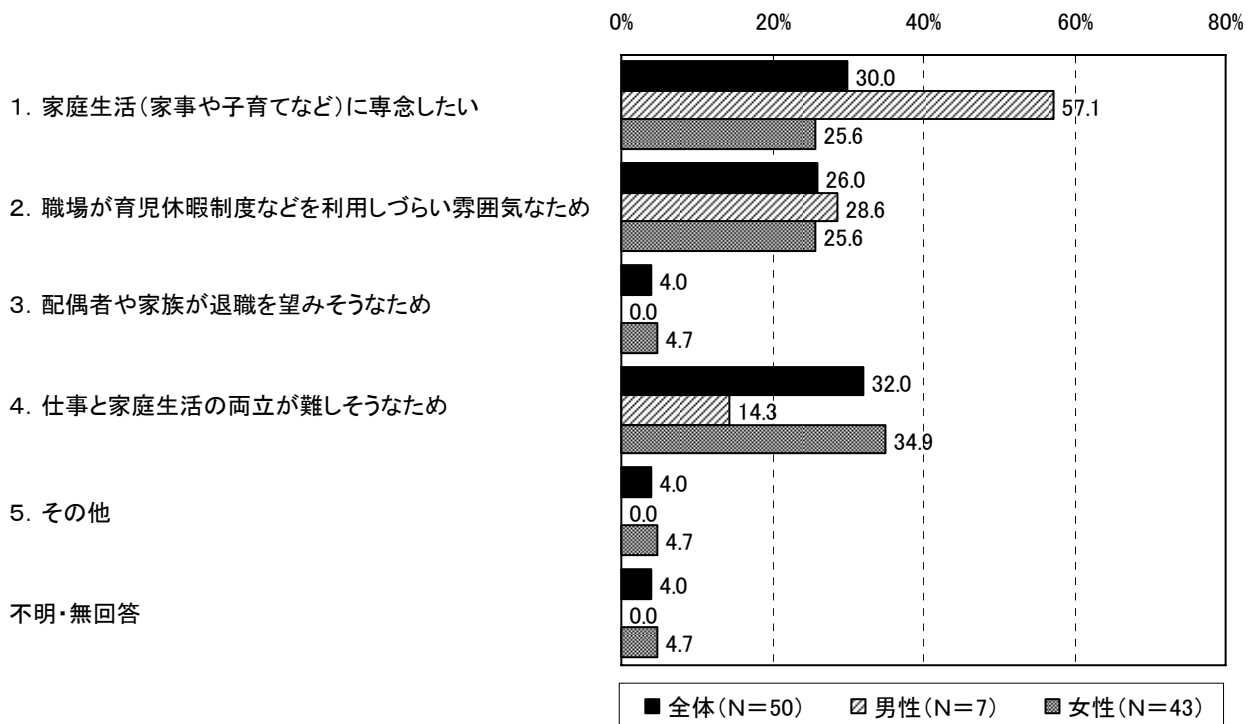
性別×年齢別にみると、「女性」では年齢が若いほうが「思う」の割合が高くなっている。



問 30-5 問 30-4 で「1」を選ばれた方におうかがいします。その理由は何ですか。

問 30-4 で出産（配偶者の出産を含む）を機に仕事をやめようと思うと回答した方に、その理由を聞いたところ、「4. 仕事と家庭生活の両立が難しそうのため」が32.0%と最も高く、次いで「1. 家庭生活（家事や子育てなど）に専念したい」が30.0%、「2. 職場が育児休暇制度などを利用しづらい雰囲気のため」が26.0%となっている。

性別にみると、「男性」では「1. 家庭生活（家事や子育てなど）に専念したい」が高く、「女性」では「4. 仕事と家庭生活の両立が難しそうのため」が高く、傾向が異なっている。

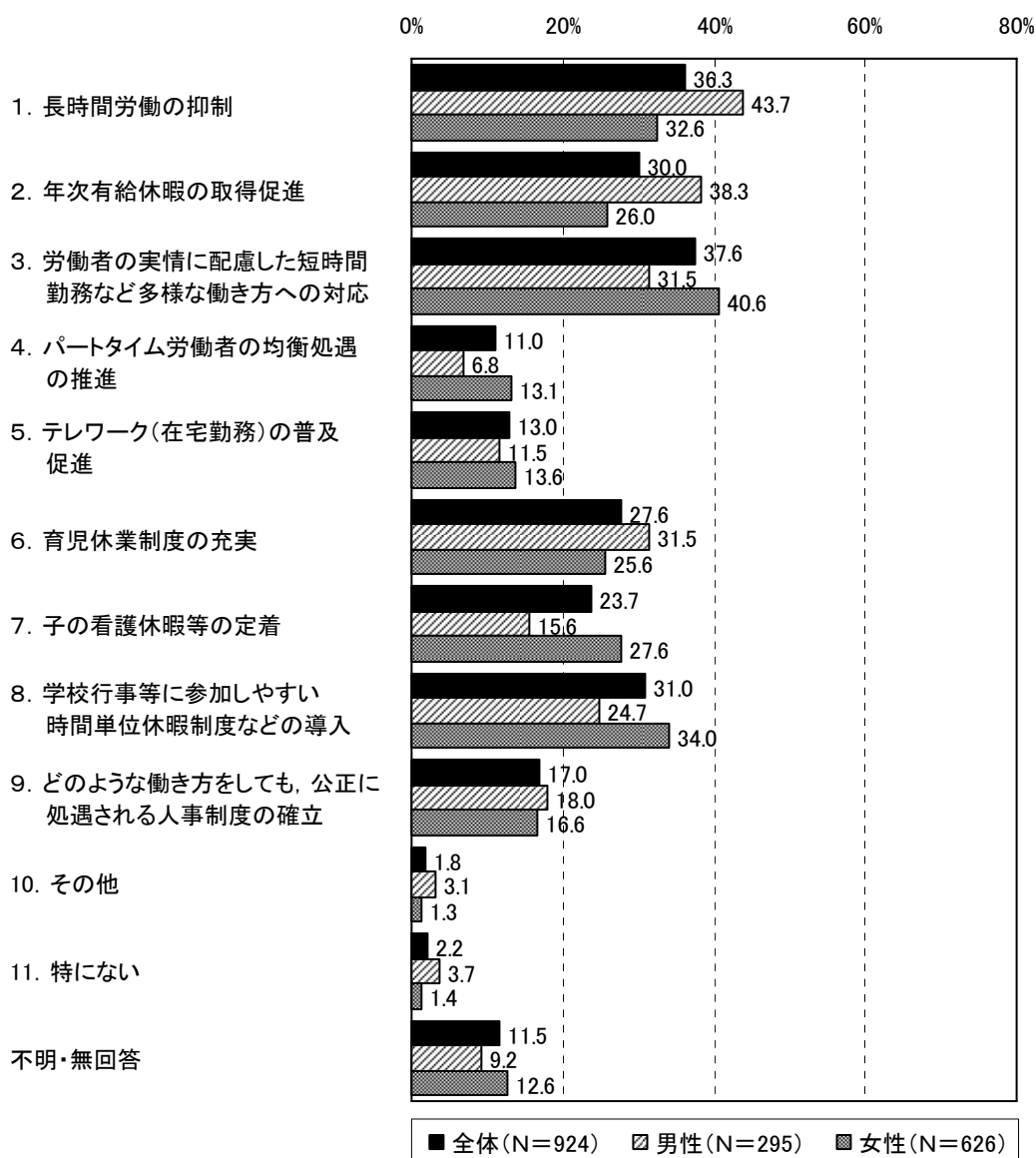


※結婚（入籍していない、いわゆる事実婚を含む）されている方で、問 30-4 で「1. 思う」を選んだ方の回答結果

問 31 仕事と生活の調和の実現のために、企業等にどんなことに取り組んでほしいと思いますか。（3つまで）

「3. 労働者の実情に配慮した短時間勤務など多様な働き方への対応」が 37.6%と最も高く、次いで「1. 長時間労働の抑制」が 36.3%、「8. 学校行事等に参加しやすい時間単位休暇制度などの導入」が 31.0%となっている。

性別にみると、「男性」では「1. 長時間労働の抑制」が高く、「女性」では「3. 労働者の実情に配慮した短時間勤務など多様な働き方への対応」が高く、異なる傾向となっている。また、「7. 子の看護休暇等の定着」「8. 学校行事等に参加しやすい時間単位休暇制度などの導入」については、「男性」より「女性」が約 10 ポイント高くなっている。



※結婚（入籍していない、いわゆる事実婚を含む）されている方のみの回答結果

【性別×子どもの有無別】

性別×子どもの有無別にみると、「男性」では「長時間労働の抑制」や「年次有給休暇の取得促進」の割合が高い一方、「女性」では「労働者の実情に配慮した短時間勤務など多様な働き方への対応」や「学校行事等に参加しやすい時間単位休暇制度などの導入」が高くなっている。

また、「学校行事等に参加しやすい時間単位休暇制度などの導入」「子の看護休暇等の定着」において、「男性」「女性」ともに「子どもはいない」より「子どもがいる」方が割合が高くなっている。

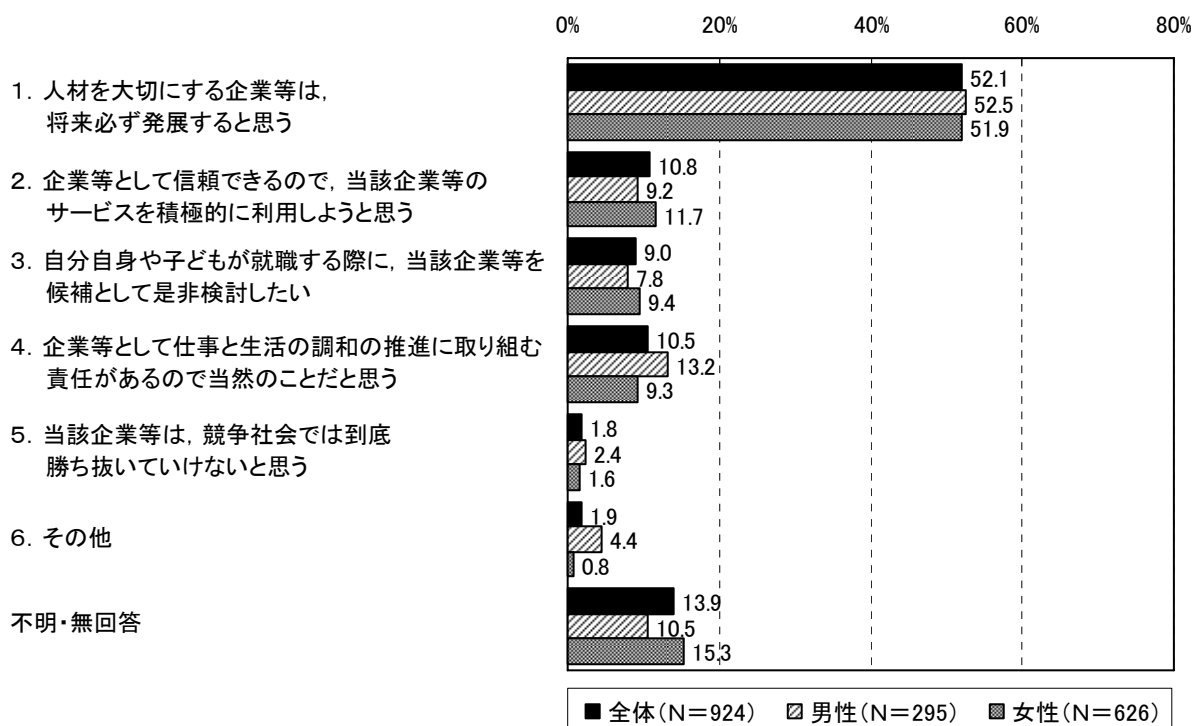
単位：％

	男性		女性	
	子どもがいる	子どもはいない	子どもがいる	子どもはいない
回答者数(人)	188	102	473	142
長時間労働の抑制	43.6	43.1	31.5	35.9
年次有給休暇の取得促進	34.6	45.1	25.2	30.3
労働者の実情に配慮した短時間勤務など多様な働き方への対応	29.3	34.3	39.5	43.0
パートタイム労働者の均衡処遇の推進	6.9	6.9	14.6	8.5
テレワーク(在宅勤務)の普及促進	10.1	14.7	13.1	15.5
育児休業制度の充実	31.9	30.4	25.2	28.2
子の看護休暇等の定着	19.7	7.8	30.0	20.4
学校行事等に参加しやすい時間単位休暇制度などの導入	28.7	15.7	39.1	17.6
どのような働き方をしても、公正に処遇される人事制度の確立	14.4	24.5	16.1	19.0
その他	3.2	2.9	1.5	0.7
特になし	3.2	4.9	1.5	1.4
不明・無回答	8.5	10.8	12.1	14.1

問 32 仕事と生活の調和を積極的に推進したり, 理解がある企業等についてどのように思いますか。

「1. 人材を大切にせる企業等は, 将来必ず発展すると思う」が52.1%と最も高く, 次いで「2. 企業等として信頼できるので, 当該企業等のサービスを積極的に利用しようと思う」が 10.8%, 「4. 企業等として仕事と生活の調和の推進に取り組む責任があるので当然のことだと思う」が 10.5%となっている。

性別による大きな差はみられない。

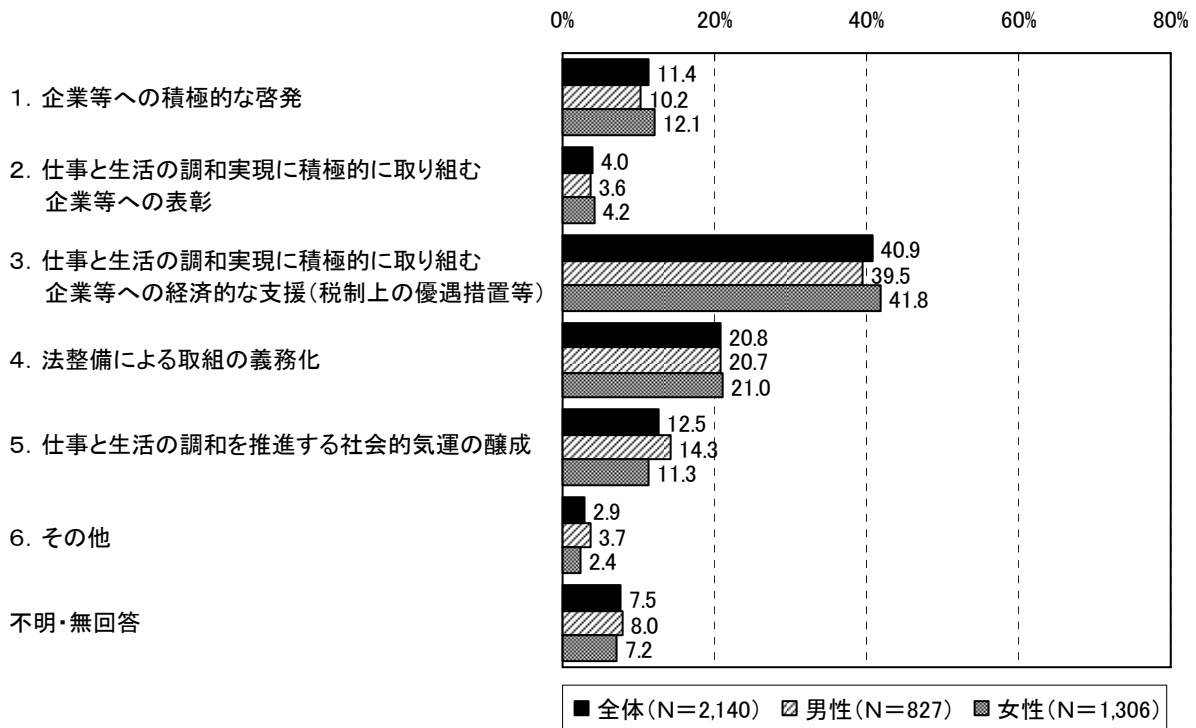


※結婚（入籍していない, いわゆる事実婚を含む）されている方だけの回答結果

問 33 仕事と生活の調和の実現のため、国や京都市にどのようなことを期待しますか。

「3. 仕事と生活の調和実現に積極的に取り組む企業等への経済的な支援(税制上の優遇措置等)」が40.9%と最も高く、次いで「4. 法整備による取組の義務化」が20.8%、「5. 仕事と生活の調和を推進する社会的気運の醸成」が12.5%となっている。

性別による大きな差はみられない。

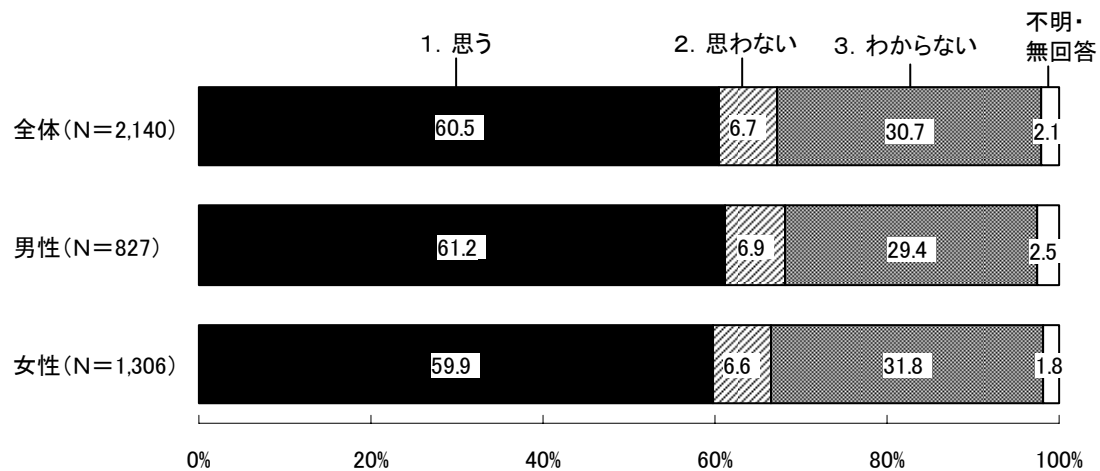


6 最後に

問 34 あなたは、結婚や出産後も京都市に住み続けたいと思いますか。

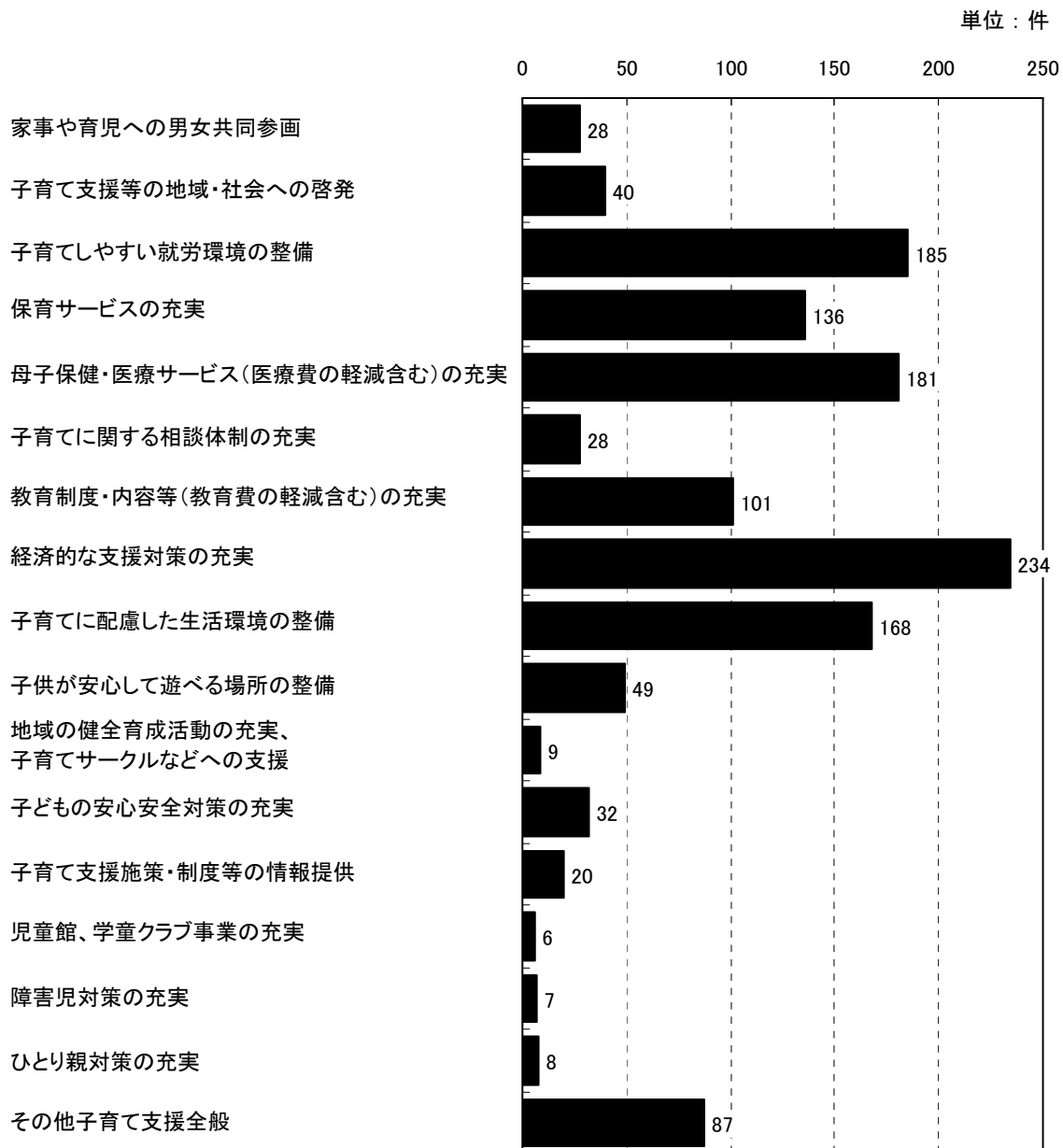
結婚や出産後も京都市に住み続けたいと「1. 思う」方が60.5%を占め、住み続けたいと「2. 思わない」方は6.7%にとどまっている。

性別による大きな差はみられない。



問 35 安心して子どもを産み、子どもを健やかに育てていくための行政の施策や、社会の制度のあり方について、特に望むことやご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

安心して子どもを産み、子どもを健やかに育てていくための行政の施策等について、「経済的な支援対策の充実」が17.7%と最も高く、次いで「子育てしやすい就労環境の整備」が14.0%、「母子保健・医療サービス（医療費の軽減含む）の充実」が13.7%と経済面や就労環境についての要望や意見が高くなっている。



資料編

京都市 結婚と出産に関する意識調査

調査ご協力のお願い

このたび京都市では、子育て支援の総合計画である新「京（みやこ）・子どもいきいきプラン」を見直し、新たな計画を策定することになりました。

この調査は、市民の皆様が結婚と出産に関する意識などをとおうかがいすることにより、一層進行する少子化について、社会全体でどのように対応していくべきなのかが検討し、新たな計画の策定やその後の施策の推進に活用することを目的として行う大切な調査です。今回、住民基本台帳及び外国人登録台帳から18歳から34歳までのの方々を無作為に抽出し、この調査票を送らせていただいております。回収した調査票は、すべて統計的に処理し、この調査の目的以外に使用することはありません。

お忙しいところ、誠に恐縮ですが、子どもが健やかに生まれ育つ社会の形成のために、是非、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、調査結果については、平成21年春頃に、児童家庭課ホームページで公表する予定です。また、新たな計画は、平成22年3月頃の策定を目指しています。

平成20年12月

京都市長 門川 大作

【ご記入にあたってのお願い】

- このアンケートのご回答は、原則として封筒の宛名ご本人にお願いいたします。何らかの事情により、本人の記入が難しい場合は、ご家族の方などが本人の立場で、意図を反映してご記入ください。
- ご回答は、選択肢に○をつけてお選びいただく場合と、数字などを記入いただく場合がございいます。
- 選択肢をお選びいただく場合、お選びいただく数が設問によって異なりますので注意書きに従ってください。また「その他」をお選びいただいた場合は、その後にある（ ）内に具体的な内容をご記入ください。
- 設問によってご回答いただく方が限られる場合がございますので、ごわり書きや失印に従ってご回答ください。特にことわりのない場合は、次の設問にお進みください。

ご記入が済みましたら、お手数ですが、同封の返信用封筒に入れて、切手を貼らずに12月26日（金）までにご投函ください。

ご回答いただく上でご不明な点、調査に対するお問い合わせは、次までお願いいたします。

京都市保健福祉局子育て支援部児童家庭課

電話：075-251-2380

FAX：075-251-2322

ホームページ：http://www.city.kyoto.lg.jp/hoken/fukushi/soshiki/8-3-1-O-O_1.html

1. あなたご自身のことをおうかがいします。

問1 あなたの性別と年齢をおうかがいします。（年齢は平成20年4月1日現在）

1. 男 性 2. 女 性 () 歳

問2 お住まいの区等はどちらですか。1つに○をつけてください。

- | | | |
|---------------------|-------------------|-----------------|
| 1. 北区 | 2. 上京区 | 3. 左京区 |
| 4. 中京区 | 5. 東山区 | 6. 山科区 |
| 7. 下京区 | 8. 南区 | 9. 右京区（京北地域除く） |
| 10. 右京区（京北地域） | 11. 西京区（洛西支所管内除く） | 12. 西京区（洛西支所管内） |
| 13. 伏見区（深草・醍醐支所管除く） | 14. 伏見区（深草支所管内） | 15. 伏見区（醍醐支所管内） |

問3 あなたの職業をおうかがいします。1つに○をつけてください。

- | | | |
|-------------|--------------|-------------|
| 1. 常勤（正社員等） | 2. パート・アルバイト | 3. 自営業 |
| 4. 在宅勤務・内職 | 5. 無職・家事専業 | 6. 大学生・大学院生 |

問4 あなたの最終学歴をおうかがいします。1つに○をつけてください。

- | | | | |
|---------|----------|-----------|--------------|
| 1. 中学校 | 2. 高等学校 | 3. 高等専門学校 | 4. 専門学校 専修学校 |
| 5. 短期大学 | 6. 4年制大学 | 7. 大学院 | 8. その他（ ） |

問5 同居しているご家族全員の総所得（世帯の年収）はいくらくらいですか。1つに○をつけてください。

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1. 200万円未満 | 2. 200万～300万円未満 |
| 3. 300万～400万円未満 | 4. 400万～500万円未満 |
| 5. 500万～700万円未満 | 6. 700万～1,000万円未満 |
| 7. 1,000万円以上 | |

問6 あなたを含めて、同居しているすべてのご家族について、あなたからみた続柄、職業、年齢、健康状態や心身の状況について、下記の選択肢番号でお答えください。年齢は、平成20年4月1日現在の年齢をご記入ください。

<記入例> あなたに、小学1年生で7歳の子がいて、健康状態、心身の状況がよい場合

続柄	職業等	年齢	健康状態	心身の状況
11	8	7	1	2

<記入欄>

続柄	職業等	年齢	健康状態	心身の状況

<選択肢>

【続柄】	1. 父	2. 母	3. 祖父	4. 祖母	8. 配偶者	12. その他 ()
	5. 兄	6. 姉	7. 本人	10. 妹	11. 子	
【職業等】	1. 常勤 (正社員等)	2. パート・アルバイト	3. 自営業	6. 大学生・大学院生	9. 幼稚園に通園	11. 認可外保育所に通園 ()
	4. 在宅勤務・内職	5. 無職・家事専業	8. 小学生	10. 保育所 (園)・児童館等～京 (みやこ)・ベビーハウス～に通園		
【健康状態】	1. 健康	2. どちらかといえば健康	3. あまり健康でない	4. 現在、病気療養中	5. 介護が必要な状態	
【心身の状況】	1. 心身に障がいがある	2. 心身に障がいは無い				

2. 少子化についてお考えをお願いします。

問7 少子化が社会に与える影響として、どのような問題点あるいは利点があると思いますか。あてはまるもの3つまでに○をつけてください。

- 若い労働力の不足により、経済の活性化や安定的な経済成長が見込めなくなる
- 現行の年金制度や医療保障制度が成り立たなくなる
- 現役世代の租税や社会保障負担が増大し、個人の就労意欲が衰え、経済活力が弱まる
- 地域に住む若い世代が減少し、地域の活気がなくなる
- 人口の減少により、様々な需要が減少し、産業が衰退する
- 人口の減少により、資源の消費が抑制され、環境問題の改善につながる
- 就労人口が減少し、女性や高齢者の社会進出の機会が増加する
- 女性の就労が促進され、男女が協力し合って生活や社会を築く風潮が強まる
- 行楽地や交通機関、交通網などのラッシュ緩和、住居事情の改善等により、まさに空間的な余裕がでる ()
- その他 ()
- 影響はない
- わからない

問8 出生率が低い主な原因は何だと思いますか。あてはまるもの3つまでに○をつけてください。

- 結婚して子育てをすること以外に、生きがいや価値観を見出す人が増えたから
- 子育てよりも仕事に生きがいを見出す人が増えたから
- 結婚年齢が高くなったから
- 出産・子育ては経済的負担が大きいため
- 仕事と子育ての両立支援体制が整っていないから
- 住宅や遊び場など、子育てに望ましい住環境が整っていないから
- 子育て支援サービスが十分でないから
- 地域の人手など、身近で子育てを支えてくれる人がいなくなったから
- 地球環境や社会の動向に対して、将来への不安を感じる人が増えているから
- その他 ()
- わからない

問9 あなたは、出生率の増加を必要と考えますか。1つに○をつけてください。

- 何としても増加させる必要がある
- 増加させたいがよい
- 増加させなくてもよい
- わからぬ

問10 以下の施策等について、少子化対策として効果があると思いますか。各項目につき1つに○をつけて下さい。

	かなり効果がある	少しは効果がある	あまり効果はない	全く効果はない	わからない
(1) 男女どもが育児休業を取得しやすい環境づくり	1	2	3	4	5
(2) 育児休業中の賃金保障の引き上げ	1	2	3	4	5
(3) 育児休業中の代替要員の確保	1	2	3	4	5
(4) 育児休業前後臨時の前払保障	1	2	3	4	5
(5) 育児休業期間の長期化・弾力化	1	2	3	4	5
(6) 保育所待機児童の解消	1	2	3	4	5
(7) 保育料の軽減	1	2	3	4	5
(8) 産休・育休後すぐに保育所に入所できる予約制度	1	2	3	4	5
(9) 長時間保育の拡充	1	2	3	4	5
(10) 職場内保育所の拡充	1	2	3	4	5
(11) 子どもが病気のときの看護休暇	1	2	3	4	5
(12) 病児・病後児の保育受入れ施設の拡充	1	2	3	4	5
(13) 親が病気のときに子どもを預けられる施設の整備	1	2	3	4	5
(14) 学童保育所待機児童の解消	1	2	3	4	5
(15) 労働時間の短縮	1	2	3	4	5
(16) 男性の育児・家事への参加の啓発	1	2	3	4	5
(17) 出産施設の入入れ体制の充実	1	2	3	4	5
(18) 妊婦健康診査費用の助成充実	1	2	3	4	5
(19) 分娩費用の助成充実	1	2	3	4	5
(20) 児童手当など子育て家庭への給付施策の充実	1	2	3	4	5
(21) 扶養控除の拡充など税制による優遇措置	1	2	3	4	5
(22) 子どもの教育費の軽減	1	2	3	4	5
(23) ゆとりある学校教育の推進	1	2	3	4	5
(24) 授乳室の確保など子育てで出かけやすいまちづくり	1	2	3	4	5
(25) 子どもの遊び場や子育てサークルの活動の確保	1	2	3	4	5
(26) 気軽に育児の相談ができる場の確保	1	2	3	4	5
(27) 地域の交流・支援のネットワークづくり	1	2	3	4	5
(28) 一時保育やベビーシッターなど、家庭での子育て支援策の整備	1	2	3	4	5
(29) 幼稚園での預かり保育の促進	1	2	3	4	5
(30) 男女の出会いの場づくりの支援	1	2	3	4	5
(31) 安価で良好な住居の供給	1	2	3	4	5
(32) 子育てで安全・快適に移動できる交通システムの整備	1	2	3	4	5

3. 結婚についておうかがいします。

問11 あなたは結婚（入籍していないいわゆる事実婚を含みます）されていますか。1つに○をつけてください。

1. 結婚している 2. 結婚していたことはあるが、離（死）別した 3. 結婚していない

問11-1～問11-3は問11で「2」、「3」を選ばれた方におうかがいします。

問11-1 今後、結婚したいと思えますか。1つに○をつけてください。

1. すぐにでもしたい 2. いずれはしたい 3. 結婚したくない

問11-2 あなたが結婚したいと思う年齢はどれですか。1つに○をつけてください。

1. 18～19歳 2. 20～24歳 3. 25～29歳
4. 30～34歳 5. 35歳以上 6. わからない

問11-3 結婚していない、あるいは、結婚したくない理由をおうかがいします。あてはまるもの3つまでに○をつけてください。

1. まだ若いから 2. 必要性を感じないから
3. 仕事に集中したいから 4. 趣味に集中したいから
5. 独身生活のほうが気楽で自由だから 6. 結婚したい異性にめぐり逢えないから
7. 異性との付き合いが苦手だから 8. 周囲の同意が得られない(と思う)から
9. 結婚資金がないから 10. 結婚後の経済的な生活基盤に不安があるから
11. 前回の結婚でもう十分だから 12. その他()

問12～問16までは、既婚・未婚にかかわらず想定でお答えください。

問12 結婚生活は独身生活にはない利点があると思いますか。1つに○をつけてください。

1. 利点があると思う 2. 利点はないと思う 3. わからない

問12-1 問12で「1」を選ばれた方におうかがいします。具体的な利点はどんなことが考えられますか。あてはまるもの3つまでに○をつけてください。

1. 子どもを(産み)育てられる 2. 愛する人と一緒に暮らせる
3. 精神的な安らぎの場が得られる 4. 経済的に余裕がある
5. 社会的な信用が得られる 6. 親や周囲からの期待にこたえられる
7. 性的な充足が得られる 8. その他()

問13 独身生活に結婚生活にはない利点があると思えますか。1つに○をつけてください。

1. 利点があると思う 2. 利点はないと思う 3. わからない

問13-1 問13で「1」を選ばれた方におうかがいします。具体的な利点はどんなことが考えられますか。あてはまるもの3つまでに○をつけてください。

1. 行動や生き方が自由にてできる 2. 異性との交際が自由にてできる
 3. 友人などと広い人間関係が保てる 4. 職業を持ち社会とのつながりができる
 5. 現在の家族とのつながりが保てる 6. 経済的に余裕がある
 7. 家族を責む責任がなくて楽である 8. その他()

問14 独身生活を続けるとした場合、どんな心配や不安がありますか。あてはまるもの3つまでに○をつけてください。

1. 子どもを持たない 2. 老後がひとり不安
 3. 精神的な安らぎの場が得られない 4. 経済的に不安
 5. 親や周囲からの期待にこたえられない 6. その他()
 7. 特に心配や不安はない

問15 結婚を考えると、どんな心配や不安がありますか。あてはまるもの3つまでに○をつけてください。

1. 自分の仕事のこと 2. 自分の家族のこと
 3. 相手の家族や親戚とのつきあい 4. 結婚後の生活費のこと
 5. 結婚後のすまいのこと 6. 結婚後の家事などのこと
 7. 出産や子どもを持つこと 8. 結婚相手の相性のこと
 9. その他() 10. 特に心配や不安はない

問16 結婚生活を始めたとした場合、失いたくないものは何ですか。最も失いたくないものの1つだけに○をつけてください。

1. 現在の仕事 2. 現在の住居 3. 現在の生活水準
 4. 現在の趣味 5. 自分の姓 6. 自由な時間
 7. 特になし 8. その他()

問17 家族や家庭に関する次のような考え方について、どう思われますか。各項目につき1つに○をつけてください。

結婚についての考え方	そう思う	どちらかと言えばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからぬ
(1) 結婚は個人の自由なので、してもしなくてもよい	1	2	3	4	5
(2) 夫婦別姓でもかまわない	1	2	3	4	5
(3) 結婚したら、女性は家事や育児に専念すべきである	1	2	3	4	5
(4) 結婚しても、必ずしも子どもを持たなくてもよい	1	2	3	4	5
(5) 結婚しないで子どもを持つてもかまわない	1	2	3	4	5
(6) 子どものことも大事だが、自分自身の生活も大事にしたい	1	2	3	4	5
(7) 乳幼児期の子どもは、保育所などに預けず、親が全面的に子育てを行うべきだ	1	2	3	4	5
(8) 男女は家事や育児を平等に分担すべきだ	1	2	3	4	5
(9) 仕事よりも家庭や家族の方が大切だ	1	2	3	4	5
(10) 両親等から子育ての手助け・支援を受けたい	1	2	3	4	5

問18 あなたのご両親や友人などについて、あなたはどうか思われますか。各項目につき1つに○をつけてください。

周囲の人の結婚・子育ての評価	とてもよい	よい	まあよい	まあよい	よい	あまりよい	あまりよい	よくない	よくない
(1) 子どもの頃、父はよく家事をしていた	1	2	3	4	5	6	7	8	9
(2) 両親のような夫婦関係をうらやましく思う	1	2	3	4	5	6	7	8	9
(3) 結婚しているまわりの友人をみると、幸せそうだと思う	1	2	3	4	5	6	7	8	9
(4) 同年代の友人やきょうだいに、子どもを持っている人が多い	1	2	3	4	5	6	7	8	9
(5) 周囲の人やマスコミから、結婚や出産・子育てはたいへんだと聞くことが多い	1	2	3	4	5	6	7	8	9

問 19 最近、結婚しない人や晩婚の人が増えている理由・原因として次のようなことが考えられますが、あなたはどうか思われますか。各項目につき1つに○をつけてください。

	そう思う	どちらか と言えは そう思う	あまり そう 思わない	そう 思わない	わから ない
(1) 異性と知り合うゆとりや機会が少ないから	1	2	3	4	5
(2) ひどいでも十分に充実した生活が送れるから	1	2	3	4	5
(3) 束縛されずに自由に生きていきたい人が増えてきたから	1	2	3	4	5
(4) 対人関係がわずらわしく、苦手な人が増えているから	1	2	3	4	5
(5) 結婚生活の失敗を恐れるから	1	2	3	4	5
(6) 地球環境や社会の動向に対して不安を感じるから	1	2	3	4	5
(7) フリーターなど所得が低い者が増えているから	1	2	3	4	5
(8) 女性の高収入化が進んでいるから	1	2	3	4	5
(9) 籍から自立できていない人が増えているから	1	2	3	4	5
(10) 子どもがほしいと思わない人が増えているから	1	2	3	4	5

問 20 結婚する機会を増やすため、行政がなんらかの支援策を実施することについてどう思われますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 個人の問題なので、行政が支援策を実施するのはおかし
2. 個人の問題ではあるが、行政が支援を行ってもかまわない
3. 結婚しない人が増えれば少子化が進み個人の問題にとまらないから、行政が積極的に支援すべきである
4. その他 ()
5. わからない

問 21 結婚の支援のため、行政が実施することが望ましい政策はどのような内容が考えられますか。最も望ましいと考えられるもの1つに○をつけてください。

1. 結婚したい男女の出会いの場づくり
2. 企業等の雇用主に働きかけ、労働時間の短縮を普及させる
3. 企業等の雇用主に正社員雇用の雇用を働きかける
4. 男女が共に社会参加や自己実現できる意識改革を推進する
5. 男性の家事・育児への参加を推進する学習の場などを増やす
6. 子育てしやすい社会環境づくり
7. その他 ()
8. 持たない

4. 出産についておうかがいします。

問 22 あなたは何人のお子さんがいらっしゃいますか。1つに○をつけてください。

1. 1人
2. 2人
3. 3人
4. 4人以上
5. 子どもはいない(予定はない)

問 23 あなたが、できれば持たない「理想」の子どもの数は何人ですか。1つに○をつけてください。

1. 1人
2. 2人
3. 3人
4. 4人以上
5. 多ければ多いほうがいい
6. 欲しくない

問 24 現実にいらっしゃる子どもの数、もしくは持とうと予定されている子どもの数は理想と比べていかがですか。1つに○をつけてください。

1. 多い
2. 同じ
3. 少ない

問 25. 問 26 は問 23 で「6」、または問 24 で「3」を選ばれた方におうかがいします。

問 25 子どもが欲しくない理由、実際には理想より少なくなりそうな理由はどんなことが考えられますか。あてはまるもの3つまでに○をつけてください。

1. 結婚するつもりがないから
2. 仕事や趣味を優先したいから
3. 妊娠・出産が大変だから
4. 育児が大変だから
5. 育児と仕事の両立が困難だから
6. 子どもが好きではないから
7. 健康上の理由で妊娠・出産が困難だから
8. 育児に家族の協力が得られないから
9. 保育サービスなどの社会的支援体制が不十分だから
10. 出産・育児・教育にお金がかかるから
11. 自然環境・社会環境が良くないから
12. 定年退職までに子どもが成人してほしいから
13. 未婚の生活を大切にしたいから
14. 配偶者・パートナーが子どもを欲しがらないから
15. その他 ()

問 26 以下の項目について、もし十分に条件が満たされていたら、子どもをもったり、理想の子どもの数に近づいていたりと思いませんか。これだけあればできるかもしれないと思われれば最低限必要な項目に○をつけてください。

1. 育児休業制度の充実
2. 育児・家事に関する家族等のバックアップ
3. 職場における理解や支援
4. 地域や社会全体での子育ての応援体制
5. 職場内保育所の整備
6. 長時間保育の実施
7. 待機することなく入所できる保育所
8. 待機することなく入所できる学童保育所
9. 子どもが病気やケガのときに預けられる施設の充実
10. 子どもの安心安全な活動場所の確保
11. 出席費用の負担軽減措置
12. 保育料の軽減措置
13. その他の子育て・教育費用の負担軽減措置
14. その他 ()

問27 **すべての方におうかがいします。**あなたは出産後の妻家との理想的な距離についてどう思われていますか。1つに○をつけてください。

1. 同居したい
2. 近くに住みたい
3. 近くに住みたくない
4. 両親はともに他界している

問27-1 **問27で「2」を選ばれた方におうかがいします。**妻家との理想的な距離は、車で何分くらいですか。

() 分

5. 仕事と生活の調和の推進（※ワークライフバランス）についておうかがいします。

※ワークライフバランス…「仕事」が「仕事以外の生活」という二者選択ではなく、「仕事」と「仕事以外の生活」（子育てや親の介護、地域活動など）との調和が取れている状態です。

問28 あなたご自身やご家族は仕事と生活の調和が図れていると思いますか。1つに○をつけてください。

1. 図れている
2. 図ろうとしているがあまり図れていない
3. 全く図れていない
4. 考えたこともない

問28-1 **問28で「2」または「3」を選ばれた方におうかがいします。**図れていない理由は何ですか。1つに○をつけてください。

1. 仕事が忙しく、個人の生活のために仕事を中途にして帰省するのは容易でない
2. 自分の私生活より仕事の方が大切だと思うから
3. 仕事以外にやるべき（やりたい）ことがないから
4. その他（)

問29～問32 は結婚（入籍していない、いわゆる事実婚を含みます）されている方におうかがいします。

問29 結婚の前後で、仕事の状況はどのように変わりましたか。本人と配偶者それぞれ1つに○をつけてください。

<本人>

1. 結婚前の仕事を続けた
2. 仕事を辞めて働き続けた
3. 新たに就職した
4. 仕事をやめた
5. もともと仕事はしていない
6. その他（)

<配偶者>

1. 結婚前の仕事を続けた
2. 仕事を辞めて働き続けた
3. 新たに就職した
4. 仕事をやめた
5. もともと仕事はしていない
6. その他（)

問30 あなたは、出産（配偶者の出産を含む）を機に仕事をやめた経験がありますか。1つに○をつけてください。

1. 第1子出産を機に仕事をやめた
2. 第2子以降の出産を機に仕事をやめた
3. 出産を機に仕事をやめていない
4. 出産の時点では仕事をしていたがなかった
5. 出産をしていない

(→ 問30-1、2へ)

(→ 問30-4へ)

問30で「1」、「2」を選ばれた方は問30-1、2にもご記入ください。

問30-1 なぜ仕事をやめたのですか。1つに○をつけてください。

1. 家庭生活（家事や子育てなど）に専念したかった
2. 職場が育児休暇制度などを利用しづらい雰囲気であった
3. 配偶者や家族が退職を望んだ
4. 仕事と家庭生活の面立が困難だった
5. その他（)

問30-2 仕事を辞めたあと、また働きはじめましたか。1つに○をつけてください。

1. 働きはじめた
2. 働いていないが、機会があれば働きたい
3. 働いていないし、これからは働くつもりはない

問30-3 **問30-2で「1」または「2」を選ばれた方におうかがいします。**また働きはじめたきっかけは何でしたか。1つに○をつけてください。

1. 子どもが大きくなっただから
2. 経済的な理由が発生したから
3. 友人・知人に誘われたから
4. 配偶者から勧められたり、頼まれたから
5. 元の職場から誘われたから
6. 求人募集をみてやる気になったから
7. その他（)

問 30-4 問 30 で「5」を選ばれた方におうかがいします。あなたは、出産（配偶者の出産を含む）を機に仕事をやめようと思いませんか。1つに○をつけてください。

1. 思う 2. 思わない 3. わからない

問 30-5 問 30-4 で「1」を選ばれた方におうかがいします。その理由は何かですか。1つに○をつけてください。

1. 家庭生活（家事や子育てなど）に専念したい
 2. 職場が育児休暇制度などを利用しづらい雰囲気のため
 3. 配偶者や家族が退職を望みそうなため
 4. 仕事と家庭生活の両立が難しそうなため
 5. その他（ ）

問 31 仕事と生活の調和の実現のために、企業等にどんなことに取り組んでほしいと思いませんか。3つまでに○をつけてください。

1. 長時間労働の抑制
 2. 年次有給休暇の取得促進
 3. 労働者の実情に配慮した短時間勤務など多様な働き方への対応
 4. パートタイム労働者の均等処遇の推進
 5. テレワーク（在宅勤務）の普及促進
 6. 育児休業制度の充実
 7. 子の看護休暇等の定着
 8. 学校行事等に参加しやすい時間単位休暇制度などの導入
 9. どのような働き方をしても、公正に処遇される人事制度の確立
 10. その他（ ）
 11. 持たない

問 32 仕事と生活の調和を積極的に推進したり、理解がある企業等についてどのような思いませんか。1つに○をつけてください。

1. 人材を大切にしている企業等は、将来必ず発展すると思う
 2. 企業等として信頼できるので、当該企業等のサービスを積極的に利用しようと思う
 3. 自分自身や子どもが就職する際に、当該企業等を候補として是非検討したい
 4. 企業等として仕事と生活の調和の推進に取り組む責任があるのが当然のことだと思う
 5. 当該企業等は、競争社会では到底勝ち抜いていけないと思う
 6. その他（ ）

問 33 仕事と生活の調和の実現のため、国や京都市にどのようなことを期待しますか。1つに○をつけてください。

1. 企業等への積極的な啓発
 2. 仕事と生活の調和実現に積極的に取り組む企業等への表彰
 3. 仕事と生活の調和実現に積極的に取り組む企業等への経済的な支援（税制上の優遇措置等）
 4. 法整備による取組の義務化
 5. 仕事と生活の調和を推進する社会的気運の醸成
 6. その他（ ）

6. 最後におうかがいします。

問 34 あなたは、結婚や出産後も京都市に住み続けたいと思いませんか。1つに○をつけてください。

1. 思う 2. 思わない 3. わからない

問 35 安心して子どもを産み、子どもを健やかに育てていくための行政の施策や、社会の制度のあり方について、特に望むことやご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

お忙しいところ、アンケートにご協力いただきありがとうございます。

この調査票は、12月26日（金）までに、
 同封の返信用封筒に入れて、ポストに投函してください。

子どもを共に育む京都市民憲章



わたくしたちは、

- 1 子どもの存在を尊重し、かけがえのない命を守ります。
- 1 子どもから信頼され、模範となる行動に努めます。
- 1 子どもを育む喜びを感じ、親も育ち学べる取組を進めます。
- 1 子どもが安らぎ育つ、家庭の生活習慣と家族の絆きずなを大切にします。
- 1 子どもを見守り、人と人が支え合う地域のつながりを広げます。
- 1 子どもを育む自然の恵みを大切にし、社会の環境づくりを優先します。

平成 19 年 2 月 5 日（育児ニコニコ笑顔の日）制定

3 月 13 日 京都市会が憲章を積極的に推進する決議

京都市 結婚と出産に関する意識調査 【結果報告書】

発行年月 平成 21 年 6 月

京都市保健福祉局子育て支援部児童家庭課

〒604-0954

京都市中京区御池通柳馬場東入東八幡町 579 番地 京都御池創生館 6 階

電話：075-251-2380 FAX：075-251-2322

http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/soshiki/8-3-1-0-0_1.html

京都市印刷物 第 2 1 3 0 3 8 号



